

一級町道諸木鶴田線道路改良事業に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書

鳥取県西伯郡会見町

越敷山遺跡群

荻名第3遺跡

2000

財團法人 鳥取県教育文化財団

一級町道諸木鶴田線道路改良事業に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書

鳥取県西伯郡会見町

越敷山遺跡群

荻名第3遺跡

2000

財團法人 鳥取県教育文化財団



荻名第3遺跡全景（南東から）



SI04遺物出土状況（南東から）

序

鳥取県の西部にそびえたつ大山はその美しさから「伯耆富士」と呼ばれ、古来より伯耆地方の人々の暮らしを見守ってきました。その西に位置する会見町は自然豊かな美しい町であり、ここからは大山の四季折々の情緒ある姿を眺めることができます。そのような自然環境を活かして、昨年、越敷野地区に県立フラワーパーク「とっとり花回廊」が開園するなど、さらなる発展が期待されております。

さらにこの地は古くからの遺跡の宝庫としても知られており、古代人の生活の様子や、伯耆と出雲を結ぶ要所として栄えたことを物語る、貴重な遺跡、遺物が数多く存在しております。そして今回の発掘調査も、弥生～古墳時代の集落跡である越敷山遺跡群を眺めながらの調査となりました。

このような遺跡地帯において、町道改良工事によって失われる遺跡を記録保存するために、当財団では平成11年度に鳥取県の委託を受け、発掘調査を実施しました。その結果、弥生時代の住居跡を始め数多くの遺構・遺物が発見されました。これらは当時の越敷野周辺の生活環境、そして西伯耆一帯の弥生時代の様子を知るうえで、貴重な資料になるものと思われます。

今日、県民の埋蔵文化財に対する関心は高まってきております。本報告書がそのような県民の関心に応え、さらに認識を深める一助となると共に、教育及び学術研究のための資料として、広く御活用いただければ幸いであります。

最後になりましたが、発掘調査に際しまして多大な御理解と御協力をいただきました地元の皆様を始め、御指導いただきました方々、鳥取県土木部など関係各位に対し、心から感謝すると共に厚く御礼を申し上げます。

平成12年3月

財団法人 鳥取県教育文化財団

理事長 有田博充

例 言

1. 本報告書は「一級町道諸木鶴田線道路改良事業に係る埋蔵文化財発掘調査」として平成11年度に実施した、埋蔵文化財発掘調査の記録である。
 2. 本発掘調査は下記に所在する遺跡を対象として実施された。

鳥取県西伯都会見町萩名字天野490、491、495～499、501-1、503、504、505-1・2、507-1・2、507-6～8（以上1区）、字上ヶ市247、249、250（以上2区）、字上ナル516、517-1、522-2（以上3区）
 3. 本報告書における標高値は海拔を、方位、座標値は国土座標第V系を用いた。
 4. 本報告書に掲載した挿図1、挿図50は、会見町役場から提供された1/5,000会見町全図に越敷山遺跡群調査報告書の付図を合成したものであり、挿図3には国土地理院発行の1/50,000地形図「米子」を使用した。
 5. 本発掘調査にあたっては、調査指導を元島根大学教授の田中義昭先生に依頼した。
 6. 本発掘調査の実施にあたり、航空写真撮影と基準点測量をそれぞれ専門業者に委託した。
 7. 地形測量及び遺構の実測は調査員が行った。
 8. 遺物の実測は整理員が行った。
 9. 掲載図面は調査員が作成したものを整理員が清書を行った。
 10. 遺構の写真は調査員が撮影した。
 11. 遺物の写真撮影は奈良国立埋蔵文化財研究所の牛鶴 茂氏、杉本和樹氏に依頼し、調査員が補佐にあたった。
 12. 発掘調査によって作成された記録類は鳥取県埋蔵文化財センター、出土遺物は会見町教育委員会にそれぞれ保管されている。
 13. 本報告書の作成は調査員の協議に基づいて執筆及び編集し、文責は目次に記した。
 14. 現地調査および報告書の作成にあたっては関係各機関を始め、多くの方々からのご指導、ご教示およびご支援をいただいた。ご芳名を記して深謝の意を表す。(敬称略、順不同)

稻田 豊、新井宏則、橋口妙子、岡田竜平、岸本浩忠、佐伯純也、中川 寧、福宜田佳男、石崎善久、
藤井 整、福島孝行、鈴木篠美、遠藤勝壽、村上恭通

凡例

1. 本報告書において採用した遺構の略称は以下のとおりである。
S I : 積石住居跡 S B : 捕立柱建物跡 S D : 溝状遺構 S K : 土坑状遺構
S S : 段状遺構 P : ピット
 2. 調査時と報告時の遺構の名称は、一部の遺構とピットを除き同一である。詳しくは第3章を参照のこと。
 3. 遺構図中の遺物の出土位置を、土器は●、石器・石製品は▲、鉄器は■で示す。
 4. 遺構、遺物実測図に用いたスクリーントーンはそれぞれ以下のものを表す。
5. 赤色顔料 ■■■■■ 磨面・砥石使用面 ■■■■■ 敷痕 ■■■■■ 焼土面 ■■■■■ 貼り床・埋め戻し ■■■■■
 6. 石器実測図に用いた矢印は敷痕・砥石使用面の範囲をあらわす。
 7. 遺物は土器、石器・石製品、鉄器、金属製品の3種に分け、それぞれ通し番号を付けた。土器は番号のみ、石器・石製品は番号の頭にSを、鉄器・金属製品は番号の頭にFを付けている。
 8. 遺物実測図のうち、床面出土のものには番号の前にドット(●)を打っている。
 9. 調査時の获名第3遺跡の略称はOG 3とし、遺物の注記に使用している。
 10. 文章中で触れる土器型式名および年代は越後山遺跡群土器編年を参考にする。

目 次

序

例言

凡例

目次

第1章 調査の経緯

第1節 発掘調査に至る経緯	(柴田)	1
第2節 調査の経過と方法	(家塚)	1
第3節 調査体制	(柴田)	2

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境	(柴田)	3
第2節 歴史的環境	(柴田)	4

第3章 調査の成果

第1節 遺跡の概要	(家塚)	7
第2節 堅穴住居跡	(家塚)	13
第3節 掘立柱建物跡	(柴田)	43
第4節 土坑状遺構	(柴田)	52
第5節 溝状遺構	(柴田)	55
第6節 段状遺構	(柴田)	55
第7節 ピット	(家塚)	56
第8節 遺構外出土遺物	(家塚)	57

第4章 まとめ	(家塚、柴田)	71
---------------	---------	----

図版

報告書抄録

挿図目次

挿図 1	遺跡周辺地形図	viii
挿図 2	遺跡位置図	3
挿図 3	周辺遺跡図	5
挿図 4	調査前地形図	8, 9
挿図 5	遺構配置図	10, 11
挿図 6	SI01遺構図	14
挿図 7	SI01変遷図	15
挿図 8	SI01出土遺物実測図	15
挿図 9	SI02遺構図	16
挿図10	SI02変遷図	16
挿図11	SI02出土遺物実測図	17
挿図12	SI03, 06遺構図	20, 21
挿図13	SI03-a, b遺構図	22
挿図14	SI03変遷図	22
挿図15	SI03, 06出土遺物実測図	23
挿図16	SI03, 06遺物出土状況図	24
挿図17	SI04遺構図	25
挿図18	SI04出土遺物実測図 (土器、北西側)	26
挿図19	SI04出土遺物実測図 (土器、北東側)	27
挿図20	SI04出土遺物実測図 (土器、南東側)	28
挿図21	SI04出土遺物実測図 (土器、南西側)	29
挿図22	SI04出土遺物実測図 (石器)	30
挿図23	SI04遺物出土状況図	31
挿図24	SI05遺構図	32
挿図25	SI05遺物出土状況図	33
挿図26	SI05出土遺物実測図	33
挿図27	SI07遺構図	36
挿図28	SI07変遷図	37
挿図29	SI07出土遺物実測図	37
挿図30	SI08遺構図	38
挿図31	SI08出土遺物実測図	39
挿図32	SI09遺構図	40
挿図33	SI09変遷図	40
挿図34	SI09出土遺物実測図	41
挿図35	SB20, 25遺構図	44
挿図36	SB03, 04, 09遺構図	45
挿図37	SB02, 12, 16, 17, 22, 23遺構図	46
挿図38	SB05, 06, 10, 13, 19, 26遺構図	47
挿図39	SB01, 07, 08, 14, 21, 27遺構図	48
挿図40	SB11, 15, 18, 24遺構図	49
挿図41	SK01, 02, 04遺構図	52
挿図42	SK06, 11, 12遺構図	53
挿図43	SK15, SD16遺構図, SK出土遺物実測図	54
挿図44	SS01遺構図	55
挿図45	ピット内、 遺構外出土遺物実測図	56
挿図46	遺構外出土遺物実測図	57
挿図47	SI05に類似する 方形竪穴住居跡	72
挿図48	掘立柱建物跡タイプ別分布図	75
挿図49	荻名第3遺跡変遷図	76
挿図50	越敷山IV期の集落分布図	78

挿表目次

挿表1 新旧遺構名対照表	12	挿表15 ピット一覧表(3)	60
挿表2 SI01ピット一覧表	18	挿表16 ピット一覧表(4)	61
挿表3 SI02ピット一覧表	18	挿表17 ピット一覧表(5)	62
挿表4 SI03ピット一覧表	34	挿表18 ピット一覧表(6)	63
挿表5 SI04ピット一覧表	34	挿表19 ピット一覧表(7)	64
挿表6 SI05ピット一覧表	34	挿表20 土器観察表(1)	65
挿表7 SI06ピット一覧表	35	挿表21 土器観察表(2)	66
挿表8 SI07ピット一覧表	35	挿表22 土器観察表(3)	67
挿表9 SI08ピット一覧表	35	挿表23 土器観察表(4)	68
挿表10 SI09ピット一覧表	42	挿表24 土器観察表(5)	69
挿表11 挖立柱建物跡 ピット一覧表(1)	50	挿表25 石器・石製品観察表	70
挿表12 挖立柱建物跡 ピット一覧表(2)	51	挿表26 金属製品観察表	70
挿表13 ピット一覧表(1)	58	挿表27 壴穴住居跡規模一覧表	73
挿表14 ピット一覧表(2)	59	挿表28 挖立柱建物跡規模一覧表	73
		挿表29 土坑規模一覧表	73

図版目次

卷頭図版	荻名第3遺跡全景 SI04遺物出土状況	図版8	SI04遺物出土状況 SI04完掘状況
図版1	調査前遠景（1区） 調査前遠景（1区） 調査前遠景（2，3区）	図版9	SI04北西側遺物出土状況 SI04北東側遺物出土状況 SI04南東側遺物出土状況
図版2	調査後遠景（1区） 調査後遠景（1区） 調査後遠景（1区）	図版10	SI04北東側遺物出土状況 SI04南西側遺物出土状況 SI04北西側遺物出土状況
図版3	調査後遠景（1，2，3区） 調査後遠景（2，3区） 調査後遠景（2，3区）	図版12	SI05床面遺物出土状況 SI05完掘状況 SI05遺物出土状況
図版4	SI01完掘状況 SI01F-F'土層断面 SI01壺10出土状況	図版13	SI05D-D'土層断面 SI05-P5土層断面 SI07完掘状況
図版5	SI02-b完掘状況 SI02-a完掘状況 SI02有孔鉢30出土状況	図版14	SI08完掘状況 SI08遺物出土状況 SI08E-E'土層断面
図版6	SI03-c完掘状況 SI03-a, b完掘状況 SI03, 06A-A'土層断面 (切り合い)	図版15	SI07遺物出土状況 SI07A'-A土層断面 SI09遺物出土状況 SI09-a中央ピット土層断面
図版7	SI03C-C'土層断面（西半） SI03C-C'土層断面（東半） SI03遺物出土状況 SI06遺物出土状況 SI03, 06完掘状況	図版16	SI09, 07完掘状況 SB04, 05完掘状況 SB06完掘状況 SB07完掘状況

図版17	SB09完掘状況 SB11, 12, 13完掘状況 SI04, SB15完掘状況	図版23	SK06土層断面 SK12土層断面 SK11土層断面
図版18	SB20完掘状況 SB22, 23完掘状況 SB24完掘状況		SK11遺物出土状況 2区東側遺構群
図版19	SB25完掘状況 SB26, 27完掘状況 2, 3区中央遺構群	図版24	SK15完掘状況 SK15底面
図版20	SK01完掘状況 SK02完掘状況 SK04完掘状況	図版25	SS01完掘状況 SD16完掘状況 SD16A-A'土層断面 SD16B-B'土層断面
図版21	SK01土層断面 SK02検出状況 SK02土層断面 SK02土層断面 SK02遺物出土状況 SK04土層断面 SK04埋土下層検出状況 SK04埋土下層土層断面	図版26	SI01, 02, 03出土土器 図版27
		図版27	SI01, 02出土土器
		図版28	SI04出土土器(1)
		図版29	SI04出土土器(2)
		図版30	SI04出土土器(3)
		図版31	SI04出土土器(4)
		図版32	SI04出土土器(5)
		図版33	SI04出土土器(6)
図版22	SK06完掘状況 SK12完掘状況 SK11完掘状況	図版34	SI04, 05出土土器
		図版35	SI05, 07, ピット出土土器
		図版36	SI03, 06, 07出土土器
		図版37	获名第3遺跡出土石器
		図版38	SI08, 09, ピット, 土坑, 遺構外出土土器
		図版39	获名第3遺跡出土鉄器・鉄製品



挿図1 遺跡周辺地形図

第1章 調査の経緯

第1節 発掘調査に至る経緯

会見町では平成11年の県立フローラーパーク「とっとり花回廊」開園に先立ち、交通対策の一環として、一級町道諸木鶴田線道路改良工事が平成7年度から年次的にすすんできた。今回の工事予定区域は、越敷山山頂に位置する全長35mの越敷山13号墳を中心とした、越敷山遺跡群の周辺地域にあたり、一部が土器散布地にかかっていた。そのため会見町は道路工事に先だって、予定地域内の遺跡、遺構の有無を確認する必要があった。

平成9年度に会見町教育委員会によって実施された試掘調査の結果、いくつかのトレンチから土坑、ピットなどの遺構や弥生土器などの遺物が出土し、遺跡の存在が確認された。この事業は鳥取県が代行することになったため、鳥取県土木部道路課及び鳥取県米子土木事務所は、鳥取県教育委員会事務局文化課と協議し、文化財保護法第57条の3に基づく発掘通知を文化庁長官に提出した。その結果、事前発掘調査の指示を得たため、鳥取県土木部道路課は財団法人鳥取県教育文化財団に発掘調査を委託した。鳥取県埋蔵文化財センター所長は文化庁長官に文化財保護法第57条第1項に基づく発掘届を提出した上で、西部埋蔵文化財米子調査事務所会見分室を設置し、2名の調査員で获名第3遺跡の調査を担当することとなった。

第2節 調査の経過と方法

調査地は台地にたくさんの小谷が深く切り込んで形成された舌状丘陵の上に立地しており、大きく2つに分かれている。北西側を1区、南東側は農道を挟んで南側を2区、北側を3区と設定した。これらは地形的に一続きの尾根上にある。1区の北西側は施工が完了し、切り立った崖となっている。調査区内の農道は1区側を通行止めにしたが、2区と3区の間は車両の通行を確保する必要があった。発掘調査は1区、2・3区の順に着手することとなった。

1~3区の調査前地形の航空写真撮影後、4月5日より1区の調査前地形測量を行った。

4月12日から重機を使用して表土を除去した。排土は北西側の道路用地及び南側の谷部へ排出した。これらの排土は調査終了後に場外に搬出される。

基準点測量を業者に依頼した。調査区に設定した、グリッドと呼称する10m方眼の角度は国土座標第V系に準拠し、軸線を南北に0~15、東西にA~Rと振り当てる。交点の座標はA 0 (X: -70,320, Y: -85,300)、R 15 (X: -70,470, Y: -85,130)となる。交点には杭を打ち、グリッド名は南北溝交点の座標の名称を使用した。

4月20日から作業員を稼働して、遺構検出作業を行った。排土はベルトコンベヤーで調査区外へ排出した。調査後の地形測量と航空写真撮影を行い、9月28日に1区の調査を終了した。

9月29日に1区の調査成果の報告を主とする記者発表を行った。10月2日に現地説明会を開催し、町内を中心に約60名の参加者を得た。

1区の調査と並行して6月下旬から2・3区の調査前地形測量に取り掛かった。重機による表土剥ぎは3区から入り、続いて2区に着手する。排土は2区西側の谷部へ排出した。

2区、3区で検出した遺構の検出状況から未着手の農道部分にも遺構の広がりが予想された。そこで一部の表土を人力で掘削したところ、多くの遺構を検出した。車両の通行量が少ないと想定され、残存する遺構の深度から、農道封鎖は回避できると判断し、パネルの敷設や土壟積みによる遺構の保全と段差の緩和、柵の設置など、安全確保に努めた上で町役場を通じて調査への理解を求める、通行時の注意を呼びかけた。

2・3区の航空写真撮影と地形測量を行い、10月29日にすべての作業を完了した。

第3節 調査体制

○調査主体	財団法人鳥取県教育文化財団
理 事 長	有 田 博 充 (鳥取県教育委員会教育長)
常務理事	大和谷 朝 (鳥取県教育委員会事務局次長)
事務局長	岡 山 宏 徳
財団法人鳥取県教育文化財団	鳥取県埋蔵文化財センター
所 長	古 井 喜 紀 (鳥取県埋蔵文化財センター所長が兼務)
次 長	八木谷 升
調整係長	松 田 潔
文化財主事	高 垣 陽 子
主任事務職員	矢 部 美 恵
事務職員	鶴 村 八 重 子

○調査担当	財團法人鳥取県教育文化財団	鳥取県埋蔵文化財センター
西部埋蔵文化財糸子調査事務所会見分室		

所 長	国 田 俊 雄
主任調査員	家 塚 英 詞
調査員	柴 田 親 臣
整理員	塙 田 文 子

○調査指導	鳥取県教育委員会事務局文化課	鳥取県埋蔵文化財センター
-------	----------------	--------------

下記の方々に発掘作業、整理作業に従事、または協力いただいた。(敬称略)

野口 基治 野口 文恵 細田 フサ子 頼田 つゆ子 吉村 京子 渡辺 静江
福田 三枝子 富永 武子 後藤 菊夫 後藤 貞子 伊藤 景子 山川 愛子
宇田川 東功子 西村 美知枝 福井 徳子 永江 美枝子 小林 等子 田宮 繁
頼田 美佐子 池野 肇 野津 松夫 藤江 利夫 都田 三郎 遠藤 清子
板持 章 清水 房子 福田 弥千代 厄子 彰子 野島 尚子

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

获名第3遺跡は鳥取県西伯郡会見町获名に位置する。

1. 鳥取県

中国地方の北部にあり、北は日本海に面し南は中国山地を望む。東西に細長く、総面積の86.3%が山地である。県の東・中・西部にはそれぞれ一級河川が流れ、下流域には沖積平野が広がる。そのうち西部を流れる日野川が最長で、下流域には米子平野が広がっている。

2. 会見町

鳥取県の西端に位置し、東西南北をそれぞれ岸本町、西伯町、日野郡瀬戸町、米子市に接している。

地勢は盆地状で、周囲を見渡すと、東は越敷山、高塚山、栗津山、南は比婆山、西は要害山と一連の山脈に囲まれている。北側は米子市に接し平坦な水田地帯、東側は傾斜が緩やかで果樹園や畑地が多く、林野率66%の農山村である。栗津山を源とする朝錦川と比婆山山麓を源とする小松谷川は、浅井地内で合流した後、米子市青木地内で日野川の支流である法勝寺川に合流している。

町は発足時の経緯もあり、人口4,117人（平成12年1月末現在）、面積31km²と規模的には県内でも小さい。また米子市に隣接しており、立地的には恵まれていると思われるが、鉄道、国道が通っていないため、地域発展には不利な面もある。しかし古代より山陰道の要所として栄えた地であり、貴重な文化遺産が点在し、町内からの大山の眺望は素晴らしい、自然も豊かである。なお、越敷野周辺は「ふるさと大山ふれあいリゾート構想」の重点整備地区になっており、東麗部には平成11年に県立フローラーパーク「とっとり花回廊」が開園した。今後は、このような観光資源と自然を生かした開発が期待されている。

3. 越敷原台地

当調査地は会見町の北東部、越敷山（226.5m）を中心とする標高200m前後の越敷原台地上に位置する。

この台地はかつて採草地として利用され、「越敷野」と呼ばれることがあるが、そのほとんどが赤松林を主とする山林であった。現在は山林のほかに畑地や、梨、富有柿などの果樹園地が散在する。

地質は、基盤の花崗岩とこれを覆う鮮新世の玄武岩溶岩流があって、平坦面は溶岩流の上面にあたっている。平坦面上には、大山火山の噴出物である火山灰などが堆積している。脊縫部は比較的なだらかであるが、いたる所に深い谷が発達しており、特に深い谷奥には溜池が設けられ、谷間に水田が営まれている。なお、台地上の現在の集落である获名、上野、池野、鶴田、小町はいずれも谷の小川が流れる所に位置している。



挿図2 遺跡位置図

第2節 歴史的環境

1. 繩文時代

昭和50年頃、諸木地区で中学生がサスカイト製の有舌尖頭器を発見した。これが会見町域最古の資料と思われる。草創期には大山山麓を中心に、このような有舌尖頭器や尖頭器が出土している。しかしいずれも遺構に伴わず、他の石器や土器などとも共伴しないため、当時の様子を知るには不十分である。

早期になると、大山山麓を中心に縄文遺跡が登場する。(4)米子市・上福万遺跡では押型紋上器とともに集石、土坑が、平成11年度に調査の行われた西伯町・龍徳遺跡では縄文土器、集石遺構が確認されている。これらは山陰では数少ない早期の遺跡となっている。

前期には、「縄文海進」といわれる海水面の上昇によってできた、海岸部のラグーン(潟湖)周辺に多くの遺跡が見られる。中海沿岸に位置する(1)米子市・日久美遺跡では、前期の土器をはじめ中期の貯蔵穴などが確認されている。

中期の遺跡は少ないが後・晩期になると、人々の生活の場は山麓の平野部にも広がっていく。それは初めて会見町にも及び、朝鍋川を挟んで西に天王原を望む(8)朝金遺跡では、大量の土器や石器類などが出土している。一方、大山山麓の丘陵部では多数の落し穴が発見され、なかでも淀江→大山町・妻木晩田遺跡群(963基)、(10)越敷山遺跡群(341基)、(3)米子市・青木遺跡(228基)などで多く見られる。

2. 弥生時代

この地方の弥生文化は日久美遺跡辺りで始まったとされ、その後河川に沿って急速に広がっていく。

前期には(4)諸木遺跡、(27)宮尾遺跡、(37)天王原遺跡で環濠をもつ集落が形成される。

中期になると居住地域は拡大し、(28)宮前遺跡や(19)浅井土居敷遺跡で集落跡が確認されている。また農業技術の進歩により、台地周辺の湿地でも稲作ができるようになると、人々は青木遺跡や天王原遺跡のような台地や、越敷山遺跡群のような奥まった丘陵にまで生活の場を広げていく。

後期には台地や丘陵上で居住地域がさらに広がる。長者原台地では、青木遺跡がさらに拡大するとともに、(2)福市遺跡などができ、越敷山遺跡群でも戸数の爆発的な増大が見られる。また妻木晩田遺跡群では、現発掘段階で九州・吉野ケ里遺跡の約1.3倍、156haの広さを誇る弥生時代最大規模の集落とともに、四隅突出型墳丘墓が出現する。この墳墓形態は出雲地方を中心とした山陰地方に多く見られるが、会見町域ではまだ確認されていない。

この頃、(8)朝金小チヤ遺跡では大規模な墳丘墓が築かれており、当地域における古墳時代の息吹が感じられる。

3. 古墳時代

農耕社会の出現により貧富の差が生まれ権力者が出現すると、その葬送儀礼として大規模な古墳が築かれるようになる。

前期には県内でもいち早く(28)普段寺1号墳、(20)普段寺2号墳がつくられる。いずれも三角縁神獣鏡が出土しており、また1号墳は全長21.7mと前方後方墳では西伯寺最大である。

古墳が大型化する中期になると、(28)三崎殿山古墳が築かれる。全長108mの前方後円墳で、山陰第2位の大きさを誇る。西伯寺でそれに続くのは淀江町・向山4号墳の全長65mであり、この古墳の巨大さがうかがえる。また(25)浅井古墳群の11号墳では画文帯神獣鏡が確認されている。前述した会見町の前・中期古墳はいずれも近接しており、この地域の首長が西伯寺で早い時期に首長権を確立し、その後も一定の勢力を保っていたことを物語っている。

後期に入ると、首長や豪族のみならず有力農民層も古墳造営に取り組む。(30)後塔山古墳などで中型の前方後円墳が築かれ、さらに(8)田住古墳群、(11)朝金古墳群、(16)井上古墳群、(18)御内谷古墳群、(23)高姫古墳群など現集落の後背地に群集墳が営まれるようになる。また荻名、鶴田などの越敷山遺跡群周辺にも小型古墳が点在している。埋葬形態では、(22)寺内8号墳の横穴式石室で、山陰では十数例しかない陶棺が納められていたことが特筆される。



- | | | | | |
|-----------|-------------|------------|-------------|------------|
| 1. 日久美遺跡 | 2. 福市遺跡 | 3. 青木遺跡 | 4. 上福万遺跡 | 5. 大寺廃寺 |
| 6. 坂中廃寺 | 7. 長者屋敷遺跡 | 8. 田住古墳群 | 9. 萩名第3遺跡 | 10. 越敷山遺跡群 |
| 11. 朝金古墳群 | 12. 朝金小チヤ遺跡 | 13. 金出瓦窯跡 | 14. 小松城跡 | 15. 御内谷古墳群 |
| 16. 井上古墳群 | 17. 天王原遺跡 | 18. 口朝金遺跡 | 19. 浅井土居敷遺跡 | 20. 高姫古墳群 |
| 21. 手間要害 | 22. 寺内8号墳 | 23. 普段寺1号墳 | 24. 普段寺2号墳 | 25. 浅井古墳群 |
| 26. 宮前遺跡 | 27. 宮尾遺跡 | 28. 三崎殿山古墳 | 29. 諸木遺跡 | 30. 後塔山古墳 |

4. 歴史時代

律令期に入ると伯耆国は6郡に分かれ、現在の会見町は会見郡に相当した。前代の爆発的な古墳造営に歯止めをかけるため「薄葬令」が出され、また国家が仏教を保護したため、豪族はこぞって寺院を建立した。

この地域にも金堂に石製鷲尾をのせた(5)岸本町・大寺廃寺が建立され、変形の法起寺式伽藍をとっていた。この寺の瓦を焼いた窯跡とされるのが、南に6km離れた所にある(3)金田瓦窯跡である。さらに、この地方の有力豪族として知られている紀氏によって(6)坂中廃寺が建立されたと伝えられる。また、紀成盛は平安時代末期に焼失した大寺再建に貢献したとされ、彼の屋敷跡とも会見郡の郡衙とも言われているのが(7)長者屋敷遺跡である。これら寺院と屋敷跡は近接しており、この辺りが会見郡の中心であったと考えられる。

中世において、当地域は出雲と伯耆・備中を結ぶ交通の要所であり、戦略拠点としても重要であった。そのため南北朝以後、(10)小松城、(11)手間要害などが築かれ、たびたびその争奪をめぐる激しい戦いが行われた。

(注1) 西伯耆の範囲は名和町、大山町、淀江町、米子市、岸本町、会見町、西伯町の範囲とした。

(注2) 会見町以外の遺跡については、遺跡名の前に市、町名を記した。

参考文献・参考資料

会見町誌統編さん企画委員会『会見町誌統編』会見町1995年

米子市史編さん協議会『新修米子史誌 資料編考古 原始・古代・中世』米子市1999年

鳥取県埋蔵文化財センター『弥生時代の鳥取県』1987年

鳥取県埋蔵文化財センター『旧石器・縄文時代の鳥取県』1988年

鳥取県埋蔵文化財センター『歴史時代の鳥取県』1989年

会見町教育委員会 岸本町教育委員会『越畠山遺跡群』1992年

会見町教育委員会『天王原遺跡発掘調査報告書』1993年

財団法人鳥取県教育文化財団『鶴田荒神ノ峯遺跡 鶴田堤ヶ谷遺跡 宇代横平遺跡 宇代寺中遺跡』1996年

財団法人鳥取県教育文化財団『天萬土井前遺跡』1997年

財団法人鳥取県教育文化財団『御内谷遺跡群』1998年

会見町教育委員会『町内遺跡発掘調査報告書』1998年

鳥取県教育委員会『むきばんだ 妻木晩田遺跡発掘調査の概要』1999年

鳥取県埋蔵文化財センター『平成11年度発掘技術研修会「遺跡調査検討会」資料』2000年

第3章 調査の成果

第1節 遺跡の概要

調査前の1区は、農道より北側の平坦面は畑地と果樹園で、南側の斜面は竹林になっていた。畑地は戦後に開墾されたもので、地山面まで大きな削平を受けていた。平坦面では堅穴住居跡6棟、掘立柱建物跡20棟、土坑5基を検出した。平坦面の北側に北西-東南方向に伸びる、幅30cm、深さ10cmの溝が幾本も平行して並んでいた。埋土は上面の耕作土とは異なるものの、陶磁器が出土しており、新しい耕作痕と判断した。斜面は急勾配であり、部分的に竹林の加工段が施されている。段状遺構1の他、多くのピットを検出している。

2・3区の調査前は畑地・植林であり、地形は東の平坦面と西の斜面に大きく分かれる。平坦面は1区と同様に削平されていた。3区には方眼の区割りをもつ溝が掘られていた。表土掘削の前から溝状の落ち込みを確認しており、農道の側溝に並行することから畑地に関連する新しい時期のものと判断した。

2区はなだらかな斜面地であったが、厚く堆積した客土を除去すると大規模に削平された面が現れ、遺構未検出帯の幅は14mにも及ぶ。北側の農道に面する部分は大きく切り落とされていて、深いところでは農道の遺構検出面から1m近く下がっている。ピット群を検出した西寄りの急斜面地は辛うじて自然の地形を残している。調査区西端の斜面はテラス状に整地されているが、埋土と出土品から近現代の施工によるものと考える。遺構は堅穴住居跡3棟、掘立柱建物跡7棟、土坑2基、溝状遺構1条を検出した。

堅穴住居跡は平面形が円形のものが8棟、小型の隅丸方形のものが1棟ある。円形の堅穴住居跡のうち5棟が規模の拡張を伴う建て替えを行っている。小型の堅穴住居SI04からは多量の土器が廃棄された状況で出土している。隅丸方形のSI05はピットの配置を含めた平面形態と焼土面の広範な広がりに特異性が認められる。全体的な配置は、現況の等高線に沿った連なりを見せる。

掘立柱建物跡は1間×2間が5棟、1間×1間が22棟で、大観して堅穴住居を取り巻くような状況を呈している。傾向として1間×2間は大型で堅穴住居から離れた位置にあり、1間×1間は小型で堅穴住居に隣接している。柱穴内から遺物が出土するものは少ない。

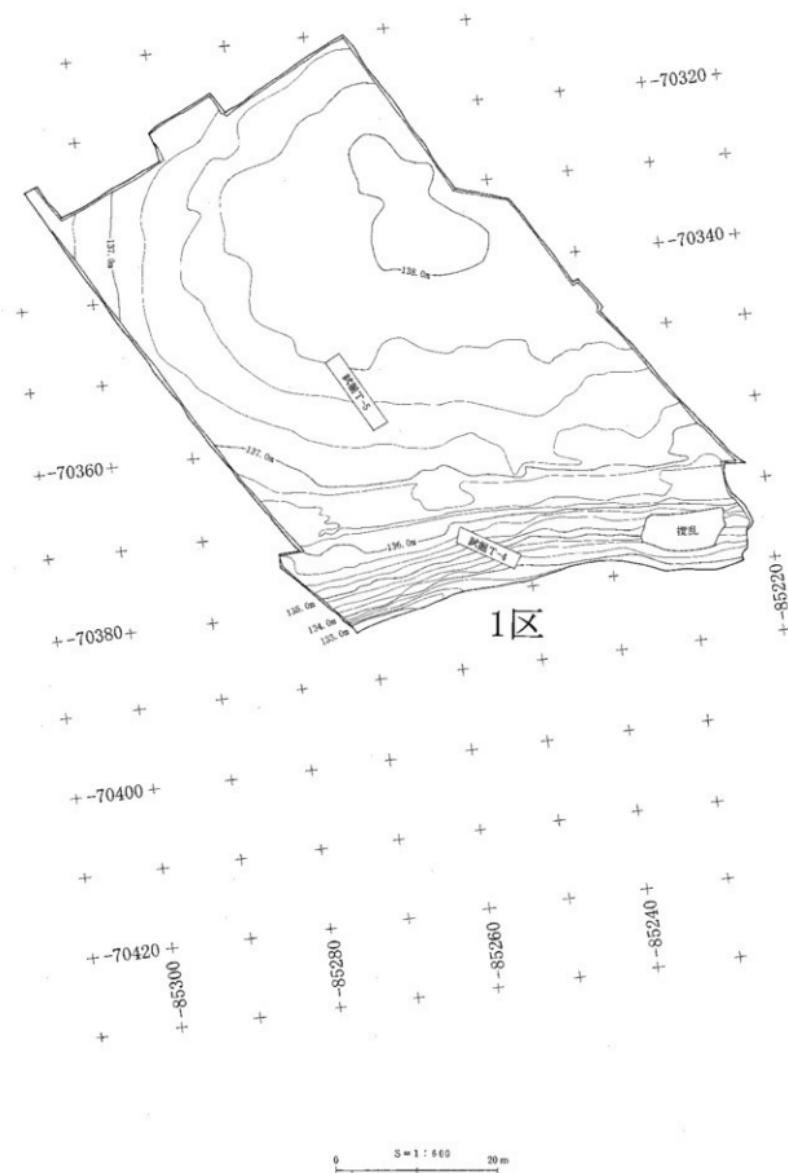
土坑SK01、02、04、06は掘立柱建物跡の北西に隣接しており、建物に付随するものと見られる。SK11は底面しか残存しないが、周溝を備えている。SK12は堅穴住居SI04に切られているが、ほぼ同時期の土器が出土している。SK15は2m近くの深さをもち、試掘調査では落とし穴と報告されていたものである。

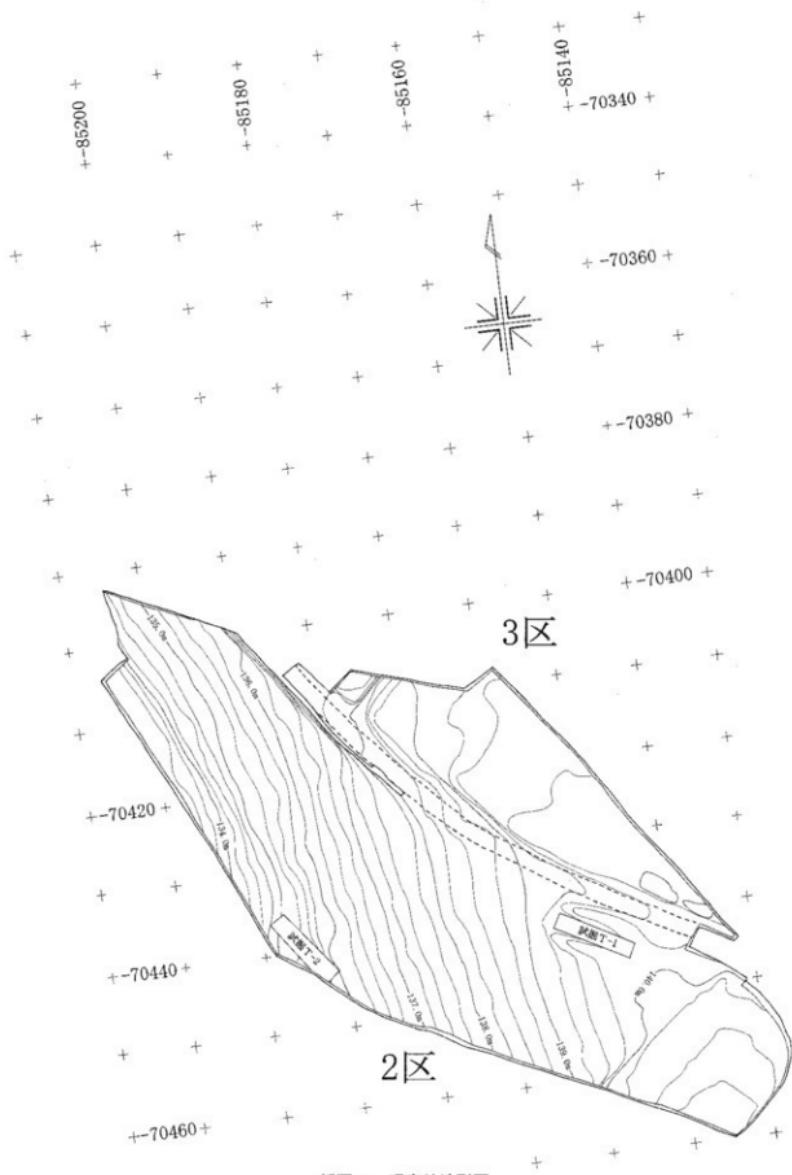
溝状遺構SD16は2区の斜面を、等高線に沿うように掘られた溝である。その上方で多くのピットを検出し、下方ではSK15を検出している。

段状遺構SS01は1区の斜面をL字状に加工して平坦面を作りだし、柱穴が並ぶものである。1区、2区ともに斜面では多くのピットを検出しており、遺物を包含するものも少なくない。平坦面だけでなく斜面にもSS01のような加工段上に、多くの建物が存在していたことが推測されるが、まとまりのある遺構としては捉えることができなかった。

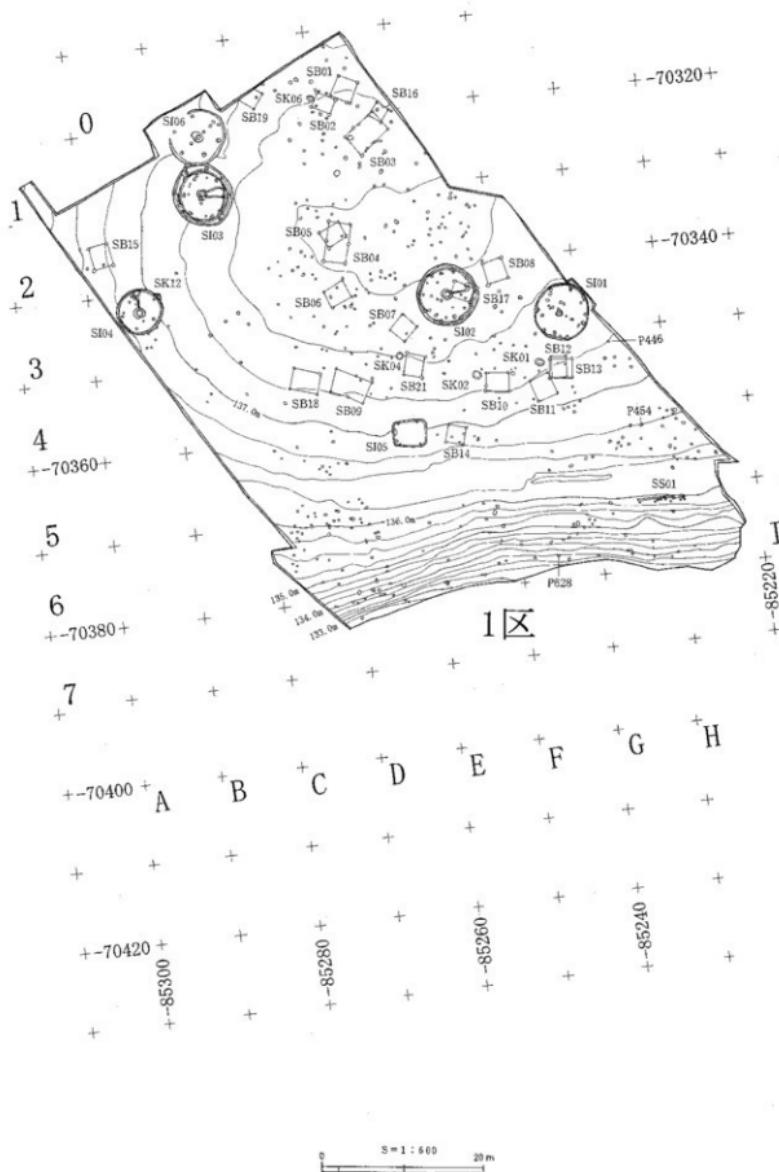
これらの遺構内から出土する土器は弥生時代後期のものが大半を占め、他の時代の土器は、弥生時代中期の土器片をわずかに含むのみである。遺構面を覆う耕作土中からは新しい陶磁器の他には出土せず、谷部の遺物包含層中からは弥生土器のみが出土する。これらの状況から、多くの掘立柱建物跡のように遺物が出土しなかった遺構についても、埋土の比較検討や遺跡内の遺構の位置関係から、弥生時代の遺構と判断している。

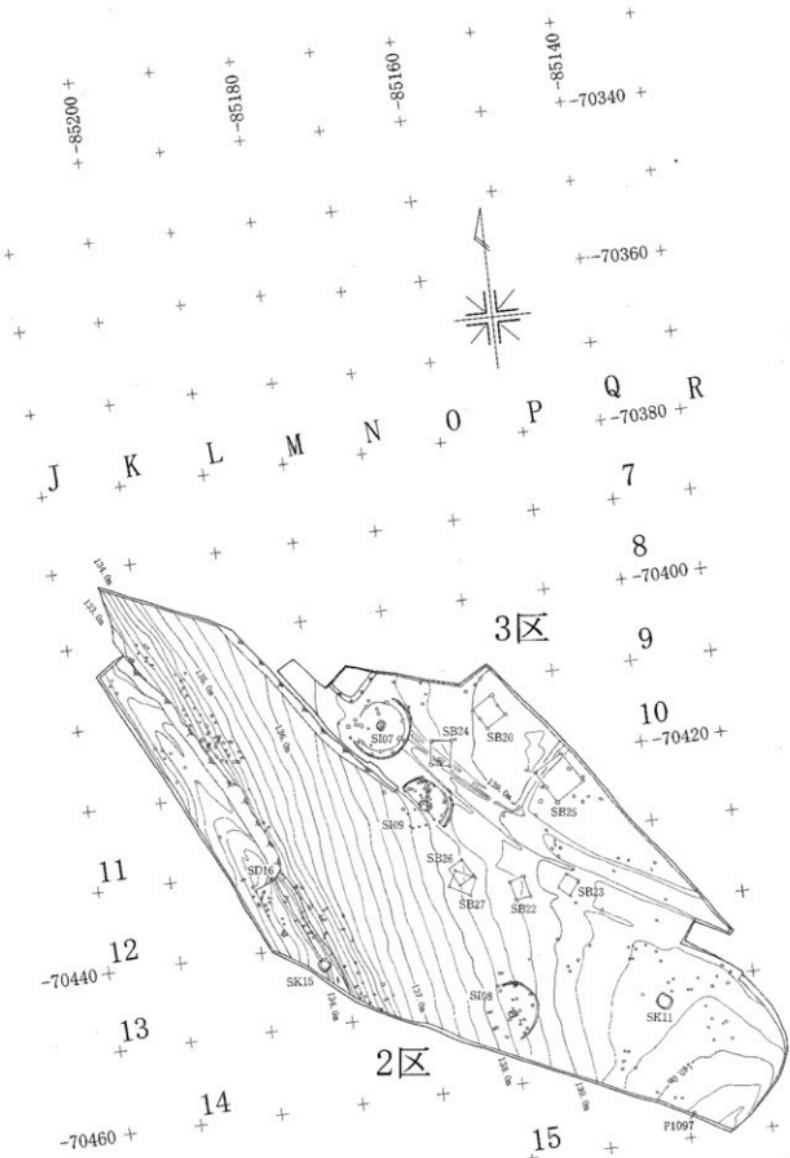
本調査区は、越敷山遺跡群の遺構分布の中心である18a、18b区が立地する丘陵から北へ向かって派生する尾根上にあり、距離にして約200m北西に位置している（挿図1参照）。遺跡の存続期間は、越敷山遺跡群で最も集落規模が拡大する、弥生時代後期中葉の時期にあたり、検出した遺構や出土遺物の構成に差異は認められない。このことから浜名第3遺跡は越敷山遺跡群と一体の集落遺跡として捉えることができよう。





挿図4 調査前地形図





挿図5 遺構配置図

遺構は検出順に番号を振っている。本報告においても基本的に調査時の名称を踏襲している。近現代以降の施工や搅乱と判断したものは本報告では欠番とし、遺構の種別認識を変更したものは欠番扱いの後、新しい名称を与えている（例SS01）。以下の新旧対照表を参照されたい。

ピット名は1区をP 1から、2・3区は調査時の便宜上P 1001から始めている。そのうち掘立柱建物跡を構成するピットについては、本報告時に新名称を与えた。堅穴住居内ピットはその遺構内で名称をつけており、本報告時に一部変更を行っている。これらについてはそれぞれの遺構のピット一覧表を参照されたい。

新遺構名	旧遺構名	調査区	備考
欠番	SK03	1区	搅乱
欠番	SK05	1区	搅乱
欠番	SK07	1区	搅乱
欠番	SK08	1区	搅乱
欠番	SK09	1区	搅乱
欠番	SK10	1区	搅乱
欠番	SK13		名称未使用
欠番	SK14	1区	搅乱
欠番	SD01	1区	切りとおし農道
欠番	SD02	1区	現代畑作関連溝
欠番	SD03	1区	搅乱
欠番	SD04	1区	農道側溝
欠番	SD05	1区	現代畑作関連溝
欠番	SD06	1区	搅乱
欠番	SD07	1区	現代畑作関連溝
欠番	SD08	1区	現代畑作関連溝
欠番	SD09	1区	現代畑作関連溝
欠番	SD10	1区	現代畑作関連溝
欠番	SD11	1区	現代畑作関連溝
欠番	SD12	3区	現代畑作関連溝
SS01	SD13	1区	段状遺構
欠番	SD14	3区	現代畑作関連溝
欠番	SD15	3区	現代畑作関連溝

挿表1 新旧遺構名対照表

第2節 穫穴住居跡

SI01 (挿図6~8、図版4・26・27)

1区F~G 3グリッドに位置する、円形に近い楕円形の竪穴住居である。南にSB11、12、13、西にSI02がある。

長径6.8m、短径6.5mで床面積は32.3m²、壁高は最高で40cm、周溝は幅約12cm、深さ約8cmを測る。

周溝は1条しか検出していないが、主柱穴と見られる規模の大きいピットは内と外に2重に巡っている。内側のピットは上面が貼り床で覆われていたものがあるため、建て替えが行われていたことが判明した。内側の主柱穴を用いた住居をSI01-a、外側の主柱穴を用いた住居をSI01-bと呼称する。

SI01-aの主柱はP 8~13の6本であり、周溝から50~80cmの位置にある。

SI01-bの主柱はP 1~P 7の7本であり、周溝から約20cmの位置にある。aからbへの建て替えに際し、既存の床面積で最大限の居住空間を確保しようとしたことが伺われる。

P 5に隣接するP 19は半分が周溝にかかり、上面を貼り床で覆われている。実際には使用されなかった柱穴と考えられる。P 14~18は補助柱と推測される。

中央ピットは住居の中心よりやや南西にずれた位置にあり、直径約70cmの円形、深さ約30cmを測る。a、bを通じて使用されたと考えられる。

埋土は黒ボクで床面付近は地山上ブロックがやや目立つ。他の遺構の切り合いも認められず、自然堆積と考える。

遺物は埋土中より壺(1、3、4~8)、底部(12~15)、石礫(S 2)が出土している。床面から壺(2、9)、底部(11)、台石(S 1)が出土している。また、P 8の柱痕上に、床面よりやや沈み込むような状態で、完形の小型壺(10)が出土している。P 8の上面には埋めもどしの痕跡がなかったことから、当時P 8には床面より下に柱が残っていて、その上に置かれた壺10は木質の梁脚とともに落ち込んでいったと推測される。

遺構の時期は弥生時代後期中葉、越敷山IV期新段階に相当する。

SI02 (挿図9~11、図版5・26・27)

1区E 3グリッドに位置する、円形の竪穴住居跡。東にSB08、南西にSB07が隣接し、住居内でSB17と切り合う。2条の周溝を確認しており、床面積の拡張を伴う建て替えが1回行われている。内側のものをSI02-a、外側のものをSI02-bと呼称する。

SI02-bは長径7.6m、短径7.3mで東西方向にやや長く、壁高は最高で25cm、床面積は41.0m²。周溝は幅約10cm、深さ約8cmを測る。主柱はP 1~8の8本であり、周溝から30~50cmの位置にある。向かい合う柱穴を結ぶ対角線の交点は1点に重なり、1辺約2.5mの正八角形を呈する。中央ピットは円形で直径約80cm、床面からの深さは約45cmを測る。中央ピットから派生する溝が東方向に直線的に掘られており、断面はV字形で、幅12cm、深さ4cmである。周溝に到達しない。

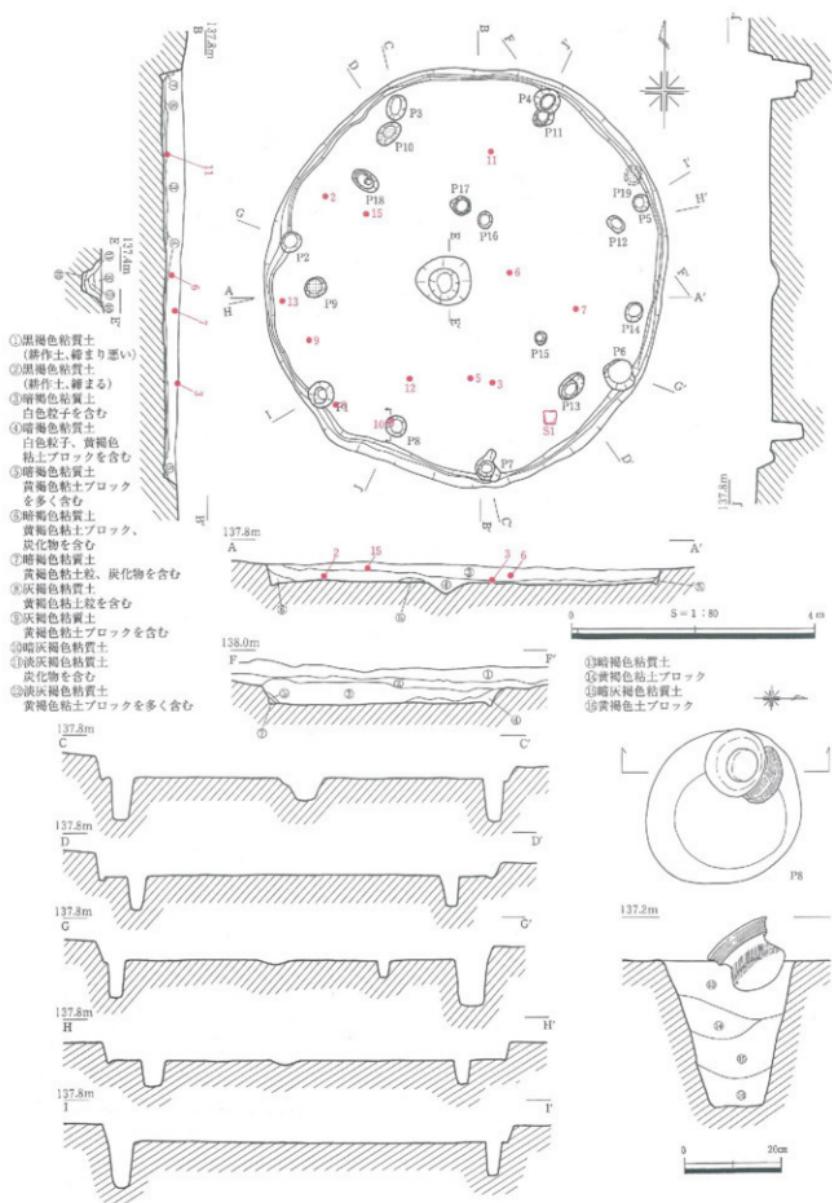
焼土面を大きく6カ所で確認しており、中心から1.8~2mの距離にある。

SI02-aは長径7.2m、短径6.8m東西にやや長い。床面積は33.9m²。周溝は幅約12cm、深さ約8cmで、地山上と同質の土によって埋められており、SI02-bの主柱穴に切られている。

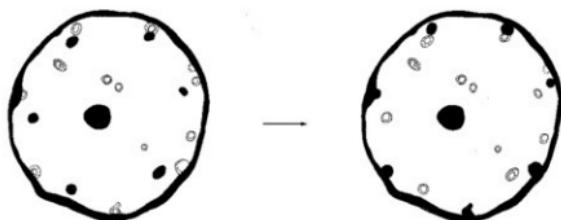
aの主柱はP 9~12、14、16~18の8本と考えられ、不整形な八角形を呈する。P 12、14は地山上と同質の土で埋め戻されたピットを切って掘られており、他にP 11、16が埋め戻されていた。柱穴間距離(約2.5m)と周溝との間隔(約40~50cm)から見ると、P 9~11、13、15、29、18の7本柱となり、建築当初はこの均整の取れた七角形を想定していた可能性がある。

掘立柱建物跡SB17はSI02の周溝やピットを切っていること、また貼り床を施さないことからSI02に後出すと考えられる。

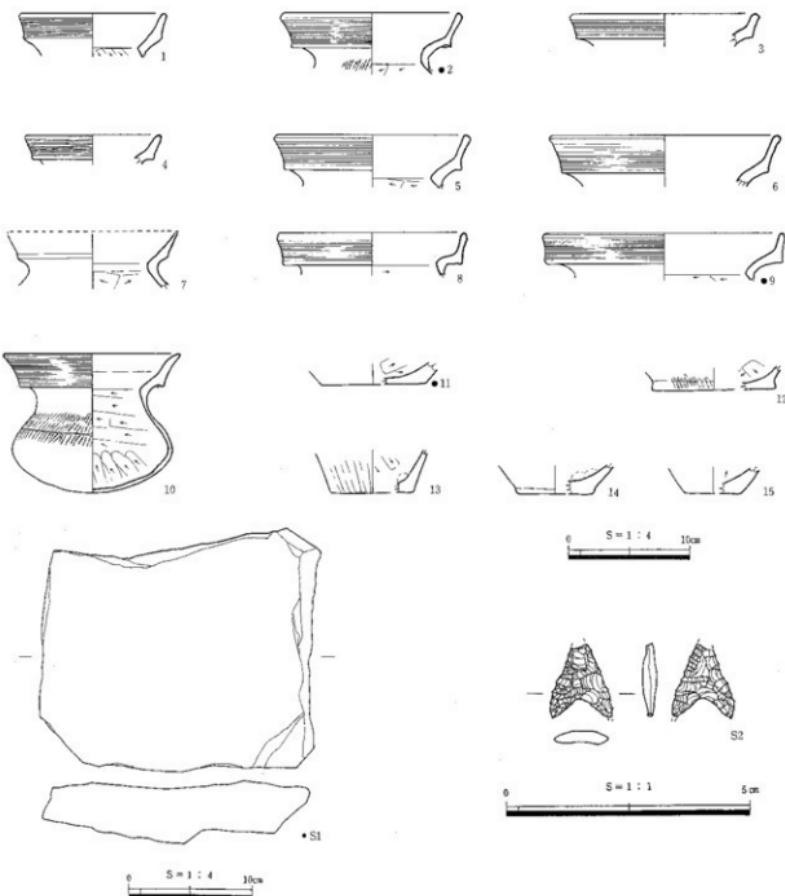
埋土は地山上ブロックを含む黒ボクであるが、後世の削平によってほとんど残っていない。埋土中より壺(16、



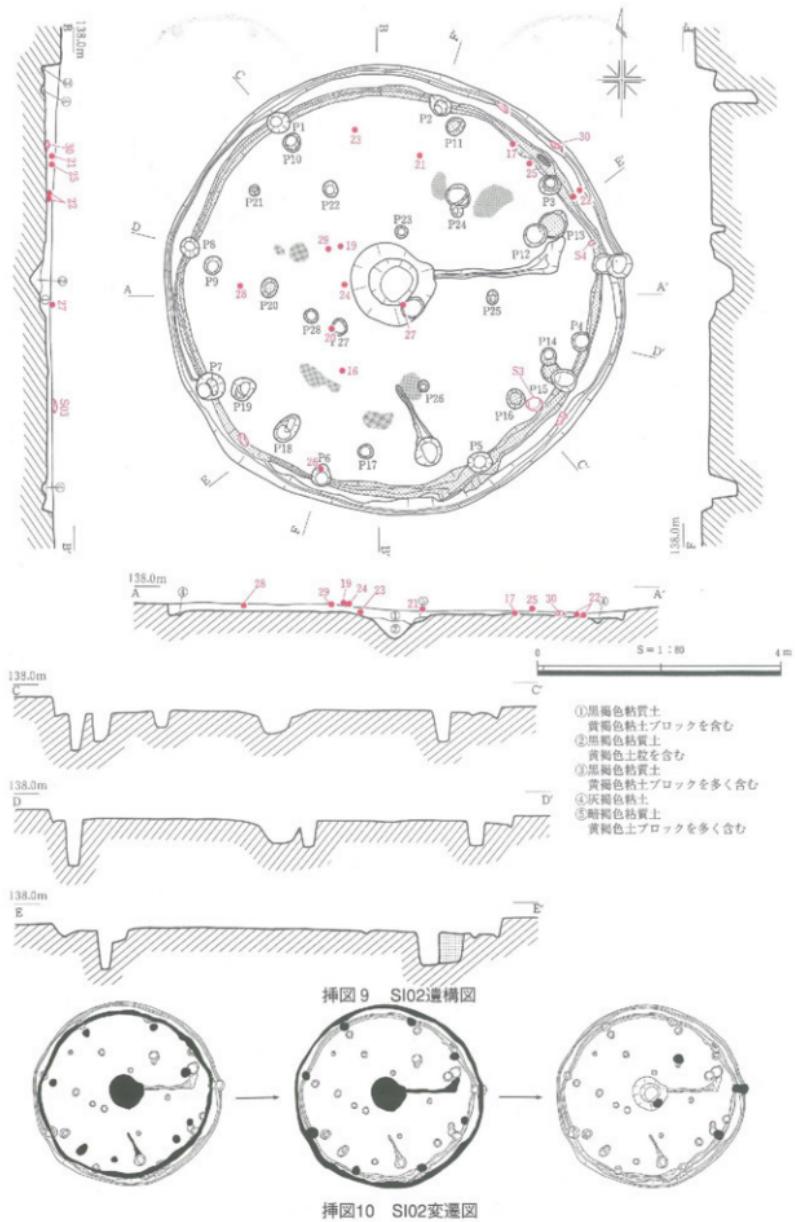
挿図6 SI01遺構図



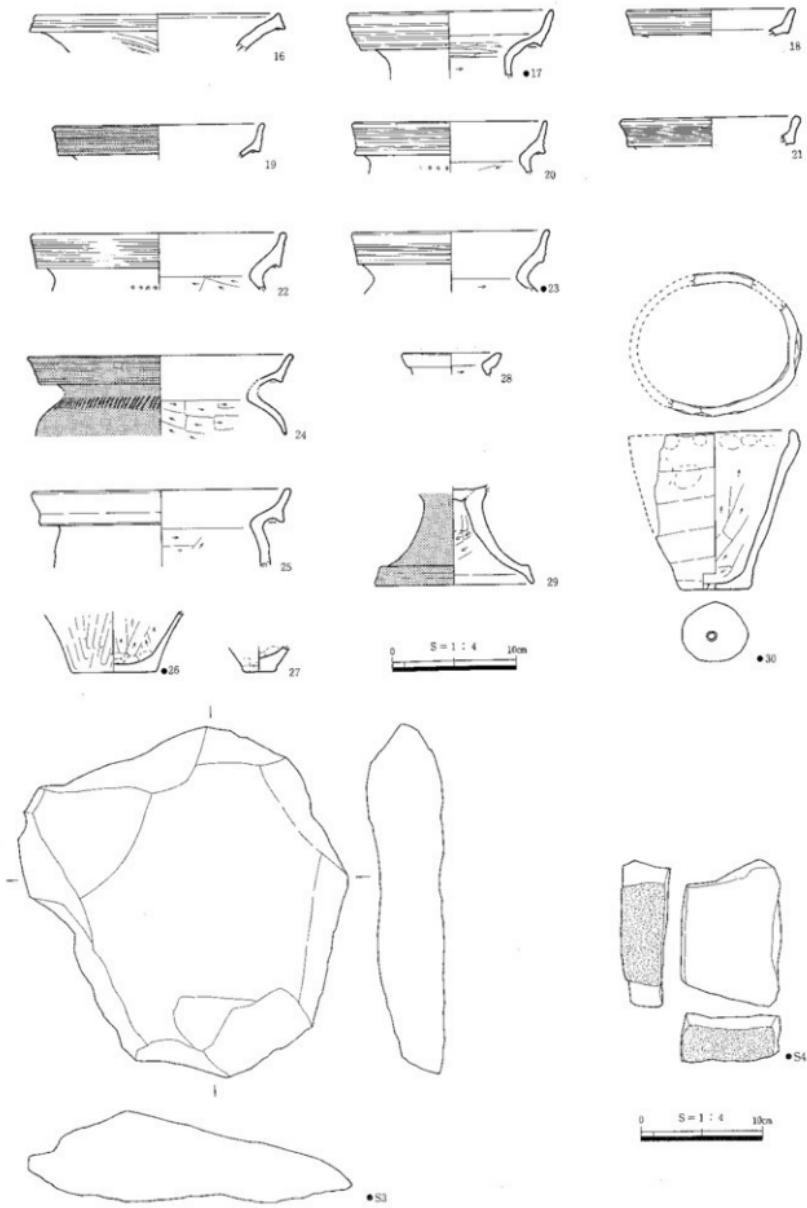
挿図7 SI01変遷図



挿図8 SI01出土遺物実測図



挿図10 SI02変遷図



挿図11 SI02出土遺物実測図

SI01

ピット名	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	土 色	備 考	旧ピット名
P1	42	41	76	暗褐色粘質土、黄褐色土粒、炭化物混		SI01-P1
P2	34	31	64	暗褐色粘質土、黄褐色土粒、炭化物混		SI01-P2
P3	43	34	71	灰褐色粘質土、黄褐色土粒、炭化物混		SI01-P3
P4	42	38	69	黑褐色粘質土		SI01-P4
P5	29	28	54	暗褐色粘質土、黄褐色土粒混		SI01-P5
P6	51	50	77	黑褐色粘質土		SI01-P6
P7	38	32	71	黑褐色粘質土		SI01-P7
P8	42	34	33	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック、炭化物混		SI01-P8
P9	35	32	44	暗灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	上面貼り床を施す	SI01-P9
P10	46	32	58	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	上面貼り床を施す	SI01-P11
P11	32	30	41	暗褐色粘質土	P4に切られる	SI01-P12
P12	30	22	41	灰褐色粘質土		SI01-P13
P13	46	28	51	黑褐色粘質土		SI01-P16
P14	33	30	32	暗褐色粘質土		SI01-P14
P15	21	18	32	暗褐色粘質土		SI01-P17
P16	28	24	27	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI01-P24
P17	29	29	30	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI01-P23
P18	48	26	26	灰褐色粘質土		SI01-P10
P19	30	28	38	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	上面貼り床を施す	

挿表2 SI01ピット一覧表

SI02

ピット名	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	土 色	備 考	旧ピット名
P1	39	33	64	暗灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	床面マイナス46cmより土器	SI02-P1
P2	36	30	76	暗灰褐色粘質土、黄褐色土粒混		SI02-P2
P3	37	32	54	暗灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	床面マイナス46cmより亜角ヶ	SI02-P3
P4	33	30	39	暗褐色粘質土、黄褐色土粒混		SI02-P16
P5	41	33	61	暗褐色粘質土		SI02-P6
P6	38	32	47	黑褐色粘質土		SI02-P7
P7	47	42	447	黑褐色粘質土		SI02-P8
P8	34	31	77	暗褐色粘質土		SI02-P9
P9	31	29	36	暗褐色粘質土		SI02-P10
P10	30	29	49	灰褐色粘質土		SI02-P11
P11	33	27	49	暗灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	貼り床	SI02-P32
P12	36	35	54	暗褐色粘質土		SI02-P15
P13	43	42	50	黒褐色粘質土ブロック、黄褐色土ブロック混	貼り床	SI02-P31
P14	25	22	39	褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI02-P17
P15	30	30	38	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	貼り床	
P16	33	29	49	暗灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	貼り床	SI02-P33
P17	26	24	57	暗褐色粘質土		SI02-P20
P18	52	34	64	黑褐色粘質土		SI02-P21
P19	40	37	18	黑褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI02-P22
P20	32	27	10	黄褐色土ブロック	貼り床	SI02-P34
P21	18	18	18	暗褐色土ブロック、炭化物混	貼り床	SI02-P36
P22	26	24	25	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI02-P12
P23	20	18	24	暗灰褐色粘質土、黄褐色土粒混		SI02-P29
P24	20	20	17	暗褐色粘質土、炭化物混		SI02-P14
P25	23	20	8	棕褐色土ブロック	貼り床	SI02-P35
P26	20	19	10	黑褐色粘質土		SI02-P18
P27	27	25	10	暗褐色粘質土		SI02-P24
P28	25	22	33	暗褐色粘質土、黄褐色土粒混		SI02-P23

挿表3 SI02ピット一覧表

28) 壺 (18~22、24、25)、底部 (27)、高坏 (29) が出土している。壺16は弥生時代中期のものとみられ、壺28は端部を拡張しない小型のものである。

床面から壺 (23)、底部 (26)、床面とP1内から壺 (17)、SI02-bの周溝内に横倒しの状態で有孔鉢 (30) が出土している。30は外表面をヘラか板のような工具を使い、削るように強くナデて整形していく、器壁外面に粘土の輪積みの痕跡が残る。口縁は楕円形をしていて、端部は指でつまんでいる。縦轍の押圧痕が残る底面はやや丸みを帯びているため自立しない。また、台石 (S 3)、砥石 (S 4) も床面で出土している。いずれも明確な使用痕は認められない。

遺構の時期は弥生時代後期中葉、越敷山IV期古段階に相当する。

SI03 (挿図12~16、図版6・7・26・36・39)

1区B 1~2グリッドに位置する楕円形の豊穴住居跡。北側でSI06と接するように切り合い、SI06より後出する。

周溝を3条検出しており、埋土の堆積状況とピットおよび周溝の切り合い関係から、拡張を伴う建て替えが2度行なわれたことが判明している。内側の古いものから順にSI03-a、b、cと呼称し、以下それぞれについて記述する。

SI03-cは長径8m、短径7mの楕円形の平面形を呈し、周溝より内側の床面積は39.3m²を測る。壁高は10~50cmであり、南東側が比較的よく残存する。

主柱はP1~8の8本で、いずれも壁面より約40cmの位置にある。中央ピットは住居のはば中央に位置する。その平面形は長径1.1m、短径0.9mの隅丸方形を呈し、深さは50cmを測る。縁辺に高さ3cm程度の周堤状の高まりをもつ。

中央ピットから東方に向かって派生する溝が床面に掘られており、断面形は緩いV字で幅18cm、深さ3cmを測る。この溝は緩い弧を描き、周溝へ向かって伸びているが、周溝には到達せず、深さを失っている。

周溝は幅10~20cm、深さ約8cmを測る。焼土面は大きく4カ所にあり、いずれも中央ピットから約2m離れた位置にある。

埋土は全体的に地山土ブロックが多く混入しており、その度合いは東壁付近において著しいが、埋め戻しのような人為的な痕跡は明確に認められない。中央部には焼土ブロックを含む土がレンズ状に堆積し、炭化物の小片を多く含んでいるが、床面や埋土中においても炭化した建材が出土していないことから焼失住居とは考えにくく、二次的な所産のものと推定される。

SI03-bは長径6.6m、短径6.1mの楕円形を呈し、床面積は28.5m²である。

周溝は幅12~20cm、深さ8~10cmで、断面はV字形である。地山土と同質の土で埋め戻されていた。

主柱はP9~14の6本で、周溝から40~50cmの位置にある。P12は柿の根が入っていたために全容を確認できなかったが、全体における位置から主柱穴と判断した。これらのピットはSI03-cの主柱穴と同時に検出しており、周溝のように埋め戻した痕跡は認められなかった。

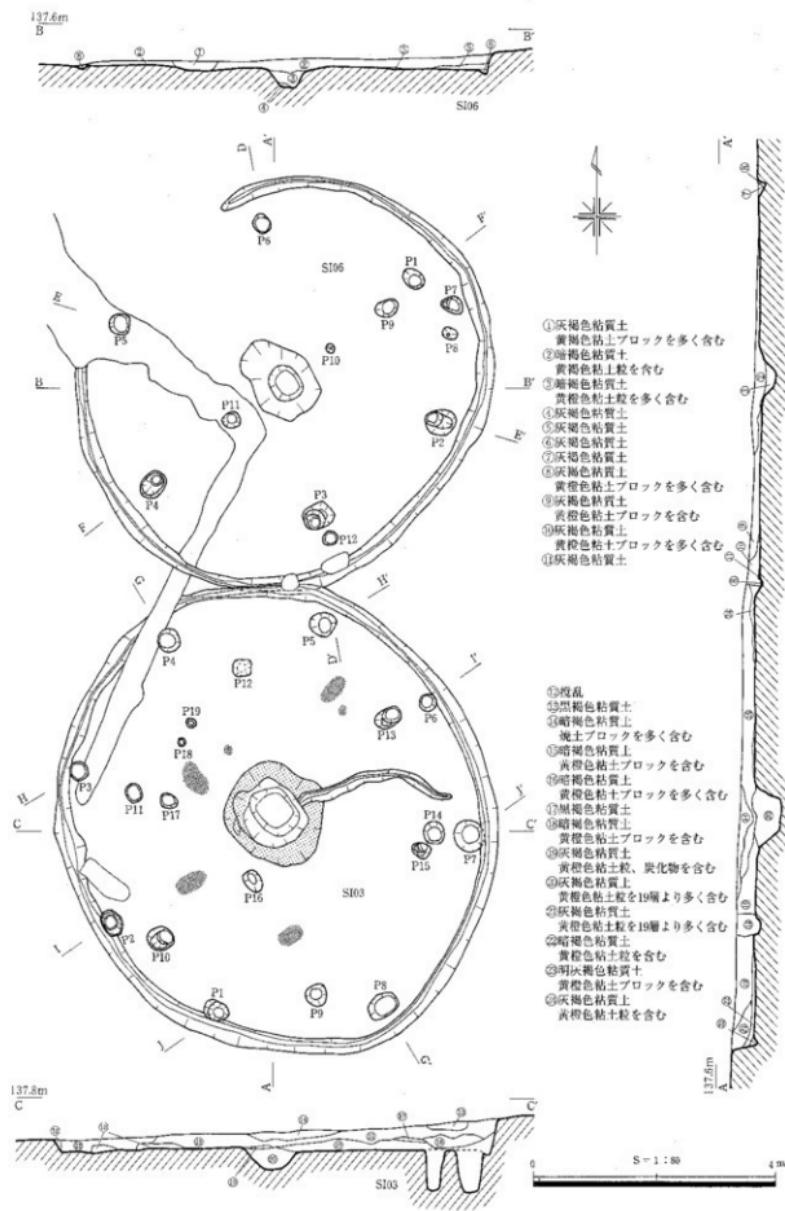
中央ピットは長径80cm、短径70cmの隅丸方形を呈し、深さは44cmを測る。地山土と同質の土で埋め戻されていて、4分の1をcの中央ピットによって切られている。

中央ピットから派生する溝がcの溝と並行するように東壁方向に向かって掘られている。中央ピットaの周堤帯の下から検出されていて、幅12cm、深さ3cmで、これもまた周溝に到達していない。

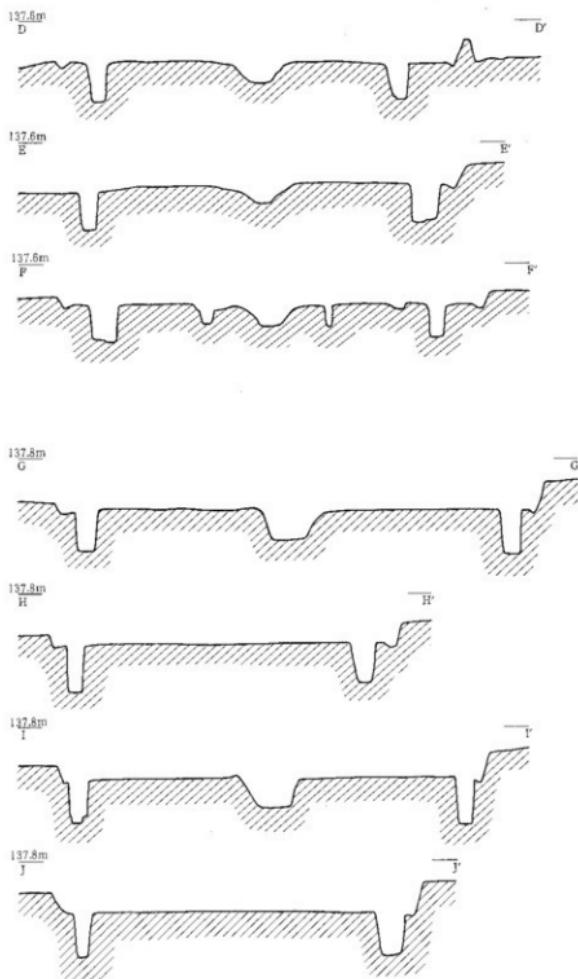
SI03-aは長径6.2m、短径5.6mの楕円形を呈し、床面積は25.6m²である。

周溝は幅12~20cm、深さ8~10cmで、断面はV字形である。地山土と同質の土で埋め戻されていて、bの周溝によって切られている。

主柱はP15、13、20~23の6本で、周溝から40~60cmの位置にある。SI03-bが柱穴を再利用したと見られるP13を除いた残りの5基のピットは、周溝と同様に地山土と同質の土で埋め戻されていた。さらにP22はP11に、P23はP9に切られている。

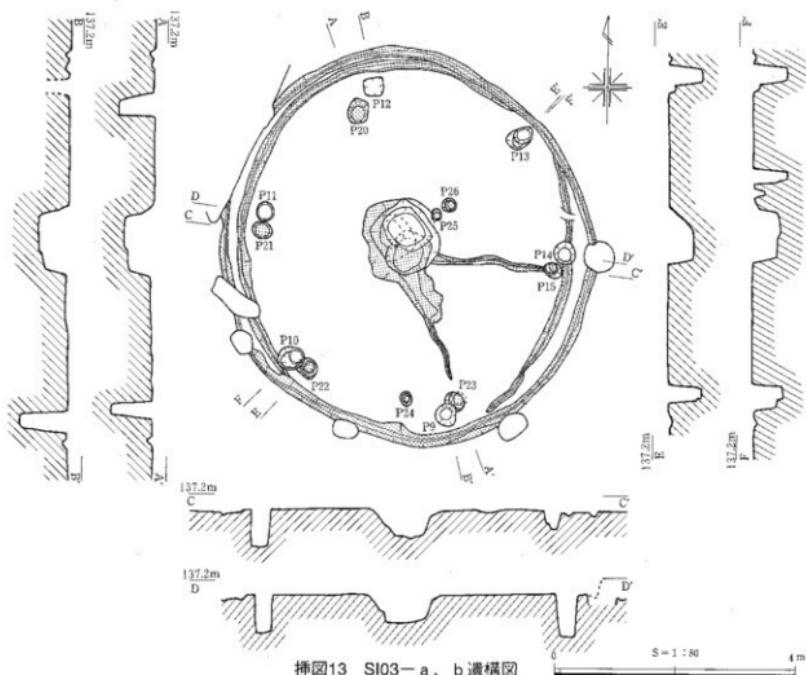


挿図12 SI03, 06構造図

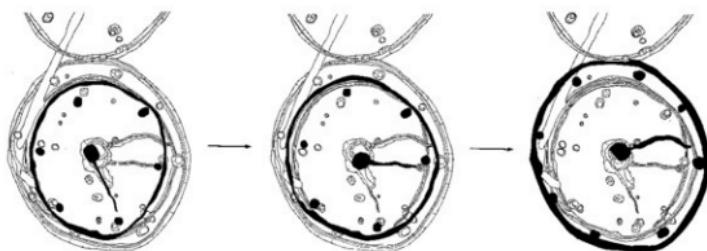


中央ピットは、切り合う b、c の中央ピットの西側にわずかに痕跡を残す、深さ24cmの掘りこみがそれにあたると考えられる。埋土は地山と同質であり、中央ピットbとの切り合いは確認できなかった。従って両者の前後関係は不明確である。中央ピット a が SI03-a の中央に当たらず、むしろ中央ピット b の位置に当たることから、a、b は同一のピットを使用した可能性も考えられる。

中央ピットから派生する溝は南を東方向に向かっており、周溝に達していない。中央ピット c の周堤帯の下から検出され、幅7cm、深さ3cmである。中央ピット側は幅広となっている。



挿図13 SI03-a, b 遺構図



挿図14 SI03変遷図

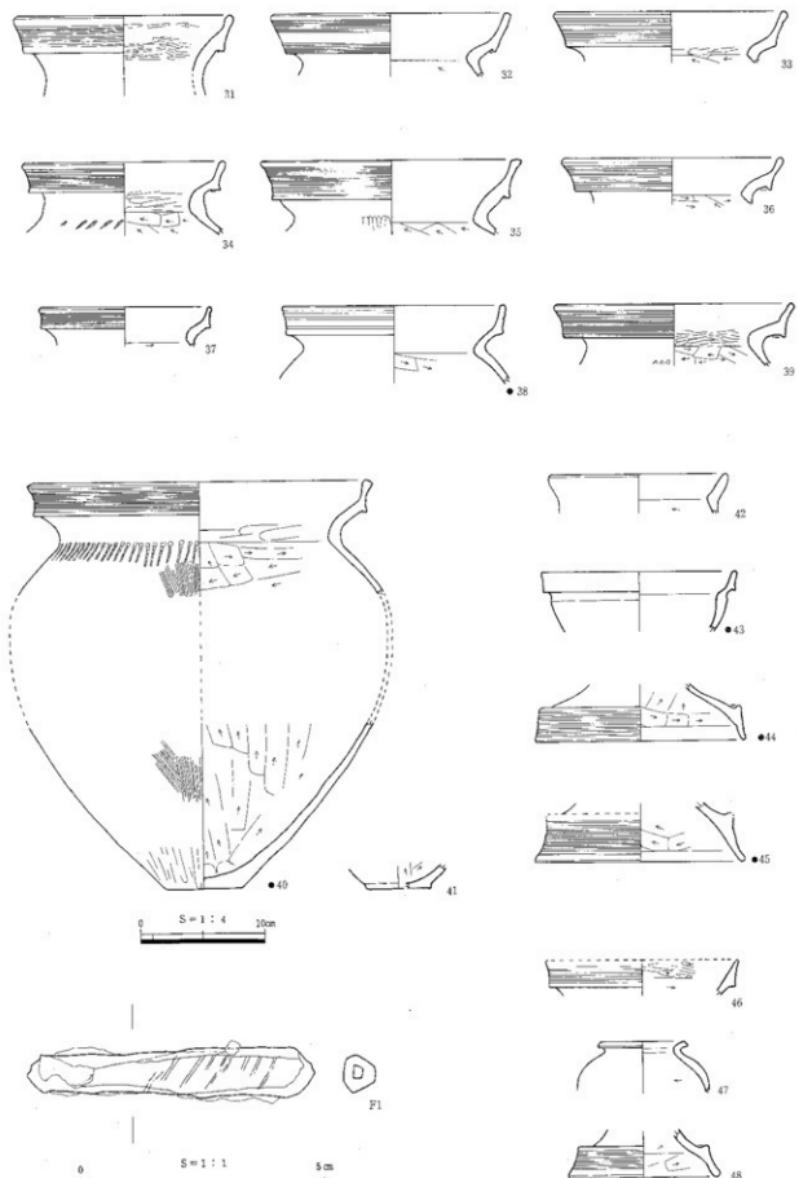
遺物は、SI03-c の埋土中より壺(31)、甕(35~37、39、42)、底部(41)、1点のみであるが棒状鉄製品(F1)が出土している。甕42は「くの字」状の口縁をもつものである。F1は筒状に加工されて中空になっていて、表面に纖維痕と木質が残る。器種は不明である。

床面直上の遺物は少ないが、壺(38)、鉢(43)、器台(44、45)といった小片、完品に近いものでは壺(40)が押し潰された状況で出土した。上半分と下半分が離れた位置で出土し、同一個体として復元している。

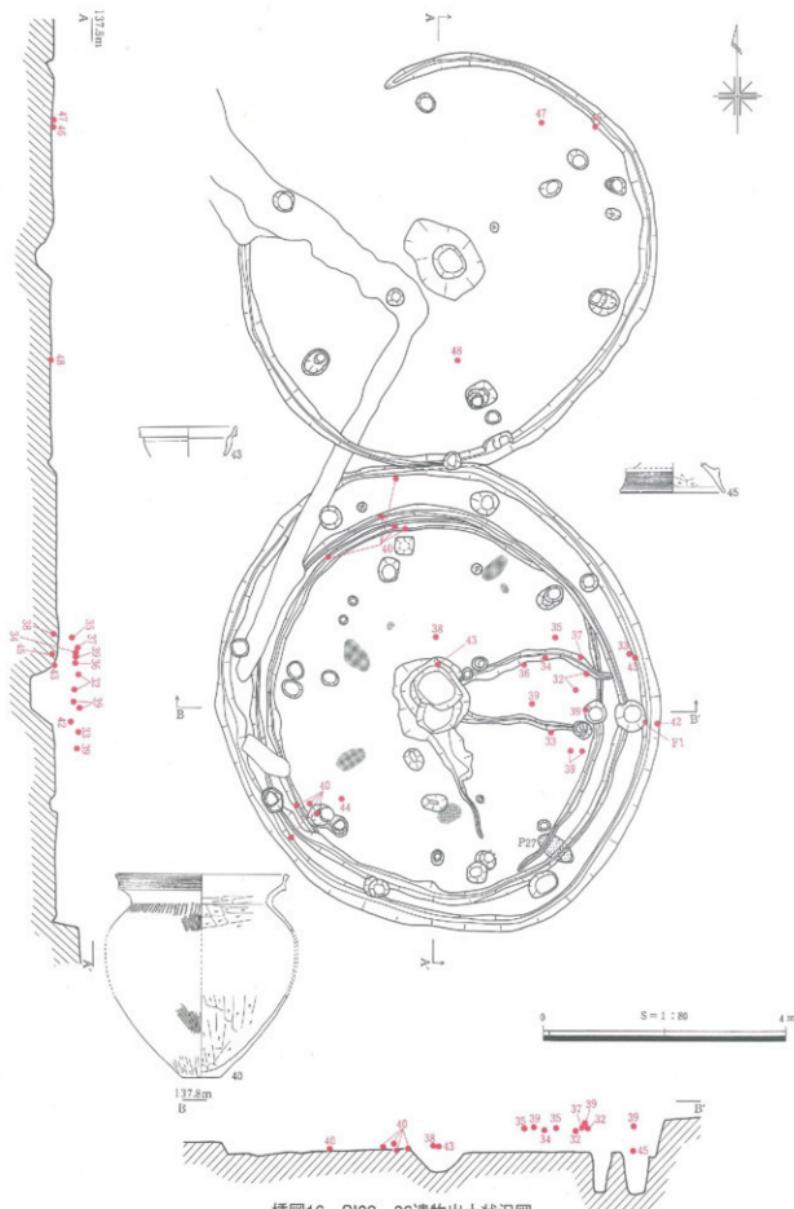
遺構の時期は弥生時代後期中葉、越後山IV期新段階に相当する。

SI06 (挿図12・15・16、図版6・7・36)

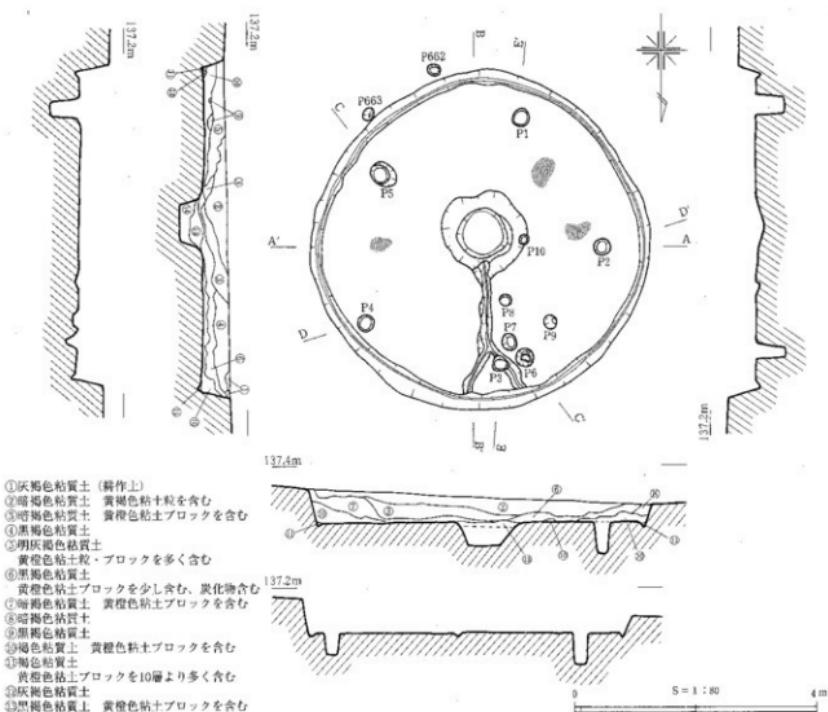
1区B 0~1に位置する、楕円形の堅穴住居跡である。南縁をSI03-c に切られている。北東にSB19がある。



挿図15 SI 03, 06出土遺物実測図



挿図16 SI03, 06遺物出土状況図



挿図17 SI04遺構図

全体に後世の削平および搅乱を強く受けているが、北西側は特に著しく、床面に達している。長径7.1m、短径6.4m、床面積30.7m²で、壁高は最高で40cmを測る。

主柱はP 1～6の6本で、周溝から約70cm離れた位置にある。中央ピットは住居の中心に位置し、平面は直径約60cmの円形、深さは約30cmを測る。中央ピットとP 1、P 4の中心を貫くSI06の主軸線上で、中央ピットの両側に、主柱穴よりも規模の小さいP 10、11があり、棟を支える補助柱と考えられる。周溝は幅約20cm、深さ約8cmを測る。

出土遺物は極めて少ない。埋土中から甕(46)、壺(47)、器台脚部(48)が出土しているが、いずれも小片である。47は如意形の口縁をもつものであるが、風化が著しく、甕の複合口縁が失われた姿の可能性がある。

遺構の時期はSI03との前後関係から弥生時代後期中葉、越後山IV期古段階に相当する。

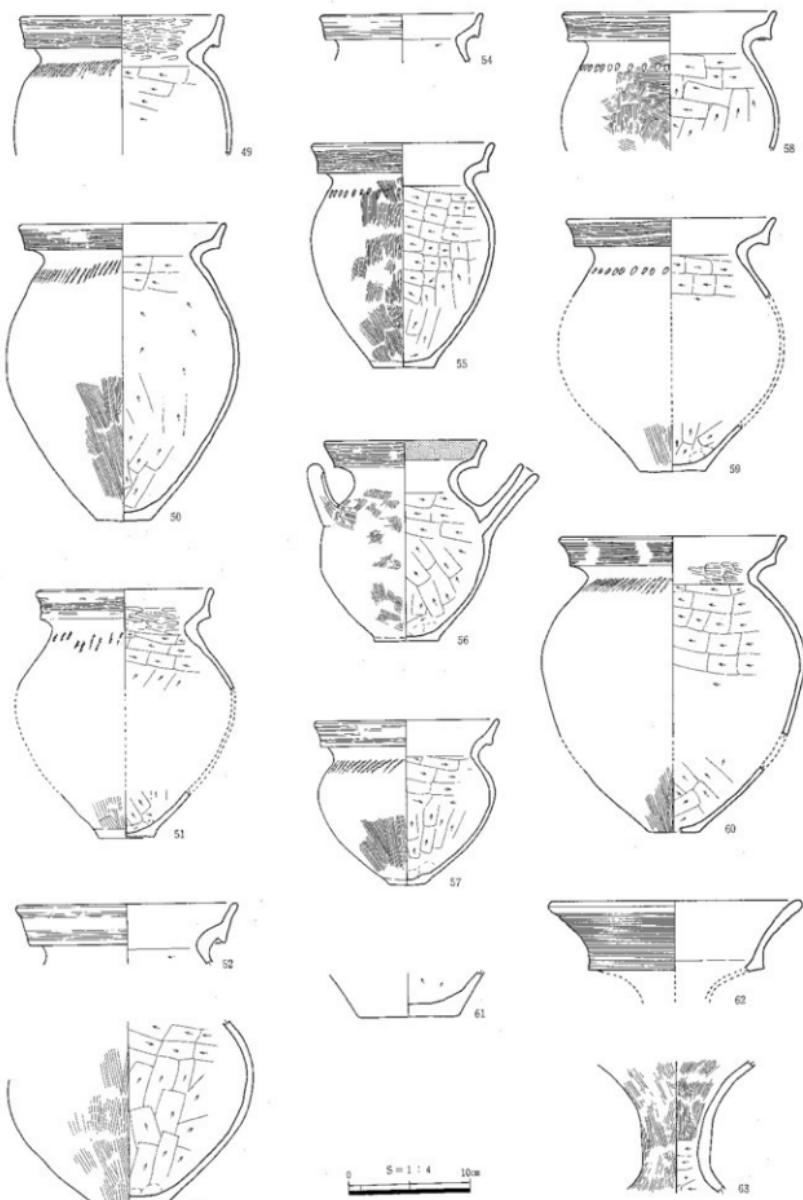
SI04 (挿図17～23、図版8～11・28～34・37)

1区A 3グリッドに位置する。やや胴張りの隅丸方形に近い、円形の壁穴住居である。北々西にSB15がある。また、北東でSK12を切る。

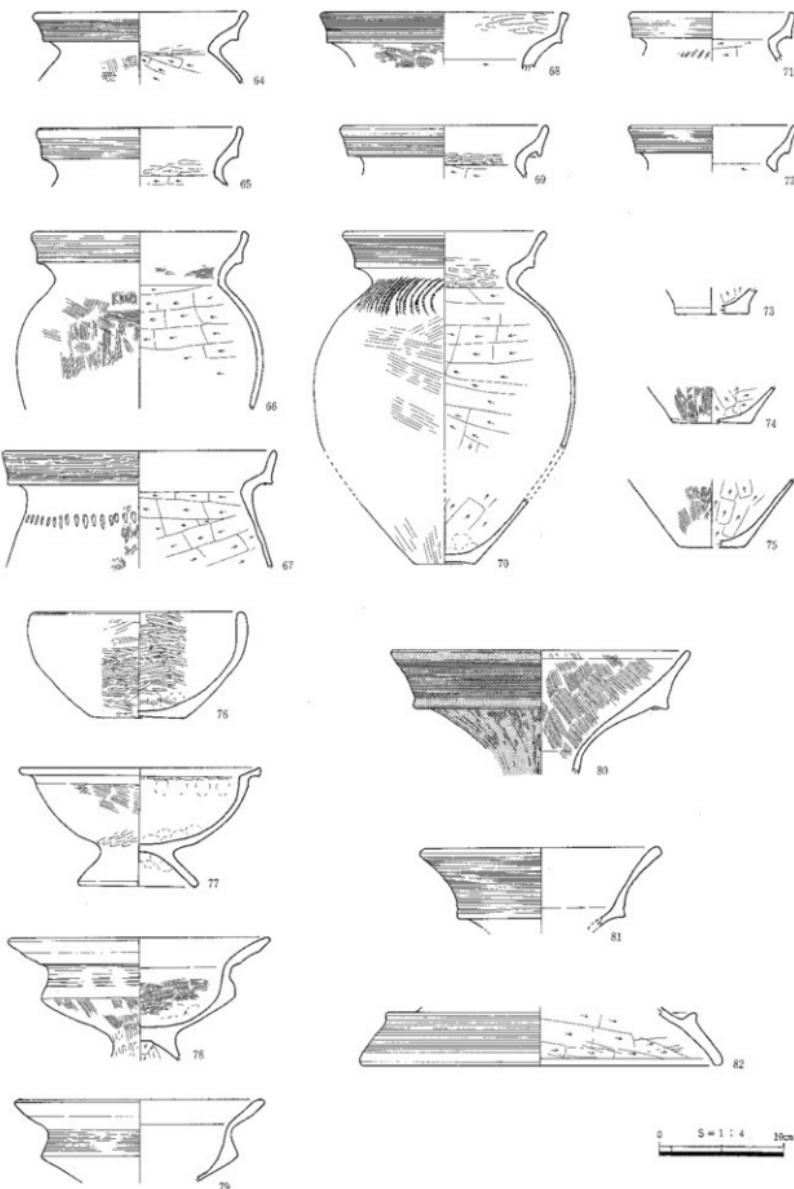
直径約5.4m、床面積20.1m²、壁高は最高で55cm、周溝は幅約12cm、深さ約8cmを測る。

主柱はP 1～5の5本で、隣り合う柱穴の間隔は約2.5m、周溝から30～70cm離れた位置にある。

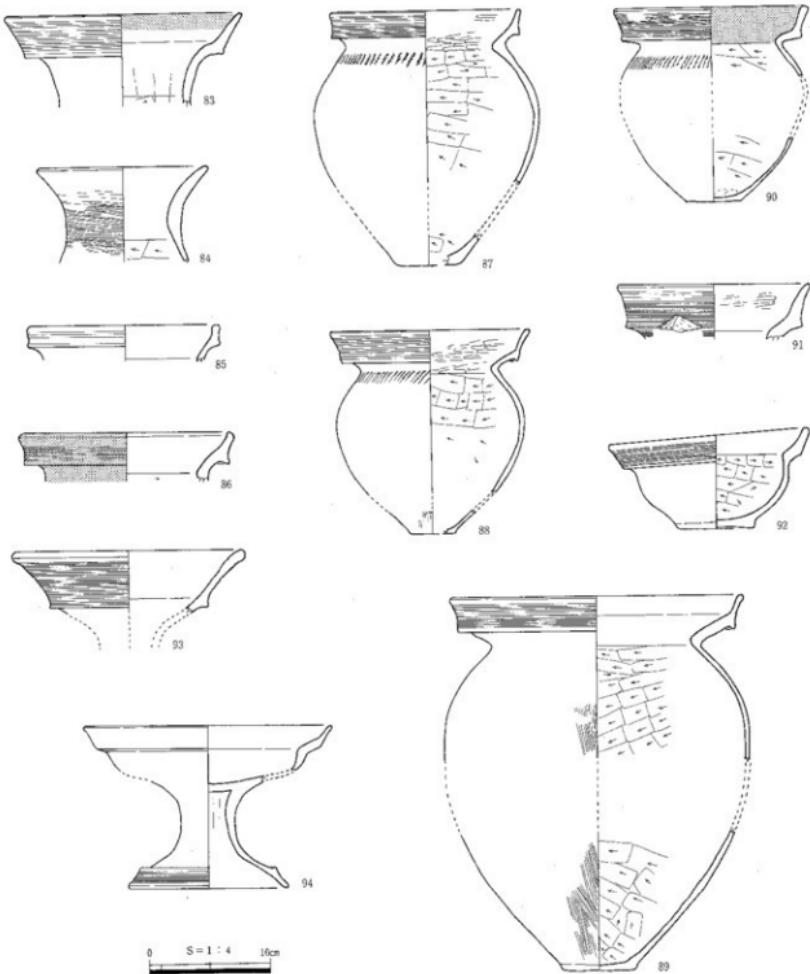
中央ピットは床の中央に位置し、直径約90cmの円形、深さは約40cmを測る。底部に15～25cmの厚さで地山と同質の土が堅く締まった状態で堆積していた。これが人為的なものか自然によるものか判断できない。



挿図18 SI04出土遺物実測図（土器、北西側）



插図19 SII04出土遺物実測図（土器、北東側）

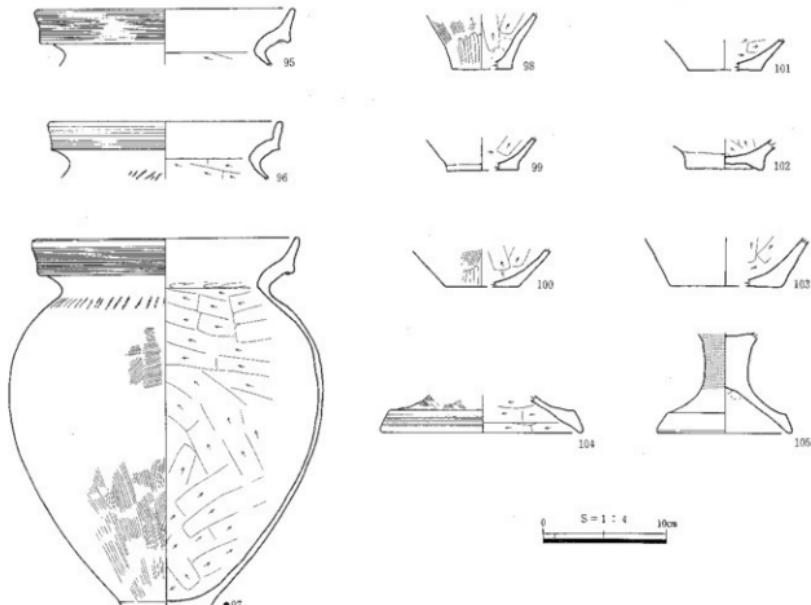


挿図20 SI04出土遺物実測図（土器、南東側）

中央ピットから派生する溝が北方向に掘られており、P 3 の手前で二股に分かれ、周溝に達する。そのうち西側の方は P 2 によって切られている。断面はV字形で幅12~16cm、深さ 3 cm。焼土面は 3 カ所で検出しており、中心から約1.5m離れた位置にある。

P 662、663という2基のピットが住居跡の南々東に接するように掘られている。ピット間の距離は3.3mで、梯子の固定など、竪穴住居に関連する施設の存在が推測される。遺物は出土していない。

埋土は自然堆積によるものであり、北東方向からの流入が著しいことが分かる。遺物が多く出土しているが、



插図21 SI04出土遺物実測図（土器、南西側）

その出土状況から、SI04は家屋の廃絶後、壁沿いから埋没し、大きな窪地状になった段階で、廃棄土坑として使用されたことが推測される。遺物は北東側、北西側、南東側、南西側の4カ所で集中的に出土している。とくに北西側、北東側の出土量が著しい。

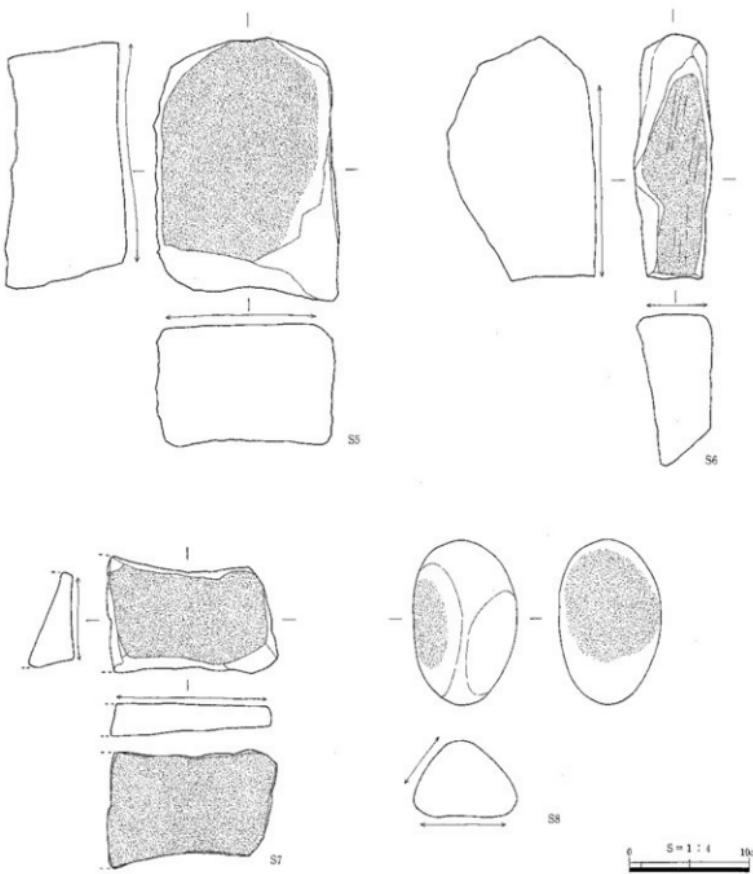
北西側は甕（49～51、53、55、57～60）、注口土器（56）が一ヵ所に集められていた。検出状況ではほとんどが横倒しでつぶれていた。56は外面にススが付着し、口縁内面に赤色顔料が塗布されている。49は口縁を下に向ける状態であった。そのほかに甕（52、54）、底部（61）、鼓形器台（62、63）が出土している。

北東側で原形をよく止めているものでは甕（66、67、70）、鼓形器台（80）、鉢（76）、台付鉢（77、78）が出土している。この区域はP4の上方辺りから土器を落としこんだ状況を呈している。76は精製、77は作りが丁寧だが胎土が粗い。78は内面に炭化物が付着していることから蓋として使用されていたものと推定される。そのほか甕（64、65、68、69、71、72）、底部（73～75）、鼓形器台（81、82）が出土している。

南東側は甕（83、84）、甕（87～90）、高坏（94）、鉢（92）が原形をよく止めている。84は縁部を外反させ、頭部に擬四線が施される。87、88、90は横倒しの状況でまとまって出土した。その近くで94は口を下に向けていた。風化が著しく、図上復元となった。89は口を上に向け、上から押し潰されたような状況で出土した。そのほか甕（85、86、91）、鼓形器台（93）が出土している。93は前掲の62、81と同一固体の可能性がある。

南西側は遺物が少なく、P1の南側で甕（97）が出土した。胴部片が上向きの口縁部を覆っていたことから、廃棄時に意図的に破片を重ねたものと考えられる。住居床面の出土であることから、住居の廃絶時に廃棄された可能性がある。そのほか甕（95、96）、底部（98～103）、器台脚部（104）、高坏脚部（104）が出土している。

土器のほかにも石器も出土しており、砥石（S5～7）、磨石（S8）を同化した。S5は1つの面が使用され、鏡面のように滑らかになっている。S6、S7は風化が著しい。



挿図22 SI04出土遺物実測図 (石器)

前述した土器は原形をよく残しているものの、すべて破損したものであり、そのほかの土器片も含めて廃棄されたものと考えるのが自然である。土器の出土する層位が限られることと、土器に時期幅が見られないことから、恒常に処分場として使用されたものではなく、ある時期に集中して土器が廃棄されたと考えられる。

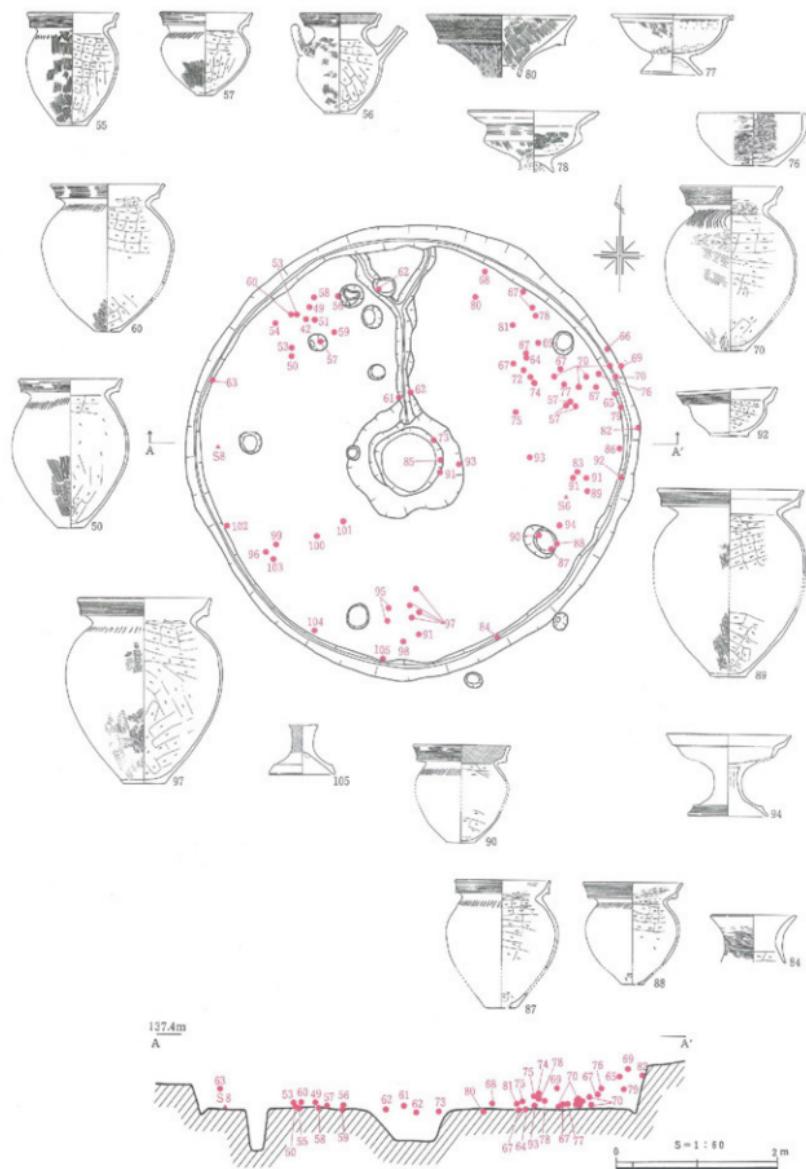
住居跡の廃絶および土器の廃棄は弥生時代後期中葉、越後山IV期新段階と考えられる。

SI05 (挿図24~26、図版12・13・34・35・37)

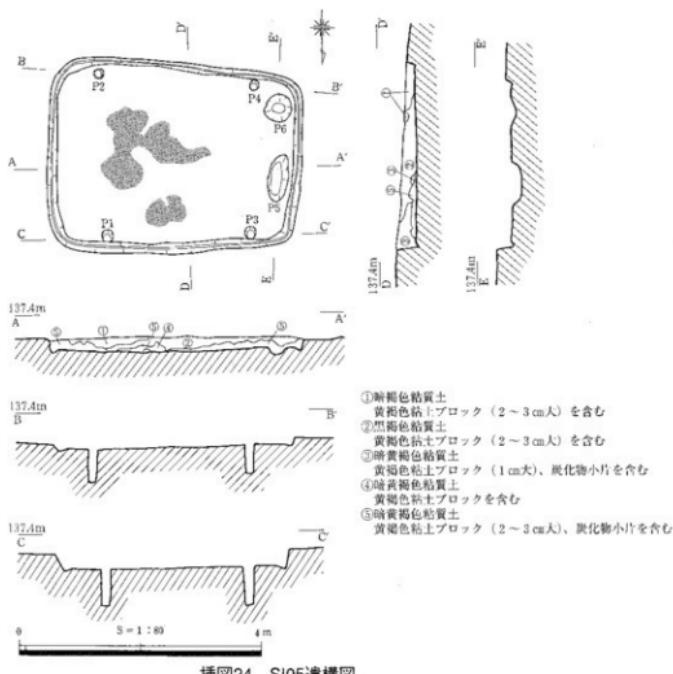
1区D5グリッドに位置する、隅丸方形の竪穴住居跡。東にSB14が隣接する。北にSB21、北西にSB18、SB19がある。

長辺4.2m、短辺は東側3.2m、西側2.7m、床面積は10.6m²、壁高は最高30cmを測る。周溝は幅約10cm、深さ約8cmを測る。

主柱はP1~4の4本で、周溝から15~20cmの位置にある。中央ピットは存在しないが、西側周溝と、P3~



挿図23 SI04遺物出土状況図



挿図24 SI05構造図

P 4を結ぶ線との間に、北側にP 5、南側にP 6が並ぶ。P 5は平面長円形で長径80cm、短径34cm、深さ16cmを測る。底部より炭化物が多く出土しているが、底面は焼上化していない。P 6は住居跡の南西隅に位置し、平面円形で直径42~45cm、深さ12cmを測る。床面から皿状に掘り込まれており、炭化物が出土している。

床面は広範囲が焼土と化しており、主として中央より東寄りに広がっている。

埋土は床面付近で炭化物の小片が混じるが、建材は出土していない。全般に地山土ブロックが多く混在しており、人為的な埋めもどしの可能性がある。

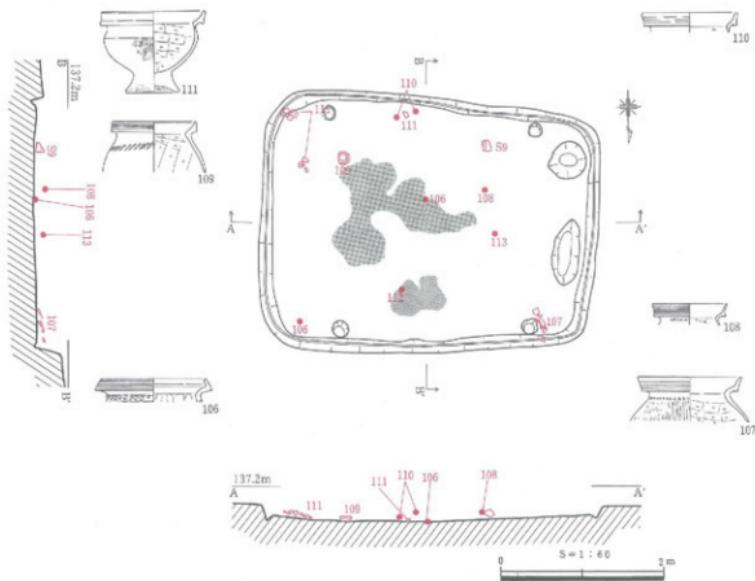
遺物は床面直上から甕（109）、砥石（S 9）が出土している。109は上半部のみで口縁を上にして置かれていた。胴部は張り出さず、工具による「ノの字」状の刺突文が施される。S 9は3面が使用されている。甕（107）、台付鉢（111）が床面から数cm浮いた位置で出土している。111は台部が焼けている。そのほか埋土中から甕（106、108、110）、底部（112、113）が出土している。106は頭部にナデ消された指頭圧痕張付突帯文をもつ、弥生時代中期後葉の土器である。

床面の広範囲の焼土化は他の住居跡のものと比較して著しいものであるが、炭化した建材が出土しないこと、甕109の出土状況から、火災の可能性は低い。

遺構の時期は弥生時代後期中葉、越敷山IV期古段階に相当する。

SI07 (挿図27~29、図版14・15・35・36)

3区M10グリッドに位置する円形の住居跡。南北にSB24、南北東にSI09が並ぶ。中央ピットより南西側は農道敷設の際に削平されており、中央ピットの北東側も後世の溝の掘削によって擾乱を受けている。二重の同心円状の周溝を確認しており、埋土の堆積状況は床面積の拡張を伴う建て替えが行われたことを示している。内側をSI07-a、外側をSI07-bと呼称する。



挿図25 SI05遺物出土状況図



挿図26 SI05出土遺物実測図

SI03

ピット名	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	土色	備考	旧ピット名
P 1	42	30	70	暗褐色粘質土、黄褐色土粒混		SI03-P 1
P 2	42	32	68	暗褐色粘質土、黄褐色土粒混		SI03-P 2
P 3	32	31	77	暗褐色粘質土、黄褐色土粒混		SI03-P 3
P 4	39	37	68	暗褐色粘質土、黄褐色土粒混		SI03-P 4
P 5	45	39	64	暗褐色粘質土、黄褐色土粒、淡褐色土粒混		SI03-P 5
P 6	39	28	76	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI03-P 6
P 7	52	50	69	暗褐色粘質土、黄褐色土粒、淡褐色土ブロック混		SI03-P 7
P 8	52	36	73	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI03-P 8
P 9	39	37	77	暗灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI03-P 9
P10	45	38	48	暗褐色粘質土、黄褐色土粒混		SI03-P 11
P11	30	25	66	黄褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI03-P 10
P12	32	30	?	暗褐色粘質土	柿木の下	SI03-P 15
P13	45	32	58	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI03-P 17
P14	38	34	69	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI03-P 18
P15	30	24	32	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI03-P 19
P16	37	29	12	灰褐色粘質土		SI03-P 22
P17	28	23	34	暗灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	柿木の下	SI03-P 12
P18	15	14	21	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI03-P 27
P19	16	16	15	暗灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI03-P 26
P20	40	33	57	灰褐色粘質土	埋め戻し	SI03-P 14
P21	33	28	62	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック	埋め戻し	SI03-P 29
P22	34	30	55	黑褐色粘質土ブロック	上面に貼り床を施す	SI03-P 31
P23	34	32	60	黄褐色土ブロック	埋め戻し	SI03-P 33
P24	24	20	17	黄褐色土ブロック	埋め戻し	SI03-P 32
P25	20	16	20	暗黄褐色土・灰褐色土	上面に貼り床を施す	SI03-P 30
P26	26	23	56	暗褐色粘質土	埋め戻し	SI03-P 28
P27	68	32	38	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	埋め戻し、SI03以前か	SI03-P 24

挿表4 SI03ピット一覧表

SI04

ピット名	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	土色	備考	旧ピット名
P 1	30	28	46	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック、炭化物混		SI04-P 1
P 2	28	27	53	暗灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック、炭化物混		SI04-P 2
P 3	27	24	48	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック、炭化物混		SI04-P 3
P 4	27	27	37	暗灰褐色粘質土、黄褐色土粒混		SI04-P 4
P 5	30	28	60	暗灰褐色粘質土、黄褐色土粒混		SI04-P 5
P 6	29	28	18	淡黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI04-P 6
P 7	27	24	10	灰褐色粘質土	凹みか?	SI04-P 7
P 8	20	18	6	暗灰褐色粘質土	凹みか?	SI04-P 8
P 9	22	22	10	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI04-P 9
P 10	17	15	10	不明		SI04-P 10

挿表5 SI04ピット一覧表

SI05

ピット名	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	土色	備考	旧ピット名
P 1	19	18	60	黒褐色粘質土		SI05-P 1
P 2	17	14	53	黑褐色粘質土		SI05-P 2
P 3	20	18	62	黒褐色粘質土		SI05-P 3
P 4	16	16	46	黒褐色粘質土		SI05-P 4
P 5	80	34	16	黒褐色粘質土、炭化物混	平面長円形	SI05-P 5
P 6	45	42	12	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	圓状	SI05-P 6

挿表6 SI05ピット一覧表

SI06

ピット名	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	土 色	備 考	旧ピット名
P1	37	29	55	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI06-P1
P2	48	44	62	暗褐色粘質土		SI06-P2
P3	50	43	50	暗褐色粘質土、黄褐色土粒混		SI06-P3
P4	50	38	60	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI06-P4
P5	35	34	72	黒褐色粘質土		SI06-P5
P6	31	27	63	黒褐色粘質土		SI06-P6
P7	35	26	18	暗灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI06-P7
P8	25	18	11	暗灰褐色粘質土		SI06-P8
P9	38	25	9	暗灰褐色粘質土		SI06-P9
P10	16	15	36	暗灰褐色粘質土		SI06-P10
P11	28	26	28	不明		SI06-P11

挿表7 SI06ピット一覧表

SI07

ピット名	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	土 色	備 考	旧ピット名
P1	40	40	80	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI07-P1
P2	42	35	70	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI07-P2
P3	50	42	90	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI07-P3
P4	60	38	75	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック、粒混		SI07-P4
P5	34	26	70	暗褐色粘質土、黄褐色土粒混	比較的浅い	SI07-P6
P6	50	50	50	暗褐色粘質土、黄褐色土粒少し混		SI07-P9
P7	38	60	60	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI07-P11
P8	38	34	70	不明		SI07-P5
P9	34	70	70	暗褐色粘質土、黄褐色土粒少し混	径小さいが深い	SI07-P7
P10	40	58	58	暗褐色粘質土、黄褐色土粒混		SI07-P10
P11	38	55	70	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック多く混		SI07-P20
P12	40	75	75	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック多く混		SI07-P17
P13	40	80	80	暗灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック多く混		SI07-P14
P14	33	60	60	褐色土		SI07-P15
P15	22	75	75	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック少し混		SI07-P18
P16	23	26	26	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック少し混		SI07-P19
P17	31	10	10	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI07-P13
P18	18	7	7	淡褐色粘質土、黄褐色土粒混		SI07-P16
P19	50	20	20	黑褐色粘質土		SI07-P12
P20	24	51	51	暗褐色粘質土、黄褐色土粒少し混		SI07-P8
P21	38	30	4	灰褐色粘質土		SI07-P21

挿表8 SI07ピット一覧表

SI08

ピット名	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	土 色	備 考	旧ピット名
P1	30	22	55	暗灰褐色粘質土、淡黄色土ブロック、粒多く混	底面より鉄器F2	SI08-P1
P2	26	22	55	暗灰褐色粘質土、淡黄色土ブロック、粒多く混、炭化物混		SI08-P2
P3	30	22	38	暗灰褐色粘質土、淡黄色土ブロック、粒多く混、炭化物混		SI08-P3
P4	30	25	46	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI08-P4
P5	28	28	44	暗灰褐色粘質土、淡黄色土ブロック混	上面貼り床	SI08-P18
P6	40	34	40	黑褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI08-P6
P7	32	26	60	黑褐色粘質土、黄褐色土粒混		SI08-P8
P8	28	24	58	暗灰褐色粘質土、淡黄色土ブロック多く混		SI08-P9
P9	28	24	42	黑褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI08-P5
P10	24	20	20	黑褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI08-P7
P11	18	18	25	灰褐色粘質土、燒土粒、炭化物粒混		SI08-P15
P12	23	23	35	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI08-P13
P13	30	28	40	断面図参照		
P14	20	20	12	暗灰褐色粘質土、淡黄色土ブロック混		SI08-P14
P15	25	25	43	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	埋め戻し	SI08-P19
P16	30	23	20	灰褐色粘質土、燒土粒、淡黄色土粒混		SI08-P16
P17	20	20	10	暗灰褐色粘質土	P11に似る	SI08-P12
P18	28	20	18	黑褐色粘質土		SI08-P10
P19	20	13	8	灰褐色粘質土、淡黄色土ブロック混		SI08-P20

挿表9 SI08ピット一覧表

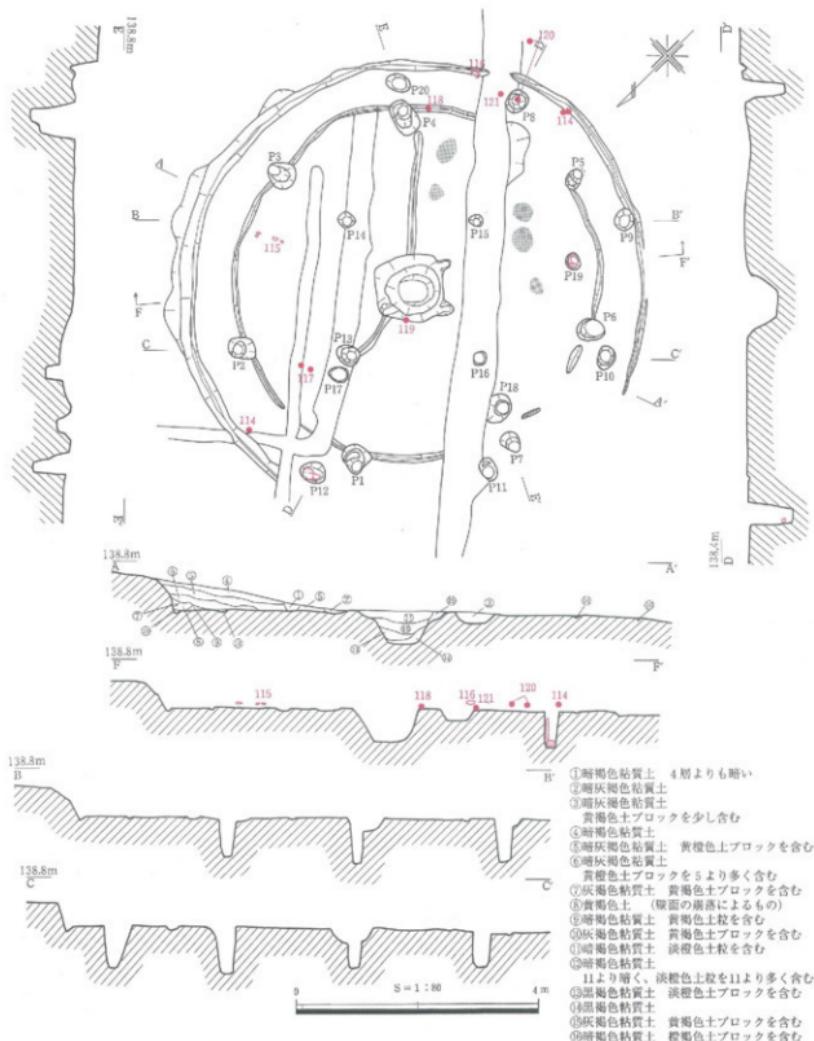
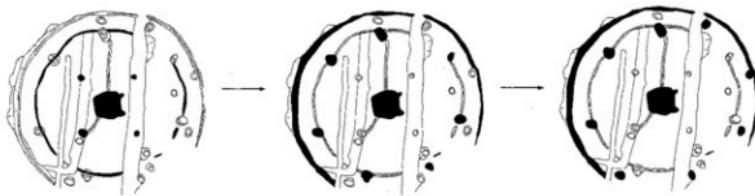


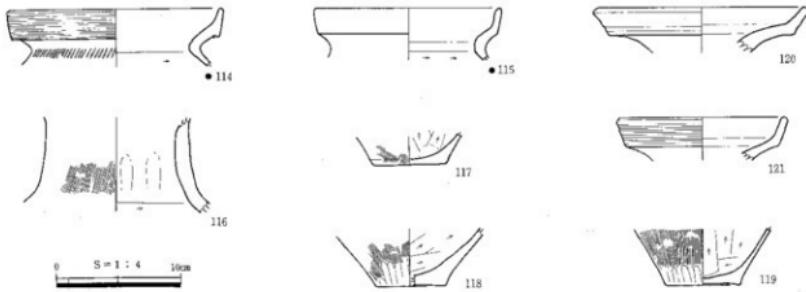
図27 SI07構造図

SI07-bは直径7.7m、壁高は最高で50cm、床面積42.0m²を測る。周溝は幅10cm、深さ8cmで、北西側の4分の1は削平されている。

柱はSI07-aの周溝上に並ぶP1~7の7本が想定され、周溝からの距離は60~70cmを測る。この外側にP8~12が配されており、P2、3、4と合わせて8本柱の建物跡が復元できる。これをSI07-bの後に建て替え



挿図28 SI07変遷図



挿図29 SI07出土遺物実測図

られたSI07-cと呼称する。P12は底面に石を配している。

中央ピットは床面の中央に配され、上部は1.1m×1.1mの隅丸方形、下部は直径80~90cmの円形を呈し、深さは55cmを測る。上部は西、南溝が突出し、あたかも木枠がはめられていたかのような状況を呈している。

中央ピットから北方向と南東方向に溝が伸びており、幅10cm、深さ2cmを測る。いずれも周溝に達しない。

焼上面は南側のみで検出しており、中心から2m前後の距離にある。

SI07-aは直径6m、床面積26.0m²を測る。周溝は幅10cm、深さ5cmを測る。主柱はP13~16の4本で、周溝からの距離は1.3~1.4mを測る。

上記の主柱穴のほかに、P13の北にP17、P7の東にP18、P5とP6の間に、底部に石を配するP19があり、これらは補助柱として使用されたと考えられる。P4の東にあるP20は深さ4cmの浅い窪みであるが、SI07-cへの拡張時に、P4の柱を移動する予定地点として、あたりをつけた跡とも考えられる。

以上のように、SI07はaからbで床面積の拡張を伴う建て替えが、bからcでは床面積をそのままに、主柱穴を外に張り出す建て替えを行っている。

住居南東の壁際に、地山土のブロックが堆積していたが、これは壁土が崩落したものと見られる。人為的な痕跡は認められず、埋土は自然堆積と見られる。

遺物は床面から甕114、115、周溝内から壺類部116、埋土中から器台120、121、底部117~119が出土している。また住居外であるが、棒状鉄製品(F4)が出土している。農道敷設時に住居内から流出したものであろうか。

遺構の時期は弥生時代後期中葉、越後山IV期に相当する。

SI08 (挿図30・31、図版14・15・38・39)

2区N~O-13~14グリッドに位置する、椭円形の壁穴住居跡。一帯は削平されており、特に住居跡の西半分は床面を削られている。現況は斜面であるが、開発の入る前は平坦地あるいは緩斜面であったと推察される。復元値で長径7.3m、短径6.5m、床面積33.6m²を測る。周溝は幅約10cm、深さ約5cmで、西側は失われている。

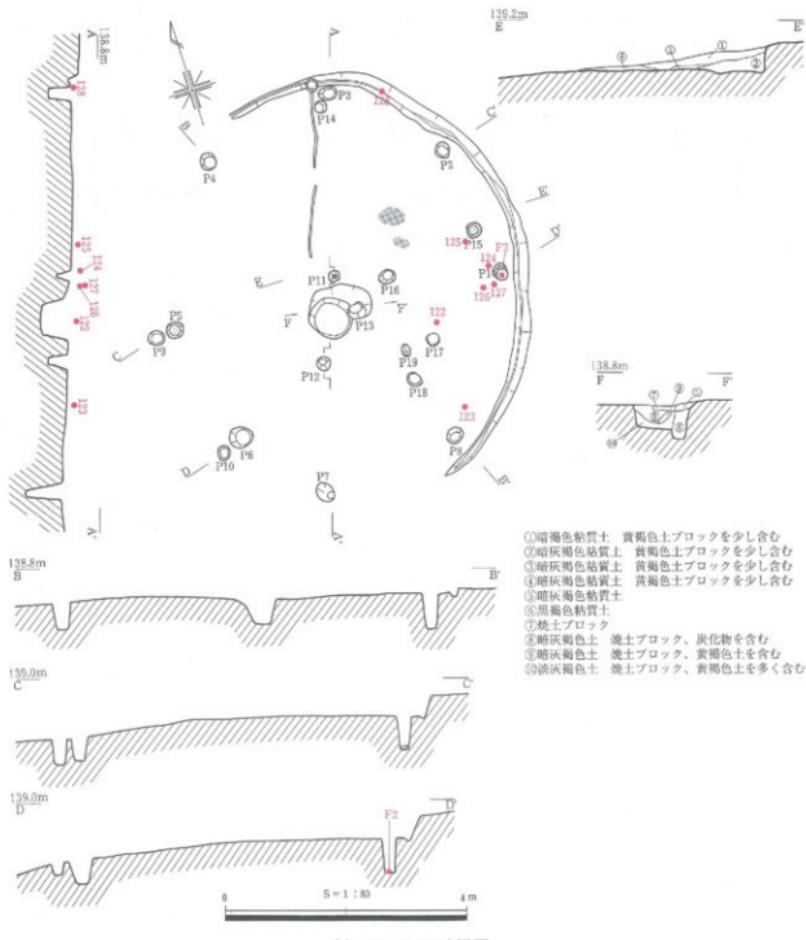


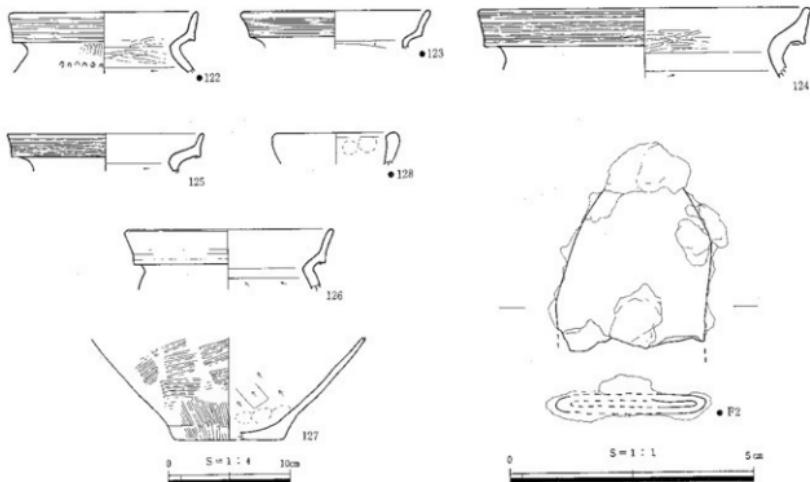
図30 SI08遺構図

主柱はP 1～8の8本である。P 2は底面に平石を配する。P 5、P 6それぞれに住居の外側に隣接するP 9、10がある。P 5の上面には貼り床が施されていたことから、SI08は部分的に柱の建て替えが行われていたようである。長軸のP 3～P 8間で中央ピットの両側にP 11、12という主柱に比べて小規模なピットが並ぶ。これは位置的に棟材を支える補助柱の跡と考える。

中央ピットは床面の中央よりやや南寄りに位置し、平面形は直径約70cmの円形、深さは約50cmの規模を持つ。P 13が東側に接するが、これも補助柱として使用されたものと考える。

中央ピットの北側に、P 3方向に向かう溝を検出した。上面が削平されているため、検出した規模は幅約4cm、深さ1～2cmと小さいが、ほかの住居跡で検出している溝と同性格のものであろう。

焼土面は中央ピットとP 2の中間に位置する。この直上の埋土は焼土の塊が多く混入していた。基本的には自



挿図31 SI08出土遺物実測図

然堆積と考えられる。

遺物は床面から甕（122、123）、鉢（128）が出土している。またP1の底面より三角形凹基式の鉄釘（F2）が出土している。埋土中から甕（124～126）、底部（127）が出土している。127は洞部外面にタタキメを残し、当地域の土器には見られない技法である。

遺構の時期は弥生時代後期中葉、越敷山IV期古～新段階に相当する。

SI09（挿図32～34、図版15・37・38）

2～3区、M～N11グリッドに位置する、円形の壁穴住居跡である。北北西にSI07、北にSB24、南々東にSB26、27がある。北東側の半分を3区側の農道部分で検出し、北東端を農道の掘溝によって、また2区の南西側半分は農道敷設時の削平によって大きく損なわれている。

周溝を3条検出しており、床面積の拡張を伴う建替えが2度行なわれている。床面では多数の柱穴が確認されており、それらは近い距離で隣接し、あるいは切り合って、いくつかの群を形成している。周溝、中央ピットの位置、加えて柱穴の配列から4時期の建物を復元した。以下、古いものから順にa、b、c、dと呼称する。

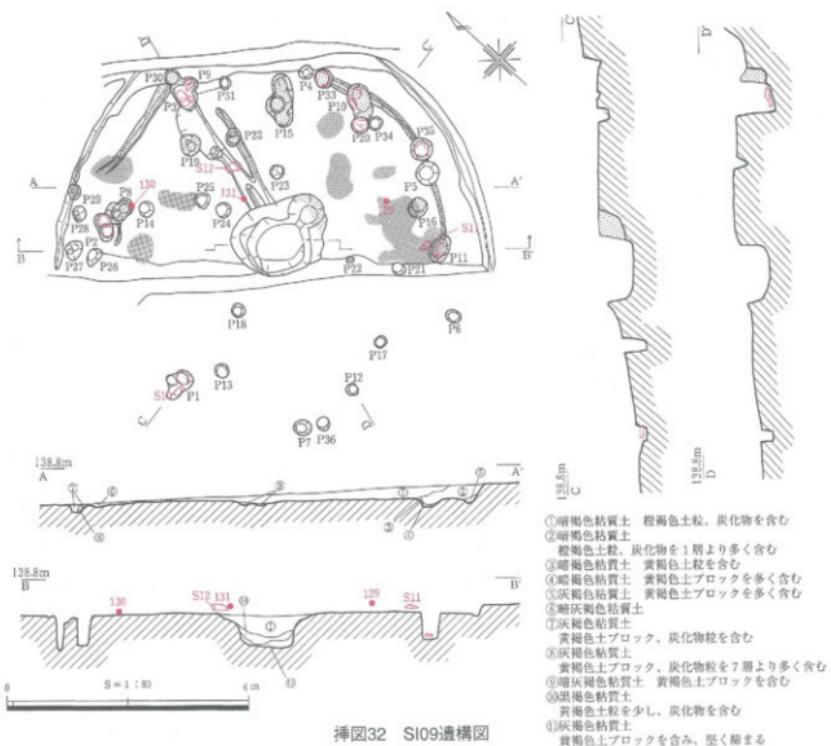
SI09-c、dは外側を巡る周溝を伴う。直径7.2m、床面積は復元で36.5m²、壁高は最大で25cmを測る。周溝は幅12～15cm、深さ6cmを測る。

最も新しい時期のSI09-dの主柱は、埋土と切り合い関係及び柱穴間の距離からP1、P2（またはP26）、P3、P4（またはP33）、P5（またはP35）、P6、P7（またはP36）の7本を想定した。そしてSI09-cは埋め戻されたピットを含む、P1、P8～12を主柱とする6本柱の建物跡と考えられる。

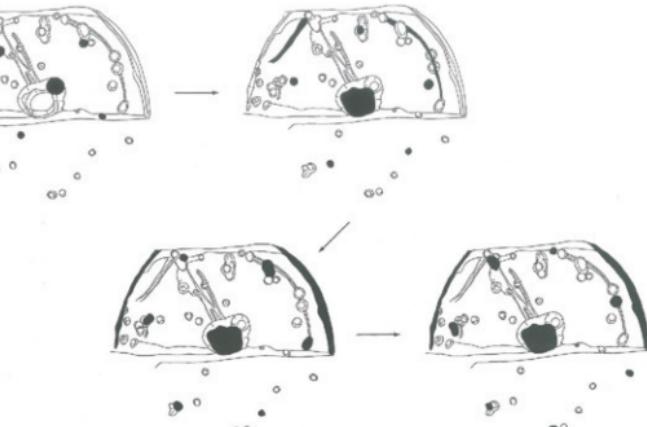
中央ピットは床面の中央に位置し、南西部が削平されているが、平面は1辺約1mの隅丸方形を呈し、深さ約50cmを測る。縁辺は浅く掘りこまれ、緩い傾斜をもつ。

中央ピットから派生する溝を2条検出した。幅10～20cm、深さ3cmで北方向に並行して伸びている。中央ピットから50cmの位置で繋がっており、平面形はN字状を呈する。2条の前後関係は不明である。

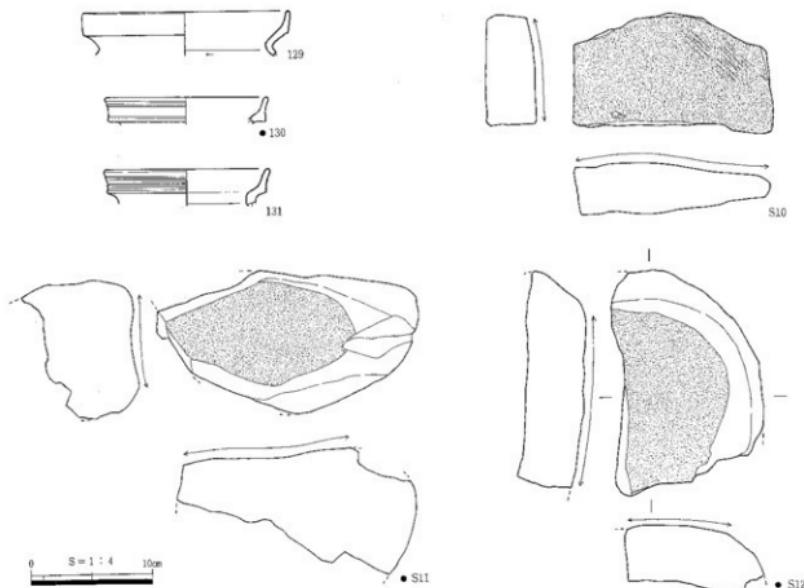
SI09-bはc、dの周溝の内側を巡る周溝を伴う。直径5.9m、床面積は復元値で26.3m²。周溝は幅約10cm、深さ約5cmを測り、地山土と同質の土で埋め戻されていた。主柱穴は柱穴間距離からP13～17の5基が復元される。この内P15、P16は上面を地山土で埋め戻されていた。中央ピットはその位置からSI09-c、d同一と考える。



挿図32 SI09遺構図



挿図33 SI09変遷図



挿図34 SI09出土遺物実測図

SI09-b、c、dに共通する中央ピットの東層は地山土と同質の土で埋め戻された痕跡があった。その埋土を取り除くと、直径60cmの円形を呈し、深さ45cmを測るピットを検出した。これは先行する壺穴住居SI09-aの中央ピットであると判断した。

主柱はP18~21の4本と考えられる。P19は埋め戻されている。周溝はP25の西側にわずか50cmの長さが残り、幅4cm、深さ2cmを測る。中央ピットを床面の中心とすると、直径6.2m、床面積約30.2m²と復元できる。

SI09はピット底面に平石を敷くものが多く検出され、P1~3、8~11、20、33、35がそれに当たる。P2は平石の下にさらにはピットがあり、その底面にも同じく石が敷かれていた。これらの石は柱材の長さの調整に使われたものと考えられる。

焼土面は7カ所で検出している。南東側のものは埋め戻されたP11、16の上に広がることから、SI09-dの時期のものである。

農道敷設時に床面付近まで削平されたため、埋土は南東側にやや残すのみであった。炭化物粒を含むものの、火災の痕跡は認められない。中央ピットの底部には地山土と同質の土が堅くしまって堆積しており、SI04に似た状況を呈する。これが意図的に埋め戻されたかどうかは不明であるが、その上層は自然堆積と考えられる。

遺物は床面から甕(130)、砥石(S11、S12)が出土している。S11は焼土面上で出土しており、下側が焼けて赤変していたことから、別の用途をもっていたとも考えられる。砥石(S10)はP1の底面より出土した。埋土中から甕(129、131)が出土している。土器はいずれも小片である。

遺構の時期は弥生時代後期中葉、越歴山IV期に相当するものと考える。

SI09

ピット名	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	土 色	備 考	旧ピット名
P 1	42	32	18	暗褐色粘質土	砾石 S10を根石に転用	SI09-P1
P 2	46	26	74	暗灰褐色粘質土、黄褐色土粒混	2つの根石	SI09-P24
P 3	50	33	66	暗褐色粘質土、黄褐色土粒混	根石	SI09-P17
P 4	24	22	66	暗褐色粘質土、黄褐色土粒混		SI09-P15
P 5	38	38	70	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック、粒混	根石	SI09-P11
P 6	22	20	31	黒褐色粘質土、黄褐色土粒混		SI09-P7
P 7	28	25	25	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック多く混、炭化物混		SI09-P4
P 8	47	34	71	暗灰褐色粘質土		SI09-P25
P 9	27	25	73	灰褐色粘質土	P3と隣接、先行	SI09-P36
P10	59	36	64	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	上面貼り床	SI09-P34
P11	48	29	44	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	七面焼土、貼り床、根石	SI09-P31
P12	19	19	20	暗灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック多く混		SI09-P5
P13	22	22	27	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック多く混		SI09-P2
P14	26	26	60	不明、灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混?		SI09-P29
P15	28	22	68	黒灰色粘質土、黄褐色土ブロック混	上面貼り床	SI09-P37
P16	32	30	54	暗灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	上面焼土、貼り床	SI09-P32
P17	21	19	35	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック、灰褐色土ブロック混		SI09-P 6
P18	25	23	32	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック多く混		SI09-P 3
P19	40	38	67	暗褐色粘質土	埋め戻し	SI09-P30
P20	28	27	51	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック多く混、炭化物混	根石	SI09-P14
P21	21	19	34	淡褐色粘質土、黄褐色土ブロック多く混、炭化物混		SI09-P 8
P22	13	10	17	淡褐色粘質土、黄褐色土ブロック多く混	小穴	SI09-P 9
P23	22	22	30	灰褐色粘質土、焼土ブロック混		SI09-P19
P24	26	24	21	灰褐色粘質土、焼土粒混		SI09-P27
P25	26	25	19	灰褐色粘質土、炭化物混	擾乱?	SI09-P26
P26	32	22	49	暗灰褐色粘質土		SI09-P28
P27	32	28	56	褐色粘質土、糞込めに黄褐色ブロック混		SI09-P20
P28	26	24	14	暗灰褐色粘質土、黄白色土ブロック混		SI09-P21
P29	25	20	25	暗灰褐色粘質土、黄白色土ブロック混		SI09-P22
P30	25	23	53	灰褐色粘質土	P3と隣接、先行	SI09-P35
P31	20	17	57	暗灰褐色粘質土、黄褐色土粒混		SI09-P16
P32	29	24	23	上、暗灰褐色粘質土、下、黄褐色土ブロック、白色粒子、炭化物混	埋め戻し、床構より後	SI09-P18
P33	31	29	40	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	埋め戻し?、根石	SI09-P23
P34	22	22	17	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混、炭化物混		SI09-P13
P35	26	36	53	暗褐色粘質土、黄褐色土粒混	根石	SI09-P12
P36	23	20	27	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混、炭化物混	P7と似る	SI09-P10

播表10 SI09ピット一覧表

第3節 挖立柱建物跡

SB01 (挿図39)

1区D0グリッドに位置する1間×1間のもの。梁行、桁行とも2.6mで、主軸はN-63°-Wである。南西にこれよりやや小さく、同じ方向を向くSB02が隣接している。

SB02 (挿図37)

1区D0グリッドに位置する1間×1間のもの。梁行2.0m、桁行2.5mで、主軸はN-61°-Wである。北東にSB01が隣接、北西梁側にSB06が接している。

SB03 (挿図36)

1区D1グリッドに位置する1間×2間のもの。梁行3.0m、桁行4.6mで、桁行方向の柱穴間平均距離は2.3mを測る。主軸はN-55°-Eである。北西にこの約3分の1の大きさをもつSB16が重なる。南隅のP6からは3個体以上の甕の脇部片と底部片が重なって出土しており、柱を抜き取った後に投棄されたものと考えられる。底部(132、133)を図化した。

SB04 (挿図36、図版16)

1区D2グリッドに位置する1間×2間のもの。梁行2.8m、桁行5.0mで、桁行方向の柱穴間平均距離は2.5mを測る。主軸はN-15°-Eである。ピット径が36~55cm、深さも38~60cmと他のものに比べ大きくしっかりしている。北半にSB05が重なるが、前後関係は不明である。

SB05 (挿図38、図版16)

1区D2グリッドに位置し、SB04に重なる1間×1間のもの。梁行2.2m、桁行2.7mで、主軸はN-62°-Eである。

SB06 (挿図38、図版16)

1区D3グリッドに位置する1間×1間のもの。梁行2.2m、桁行2.7mで、主軸はN-65°-Eである。

SB07 (挿図39、図版16)

1区D3グリッド、SI02の南西に位置する1間×1間のもの。梁行2.3m、桁行2.7mで、主軸はN-46°-Eである。

SB08 (挿図39)

1区E-F3グリッド、SI02の東に位置する1間×1間のもの。梁行2.5m、桁行2.7mで、主軸はN-13°-Wである。

SB09 (挿図36、図版17)

1区C-D4グリッドに位置する1間×2間のもの。梁行2.8m、桁行4.5mで、桁行方向の柱穴間平均距離は2.2mを測る。主軸はN-65°-Wである。

SB10 (挿図38)

1区E-F4グリッドに位置する1間×1間のもの。梁行2.3m、桁行2.8mで、主軸はN-85°-Wである。北西にSK02がある。ピットの深さが60~77cmと他のものに比べて深い。

SB11 (挿図40、図版17)

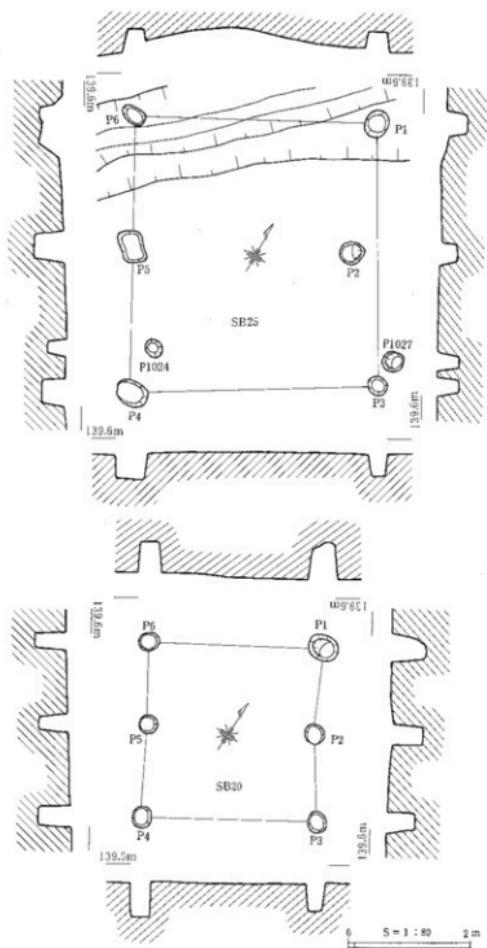
1区F4グリッドに位置する1間×1間のもの。梁行2.6m、桁行2.9mで、主軸はN-22°-Wである。東桁辺にこれよりやや小さいSB13がかかり、SB12が隣接している。

SB12 (挿図37、図版17)

1区F4グリッド、SI01の南に位置する1間×1間のもの。梁行1.8m、桁行2.5mで、主軸はN-4°-Eである。これより大きなSB13と主軸を直交して重なる。ピットの切り合いでSB13に先行する。

SB13 (挿図38、図版17)

1区F4グリッド、SI01の南に位置する1間×1間のもの。梁行2.3m、桁行2.8mで、主軸はN-87°-Wである。



挿図35 SB20, 25遺構図

SB20（挿図35、図版18）

3区N~O10グリッドに位置する1間×2間のもの。梁行、桁行とも2.8mで、桁行方向の柱穴間平均距離は1.4mを測る。主軸はN-34°-Wである。ビット径が30~50cm、深さも45~60cmと他のものに比べて大きくなっている。

SB21（挿図39）

1区D~E4グリッドに位置する1間×1間のもの。梁行2.3m、桁行2.6mで、主軸はN-18°-Eである。北

南西でSB11と交差し、先行するSB12と同じ位置で重なる。北西にSK01がある。

SB14（挿図39）

1区E5グリッド、SI05の東に位置する1間×1間のもの。梁行、桁行とも2.2mで、主軸はN-18°-Eである。

SB15（挿図40、図版17）

1区A2グリッドに位置する1間×1間のもの。梁行2.5m、桁行2.9mで、主軸はN-13°-Wである。

SB16（挿図37）

1区D0~1グリッドに位置し、SB03に重なる1間×1間のもの。梁行1.8m、桁行2.0mと他のものに比べ小さく、調査区中最小である。主軸はN-37°-Eである。

SB17（挿図37）

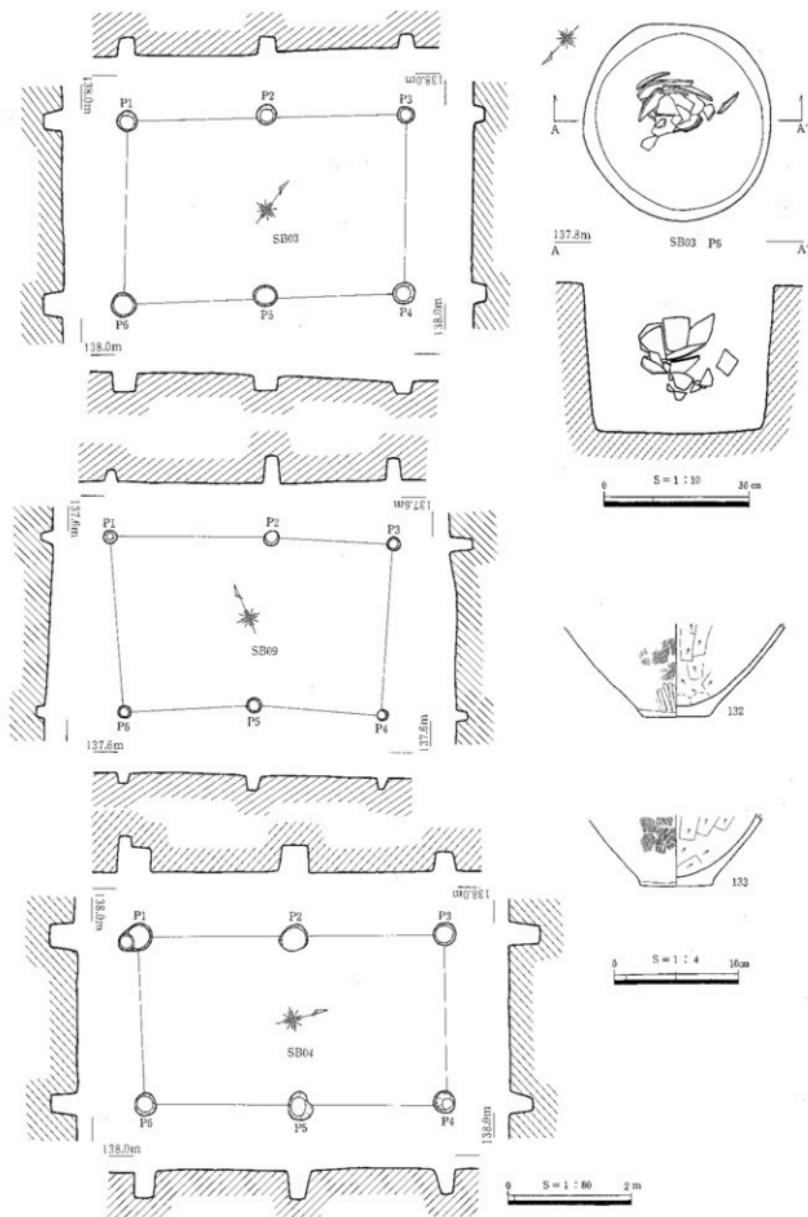
1区E3グリッドに位置し、SI02に重なる1間×1間のもの。梁行2.0m、桁行2.8mで、主軸はN-65°-Wである。検出状況ではP3がSI02の埋土を切っていた。図化できなかったがP4、P5から甕口縁部が出土しており、弥生時代後期中葉、越敷山IV期新段階に相当する。

SB18（挿図40）

1区C4グリッドに位置する1間×1間のもの。梁行2.6m、桁行3.4mで、主軸はN-89°-Eである。

SB19（挿図38）

1区C0グリッドに位置し調査区外へと続く。他の掘立柱建物跡の柱穴間距離との比較から1間×1間のものと推測する。梁行2.2mで、主軸はN-55°-Wである。



挿図36 SB03, 04, 09遺構図、SB03出土遺物実測図

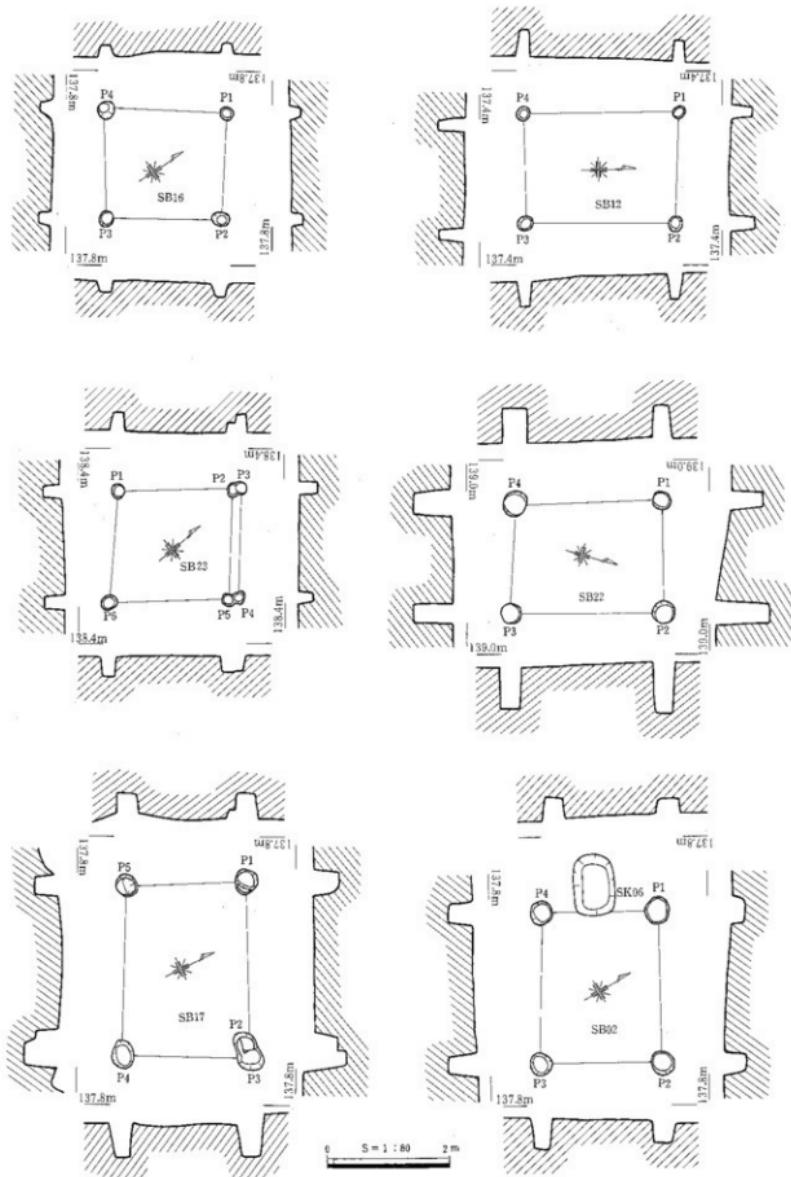
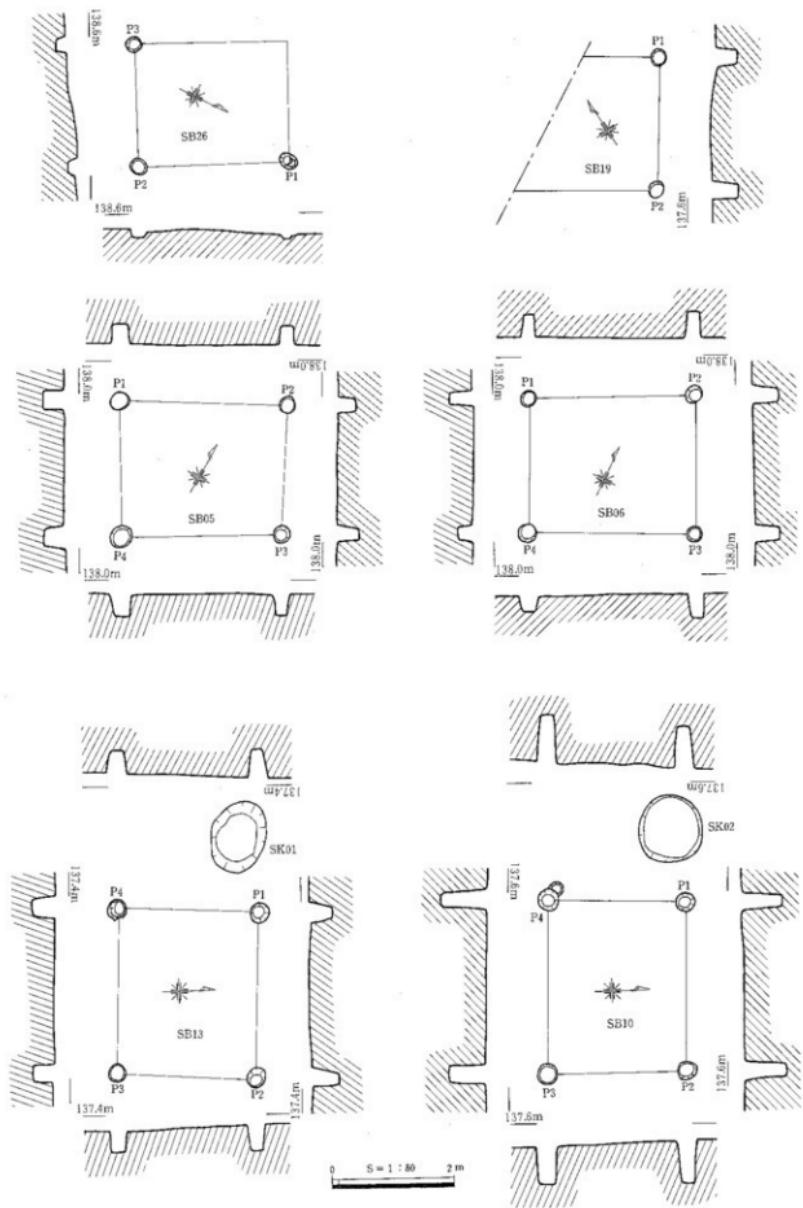
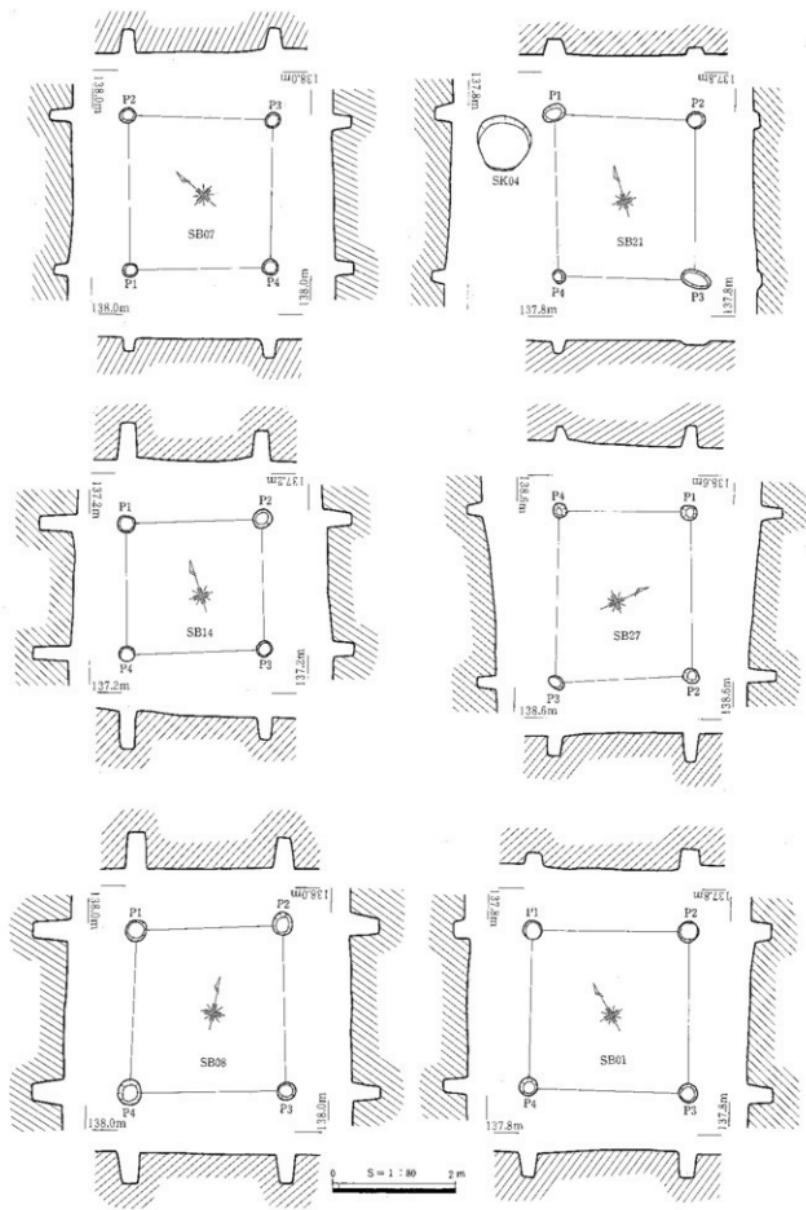


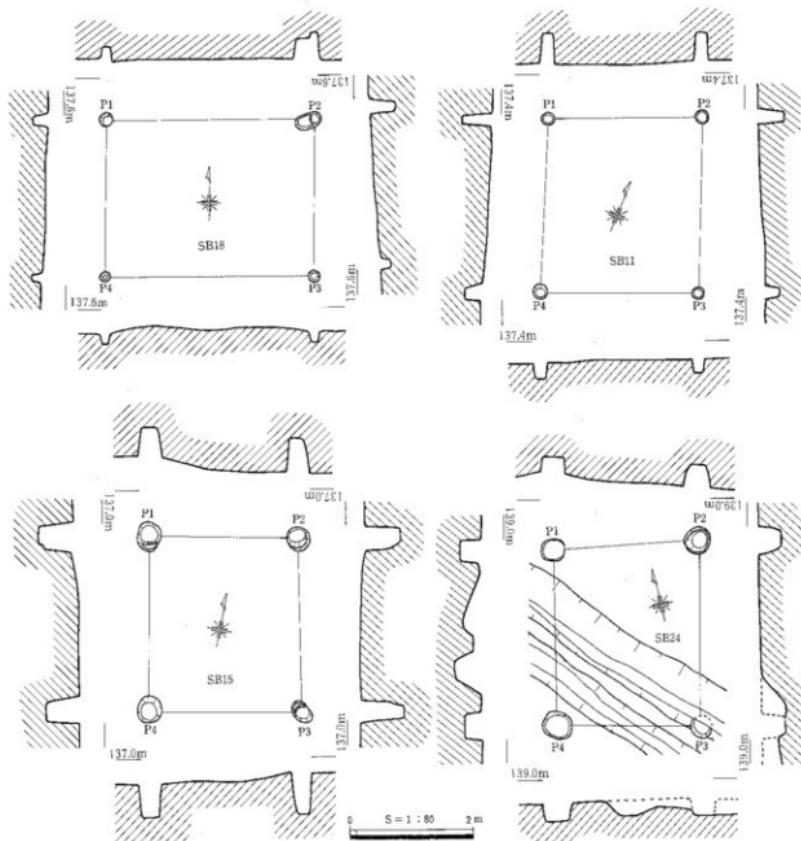
図37 SB02, 12, 16, 17, 22, 23構造図



挿図38 SB05, 06, 10, 13, 19, 26遺構図



挿図39 SB01, 07, 08, 14, 21, 27遺構図



挿図40 SB11, 15, 18, 24遺構図

西にSK04がある。

SB22 (挿図37、図版18)

2区O12グリッドに位置する1間×1間のもので、P2は農道にかかる。梁行1.8m、桁行2.5mで、主軸はN-16°-Wである。ピット径が30~43cm、深さも60~83cmと他のものに比べ大きくしっかりしている。

SB23 (挿図37、図版18)

2区と3区の中間の農道部分、O12グリッドに位置する1間×1間のもの。建て替え前(SB23-a)の梁行1.8m、桁行1.9m、建て替え後(SB23-b)の梁行1.8m、桁行2.1mと他のものに比べ小さく、調査区中最小のSB16とほぼ同じ大きさである。主軸はN-38°-Eである。

SB24 (挿図40、図版18)

3区N10グリッド、SI07とSI09の間に位置する1間×1間のもの。梁行2.4m、桁行3.0mで、主軸はN-12°-Eである。後世の溝による搅乱のためP3の一部は消失している。

SB25（挿図35、図版19）

3区O～P11グリッドに位置する1間×2間のもの。梁行4.1m、桁行4.4mと調査区中最大で、他の1間×2間のものに比べても大きく、桁行方向の柱穴間平均距離は2.2mを測る。主軸はN-32°-Wである。図化できなかつたがP4から壺の頸部が出土しており、くびれ部の下が表面刺突文、内面ヘラ削りであることから弥生時代後期中葉、越敷山IV期に相当する。

SB26（挿図38、図版19）

2区N12グリッドに位置し、SB27に重なる1間×1間のもの。削平により北西隅の1穴を欠く。梁行2.0m、桁行2.5mで、主軸はN-28°-Wである。

SB27（挿図39、図版19）

2区N12グリッドに位置し、SB26に重なる1間×1間のもの。梁行2.2m、桁行2.7mで、主軸はN-60°-Wである。図化できなかつたがP1から弥生土器の壺の頸部が出土している。

SB名	新ピット名	旧ピット名	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	土色	SB名	新ピット名	旧ピット名	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	土色
SB01	P1	P11	30	28	30	黒褐色粘質土	SB06	P1	P331	26	24	38	黒褐色粘質土
	P2	P13	36	34	32	黒褐色粘質土		P2	P406	30	28	45	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
	P3	P23	32	40	40	黒褐色粘質土		P3	P407	24	24	39	黒褐色粘質土
	P4	P16	30	28	47	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		P4	P327	30	30	20	黒褐色粘質土
SB02	P1	P8	44	38	22	黒褐色粘質土	SB07	P1	P168	24	24	22	黒褐色粘質土
	P2	P17	40	35	35	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		P2	P167	25	25	36	黒褐色粘質土
	P3	P18	35	35	47	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		P3	P166	26	25	32	黒褐色粘質土
	P4	P440	38	35	38	黒褐色粘質土		P4	P170	25	25	28	黒褐色粘質土
SB03	P1	P30	32	32	29	黒褐色粘質土	SB08	P1	P142	35	35	60	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
	P2	P29	34	30	28	黒褐色粘質土		P2	P140	35	32	48	黒褐色粘質土
	P3	P25	27	27	17	黒褐色粘質土		P3	P144	32	30	50	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
	P4	P28	35	35	23	黒褐色粘質土		P4	P145	40	40	50	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
	P5	P33	38	34	20	黒褐色粘質土	SB09	P1	P307	22	20	20	暗褐色粘質土
	P6	P37	40	40	30	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		P2	P300	25	22	45	黒褐色粘質土
SB04	P1	P404	55	45	60	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		P3	P298	22	22	40	黒褐色粘質土
	P2	P67	45	36	40	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		P4	P291	18	18	16	黒褐色粘質土
	P3	P49	38	36	50	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		P5	P301	24	24	20	黒褐色粘質土
	P4	P65	36	36	38	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		P6	P310	22	18	15	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
	P5	P70	46	38	46	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	SB10	P1	P189	32	30	68	黒褐色粘質土
	P6	P72	38	34	42	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		P2	P192	32	30	68	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
SB05	P1	P48	30	30	30	黒褐色粘質土		P3	P195	34	32	60	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
	P2	P66	28	25	30	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		P4	P186	50	30	77	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
	P3	P069	28	28	34	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	SB11	P1	P198	20	18	48	黒褐色粘質土、暗褐色粘質土ブロック混
	P4	P71	38	34	30	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		P2	P422	24	24	46	黒褐色粘質土
								P3	P211	22	22	14	黒褐色粘質土
								P4	P200	24	24	28	黒褐色粘質土

挿表11 堀立柱建物跡ピット一覧表(1)

SB名	新ビット名	旧ビット名	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	土色	SB名	新ビット名	旧ビット名	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	土色
SB12	P1	P205	20	18	37	灰褐色粘質土、黃褐色土ブロック混	SB21	P1	P171	24	26	30	暗褐色粘質土、炭化物混
	P2	P455	26	26	40	暗褐色粘質土		P2	P173	28	28	13	暗褐色粘質土
	P3	P208	24	22	40	暗褐色粘質土、黃褐色土ブロック混		P3	P174	50	28	7	黑褐色粘質土
	P4	P203	20	20	44	暗褐色粘質土、黃褐色土ブロック混		P4	P295	24	18	23	黑褐色粘質土
SB13	P1	P204	32	30	46	黑褐色粘質土、黃褐色土ブロック混	SB22	P1	P1119	30	28	54	暗褐色粘質土、黃褐色土粒混
	P2	P207	34	30	46	黑褐色粘質土、黃褐色粘質土、黃褐色土ブロック混		P2	P1251	38	35	83	不明
	P3	P209	28	26	33	黑褐色粘質土、黃褐色土ブロック混		P3	P1270	35	34	65	黑褐色粘質土、裏込土質
	P4	P202	35	30	38	黑褐色粘質土		P4	P1114	43	35	60	暗灰色粘質土、黃褐色土ブロック混
SB14	P1	P460	28	25	60	黑褐色粘質土	SB23	P1	P1247	23	20	30	黑褐色粘質土
	P2	P415	30	30	53	黑褐色粘質土、黃褐色土ブロック混		P2	P1246	20	20	16	不明
	P3	P262	25	25	37	黑褐色粘質土		P3	P1249	20	16	28	暗褐色粘質土
	P4	P265	25	25	60	黑褐色粘質土		P4	P1245	22	20	25	黑褐色粘質土、裏込土質
SB15	P1	P463	46	38	58	不明	SB24	P5	P1250	20	20	26	暗褐色粘質土
	P2	P465	40	36	54	不明		P6	P1244	25	23	34	暗褐色粘質土、黃褐色土ブロック混
	P3	P368	38	25	70	暗褐色粘質土、橙褐色土ブロック混		P1	P1272	40	34	30	黑褐色粘質土、黑褐色土ブロック混
	P4	P366	46	38	36	暗褐色粘質土、黃褐色土ブロック混		P2	P1103	43	40	36	灰褐色土上、黃褐色土ブロック混
SB16	P1	P443	23	20	17	暗褐色粘質土、黃褐色土ブロック混	SB25	P3	P1273	30	36	14	暗褐色粘質土、黃褐色土ブロック混
	P2	P459	30	25	20	黑褐色粘質土		P4	P1104	50	44	30	灰褐色土上、黃褐色土ブロック混
	P3	P27	25	25	19	暗褐色粘質土		P1	P1304	44	36	25	暗灰褐色粘質土
	P4	P24	30	20	20	暗褐色粘質土		P2	P1026	40	36	30	黑褐色粘質土
SB17	P1	SI02-P13	41	38	44	暗褐色粘質土、黃褐色土粒混	SB26	P3	P1028	32	30	36	黑褐色粘質土、黃褐色土ブロック混
	P2	SI02-P4	35	27	35	暗褐色粘質土、黃褐色土ブロック混		P4	P1023	54	43	38	黑褐色粘質土、黃褐色土ブロック混
	P3	P609	42	33	70	暗褐色粘質土、黃褐色土ブロック混		P5	P1025	35	54	50	暗灰褐色粘質土、黃褐色土ブロック混
	P4	SI02-P5	46	40	57	黑褐色粘質土、黃褐色土ブロック混		P6	P1295	30	25	20	灰褐色粘質土、黃褐色土ブロック混
	P5	SI02-P25	38	34	47	暗褐色粘質土、黃褐色土ブロック混		P1	P1108	30	24	8	暗灰褐色粘質土、黃褐色土ブロック混
SB18	P1	P317	22	20	25	黑褐色粘質土	SB27	P2	P1109	27	25	8	淡灰褐色土
	P2	P308	40	25	44	暗褐色粘質土		P3	P1312	25	23	10	不明
	P3	P311	20	18	16	黑褐色粘質土		P1	P1111	25	23	35	暗褐色粘質土、黃褐色土ブロック混
	P4	P316	17	15	15	黑褐色粘質土		P2	P1313	25	25	45	不明
SB19	P1	P431	30	25	34	黑褐色粘質土		P3	P1113	25	20	34	暗褐色粘質土
	P2	P429	26	26	42	暗褐色粘質土		P4	P1112	35	30	48	黑褐色粘質土
SB20	P1	P1014	50	45	60	黑褐色粘質土、黃褐色土ブロック混							
	P2	P1013	34	30	47	不明							
	P3	P1012	35	25	45	黑褐色粘質土、黃褐色土ブロック混							
	P4	P1011	35	30	54	暗灰褐色粘質土、黃褐色土ブロック混							
	P5	P1010	30	30	48	黑褐色粘質土							
	P6	P1009	33	30	50	黑褐色粘質土							

掲表12 堀立柱建物跡ビット一覧表(2)

第4節 土坑状遺構

SK01 (挿図41、図版20・21)

1区F 4 グリッド、SB12、SB13の北西に位置する梢円形のもの。長径1.2m、短径0.9m、深さ0.5mである。埋土は地山土のブロックを多く含んでおり、土坑の壁が崩れながら堆積したと思われる。表層から上器が2点出土しているが、小片のため器種は不明である。

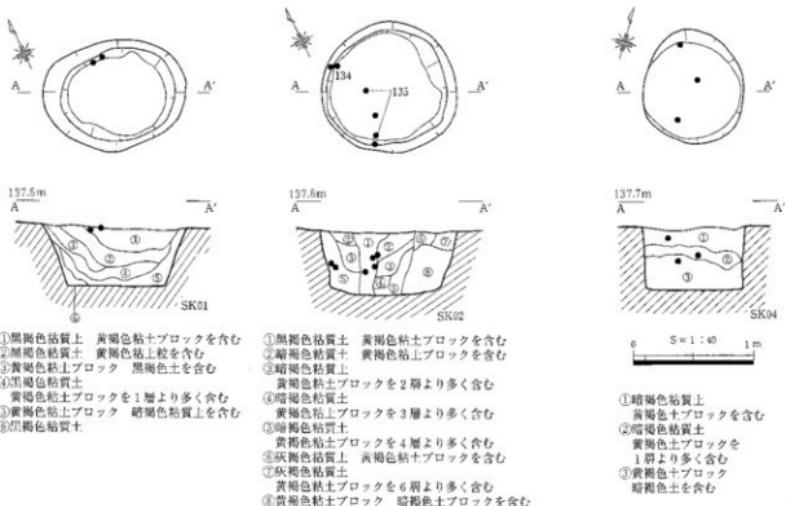
SK02 (挿図41、図版20・21・28)

1区E 4 グリッド、SB10の北西に位置する円形のもの。直径1.1m、深さ0.5mである。検出状況では、埋土の差異により西端で内接する2重の円を呈していた。直径約0.8mの円の内側には黒ボク系の土が堆積し、その東寄りの外周は地山土のブロックを多く含む土で埋められていて、堅く締まっていた。土層断面では内側の埋土の中央に柱状の痕跡が見られたが、平面では確認できなかった。内側の埋土を除去したが、外周埋土内の地山土ブロックの混ざり方にばらつきがあったため、壁面を明確にすることはできなかった。外周の埋土は、土坑の内側に円筒形の容器のようなものを収め、それを固定していた裏込め土のような性格のものと考えられる。

埋土中より壺(134)、甕(135)が出土しており、弥生時代後期中葉、越戦山IV期新段階に相当する。

SK04 (挿図41、図版20・21)

1区C～D 0 グリッド、SB21の北西に接する。平面は円形で、長径0.9m、短径0.8m、深さ0.5mである。壁はほぼ直立に落ち、底部は平坦な面を持つ。上の埋土は黒ボク土を主とし、下半は約30cmの厚さで地山土のブロックが堆積していた。その上面で黒い漆がいくつ認められ、その部分の掘り下げをおこなった。しかし壁面が不明確で、配列に規則性もないことから、黒ボク土ブロックの混入あるいは小動物や植物による搅乱と見なした。このように上半と下半とでは明らかに異なる堆積状況を示すことから、下半の埋土は、本来袋状であった土坑の入り口部分が崩れて中に落ち込んだものと考えられ、貯蔵穴として使用されていたと推定される。埋土下層から外面ハケメ内面ヘラ削りの弥生土器の小片が出土している。



挿図41 SK01, 02, 04構造図

SK06 (挿図42、図版22・23)

1区D4グリッド、SB02の西北西に接する隅丸方形のもの。長径1.2m、短径0.7m、深さ0.4mで、底面から底面にかけて丸みをおびている。埋土は上層に比べ下層の縮まりが悪い。遺物は出土していない。

SK11 (挿図42、図版22・23・38)

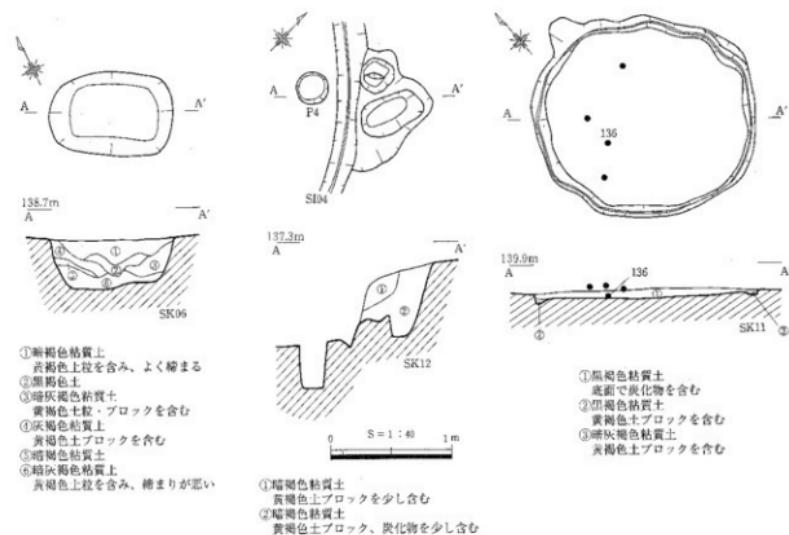
2区P14グリッドにある円形のもの。長径1.8m、短径1.7m、深さ8cmで、上部は削平によって失われている。底面の外周には幅4~18cm、深さ4~8cmの側溝が掘られている。床面には無数の窪みがあるが、不整形で浅いため柱穴とはならない。埋土中より甕(136)が出土しており、弥生時代後期中葉、越敷山IV期新段階に相当する。

SK12 (挿図42、図版22・23・38)

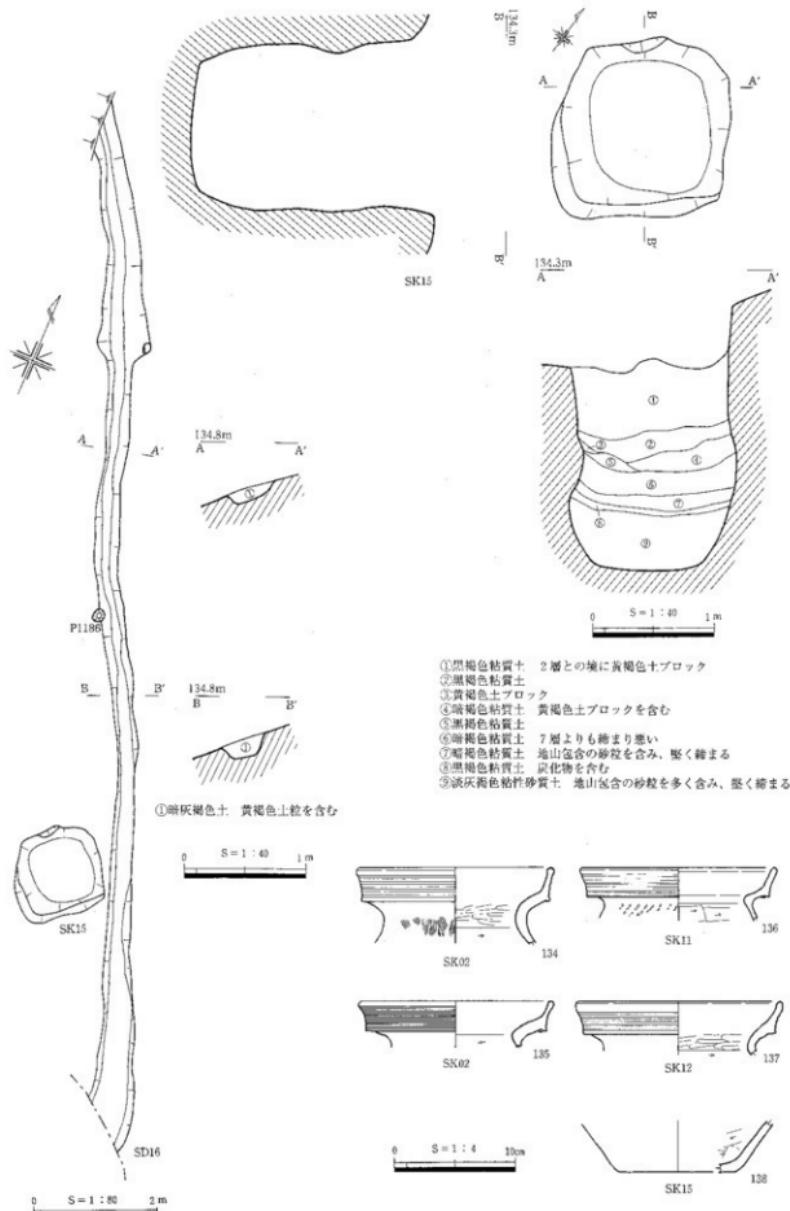
1区A3グリッド、SI04の北西側で切りあい、SI04に先行する。平面形は不整方形で、底面にはピット状の窪みが2つあるが、柱痕や裏込め土は検出していない。甕(137)が出土しており、弥生時代後期中葉、越敷山IV期古段階に相当する。

SK15 (挿図43、図版24)

2区L13グリッドの斜面上で検出、東側の斜面上方にSD16がある。平面は隅丸正方形を呈し、一辺1.5m、深さ2.2mで、ほぼ垂直に掘られている。底面は多少の起伏をもつが、杭痕跡などの掘りこみはない。検出面は造成土に覆われていた。埋土は自然堆積であり、下層は堅く縮まる。図化できなかったが、2層から複合口縁の甕の頭部と鼓形器台の受部、8層から壺または甕の底部(138)、底面から摩滅した甕の胴部片が出土している。弥生時代後期中葉、越敷山IV期新段階に相当する。



挿図42 SK06, 11, 12遺構図



挿図43 SK15, SD16遺構図、SK出土遺物実測図

第5節 溝状遺構

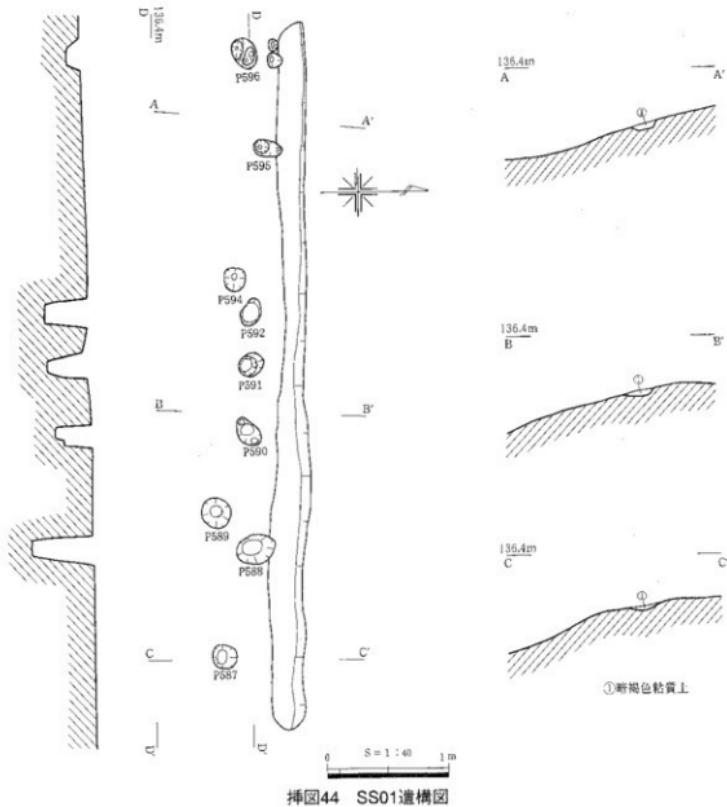
SD16 (挿図43、図版25)

2区L～M-12～13グリッド、SK15の東にある。北西から南東に直線的に伸び、南東は調査区外へ続く。長さ17.2m、幅0.3～0.8m、深さ20～40cmを測る。岡化できなかったが埋土から壺の頭部が出土している。頭部のくびれの下の表面はわずかに貝殻腹縁による刺突文が残り、内面はヘラ削りを施すことから、弥生時代後期中葉、越敷山IV期新段階に相当する。

第6節 段状遺構

SS01 (挿図44、図版25)

2区G～H-5～6グリッド、農道のあった平坦面から斜面に移る傾斜変換地点に東西方向に伸びるもの。長さ5.8m、幅0.2～0.3m、壁高8cmを測る。南側に径24～34cm、深さ34～50cmのしっかりしたピットが並び、柵状遺構のあった可能性がある。遺物は出土していない。



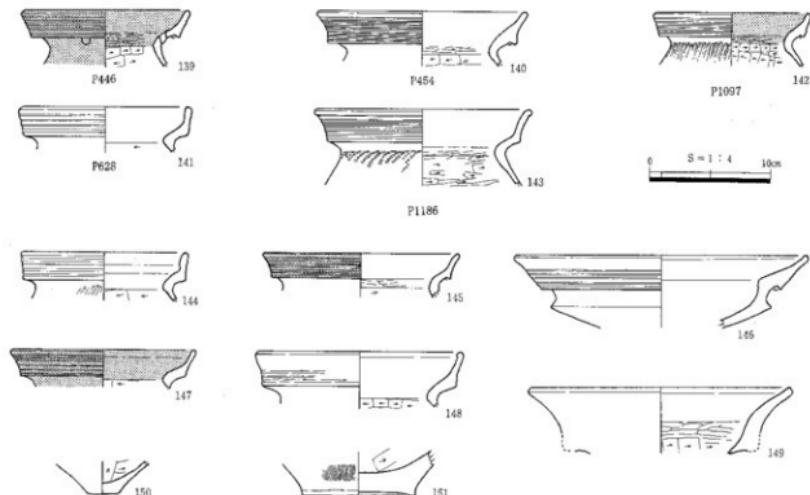
挿図44 SS01遺構図

第7節 ピット (挿図45、図版35・38)

1区において261基、2・3区において183基のピットを検出している。1区では標高の高い東部、SB03周辺及びSI02周辺と南側斜面に多く分布している。2・3区でも標高の高い東部のSK11周辺と西側斜面の分布密度が高い。本来は調査区全域に広く分布していたものが、後世の削平や土砂の流出によって失われたものと考えられる。第3節で、規則的な配列をもつピットを掘立柱建物跡として報告したが、それ以外にもしっかりととした掘り方を持つピットがあり、その中には残存状態のよい土器が出土するものがある。

1区G4グリッドにあるP446は直径24cm、深さ28cmで、甕の口縁(139)が出土している。内外面ともに赤色顔料が塗布され、頭部のはば対面する位置に2カ所、焼成前に穿孔されている。孔内に擦痕は認められないが、紐などを通して使ったと考えられる。1区G5グリッドにあるP454は長径40cm、短径30cm、深さ30cm、F6グリッドの斜面部にあるP628は長径40cm、短径22cm、深さ25cmで、それぞれ甕の口縁(140、141)が出土している。140は外反する口縁端部、141は直立する口縁端部にそれぞれ擬四線が施文されている。2区Q15グリッドのP1097は直径28cm、深さ57cmの規模をもつ。埋土中位から、口縁を上にした状態で甕(142)が出土した。口縁は全周し、内面は赤色顔料が塗布されている。頭部には強いヘラミガキの痕跡が連続刺突文のように残っている。検出地点と規模から、調査区外に本体をもつ掘立柱建物跡の一部と考えられる。2区L12グリッドの斜面部に位置し、SD16と切り合うP1186は長径20cm、短径16cm、深さ50cmで、甕(143)が出土している。外反する口縁端部に擬凹線、頭部には連続刺突文が施され、いずれも二枚貝の腹縁部を使用している。SD16との前後関係は不明である。

これらのピットは1区のSB19のように調査区外へ続く掘立柱建物跡や、柵状の施設を構成していくと推測される。



挿図45 ピット内、遺構外出土遺物実測図

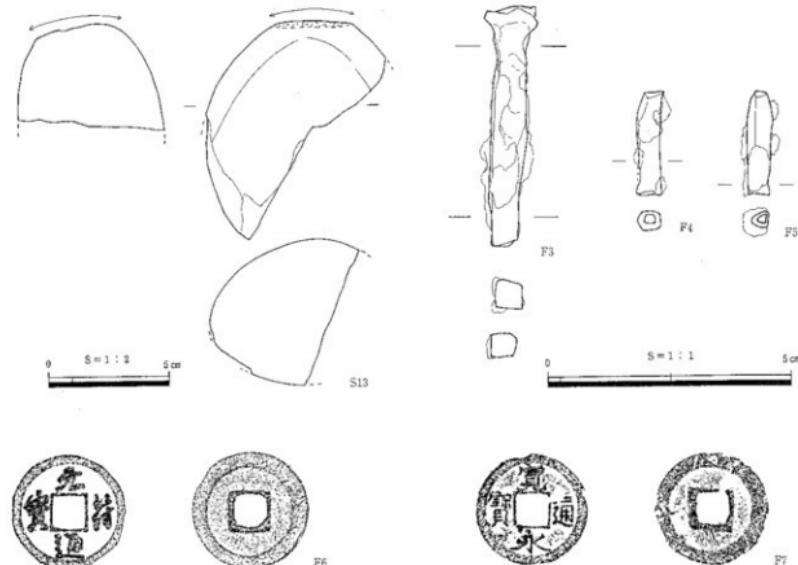
第8節 遺構外出土遺物（挿図45・46、図版37～39）

壺（144）は2区J10グリッドの斜面埋土の黒ボク土中から出土した。直立する口縁端部に擬凹線を施している。壺（145）、高坏（146）は3区の表土掘り下げ中に出土した。145は口縁端部外面に赤色顔料を塗布している。146は坏部に明瞭な棱をもち、複合口縁部に擬凹線を施している。壺（147）、器台（149）は1区平坦面の表土掘り下げ中に出土した。147は外面に赤色顔料を塗布している。149は内外面ともにヘラミガキが施され、外面の棱が欠損している。壺底部（151）は1区の農道の側溝内から出土した。底径が大きく、厚手の作りである。外面にハケメが残っている。壺（148、150）は1区の南側斜面の埋土掘り下げ中に出土した。148は風化が著しいが、複合口縁の外面にわずかに擬凹線が残る。150は小型の壺の底部であろう。

敲石（S13）は2区西側斜面の客土掘り下げ中に出土した。半分を欠損している。

F3、F4、F5は棒状鉄製品である。F3は3区の農道側溝中から出土した。断面形が方形で、端部の一方が肥大していることから、尖端部を欠損した釘の可能性がある。F4は3区の農道部、SI07の検出時に出土した。SI07-cの床面出土かと思われたが、推定復元した側溝の外に位置することから、遺構外出土遺物とした。F5は1区の耕作土中から出土した。いずれも断面は円形で中空である。

1区農道部の表土除去中に銅銭（F6、F7）が出土した。F6は元符通寶（北宋 初鑄1098年）、F7は寛永通寶（1697～1747年、1767～1781年）である。



挿図46 遺構外出土遺物実測図

(計測面の単位はcm)

ビット名/グリッド	長径	短径	深さ	土色	偏率		土色		
					ピット名/グリッド	長径			
P 1 D 0	38	35	7	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	P'54	D 1	45	36	21
P 2 D 0	22	30	20	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	P'55	D 1	28	26	41
P 5 D 0	35	32	14	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	P'59	E 1	30	26	36
P 6 D 0	45	43	14	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	P'60	E 1	24	22	12
P 7 D 0	30	30	10	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	P'61	E 1	28	25	49
P 8 D 0	44	38	22	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	S'302	D 2	52	28	21
P 9 D 0	30	20	25	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	P'65	D 2	56	36	33
P 10 D 0	33	33	15	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	P'66	D 2	28	25	30
P 11 D 0	30	28	30	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	S'304	D 2	45	36	40
P 12 D 0	36	34	18	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	P'68	D 2	23	18	10
P 13 D 0	26	34	32	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	S'304	D 2	28	28	34
P 14 D 0	42	30	20	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	P'70	D 2	46	38	46
P 15 D 0	30	28	15	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	P'71	D 2	38	34	30
P 16 D 0	30	28	40	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	S'304	D 2	38	34	42
P 17 D 0	40	35	35	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	S'302	P'73	D 3	30	25
P 18 D 1	35	35	47	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	S'302	P'75	D 3	34	30
P 21 D 1	32	10	10	暗褐色粘質土	P'78	D 2	~3	35	20
P 22 D 0	35	16	16	暗褐色粘質土	P'81	D 3	22	20	27
P 23 D 0	32	40	40	暗褐色粘質土	S'301	P'82	D 3	25	25
P 24 D 1	30	20	20	暗褐色粘質土	S'316	P'90	E 2	20	10
P 25 D 1	27	27	17	暗褐色粘質土	S'303	P'91	E 2	20	13
P 26 D 1	40	33	30	暗褐色粘質土	P'94	E 2	28	28	31
P 27 D 1	25	25	19	暗褐色粘質土	S'316	P'95	E 2	30	15
P 28 D 1	35	23	23	暗褐色粘質土	S'303	P'96	E 2	45	30
P 29 D 1	34	30	28	暗褐色粘質土	S'303	P'99	E 2	22	22
P 30 D 1	32	32	29	暗褐色粘質土	P'101	E 2	20	16	54
P 32 D 1	24	24	10	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	S'303	P'116	D 3	35	30
P 33 D 1	38	34	20	暗褐色粘質土	S'303	P'117	D 3	40	25
P 34 D 1	22	20	16	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	P'124	E 2	20	20	32
P 35 D 1	22	20	20	暗褐色粘質土	P'130	E 2	29	25	7
P 36 D 1	25	20	15	暗褐色粘質土	P'140	F 2 ~ 3	35	32	48
P 37 D 1	40	40	30	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	S'303	P'141	E 3	30	26
P 38 D 1	48	46	28	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	P'142	E 3	35	30	60
P 39 D 1	40	30	26	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	P'144	E 3	32	30	50
P 40 D 1	30	25	27	暗褐色粘質土	P'145	E 3	40	40	36
P 42 C 2	30	30	15	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	P'147	F 3	36	34	10
P 43 C 2	30	25	25	暗褐色粘質土	P'148	F 3	35	35	12
P 44 C 2	32	30	40	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	S'305	P'149	F 3	20	15
P 48 C 2	30	30	30	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	S'305	P'150	F 3	20	18
P 49 D 2	38	36	50	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	S'304	P'153	F 4	18	19
P 50 D 2	28	28	9	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	P'157	F 4	24	20	15
P 51 D 2	20	20	14	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	P'166	E 3	26	25	32
P 53 D 1	28	24	27	暗褐色粘質土	P'167	D 3	25	25	36

表13 検査結果 (1)

(計測用の单位はcm)

セリ名(ア)ツド	長径	側径	深さ	種類	種類	種類	種類		
P168 D.3	24	24	22	黒褐色地質	S907	H.5	24	油褐色地質	
P170 D.3	25	25	28	黒褐色地質	P289	G.5	32	30	7
P171 D.4	24	26	30	輪葉形地質	S921	G.5	24	20	7
P173 E.4	28	28	13	丸葉形地質	S921	G.5	47	36	32
P174 E.4	50	28	7	丸葉形地質	S921	H.5	20	16	12
P176 E.4	16	16	10	輪葉形地質	P282	E.5	25	25	37
P177 E.4	20	20	77	輪葉形地質	P284	E.5	26	22	17
P186 E.4	50	30	77	黒褐色地質	SB10	E.5	25	25	60
P187 E.4	40	30	18	輪葉形地質	P286	D.5	24	24	13
P189 E.4	32	30	68	黒褐色地質	SB10	C.4	5	25	15
P192 F.4	32	30	68	黒褐色地質	S910	C.4	23	18	8
P195 F.4	34	32	60	輪葉形地質	S910	D.4	32	20	17
P196 F.4	20	20	23	輪葉形地質	P289	D.4	26	24	12
P198 F.4	20	18	48	輪葉形地質	P289	D.4	18	18	16
P200 F.4	24	24	28	黒褐色地質	SB11	P292	D.4	20	40
P201 F.4	20	20	20	輪葉形地質	SB11	P292	D.4	21	17
P202 F.4	35	30	38	輪葉形地質	S913	P295	D.3	24	18
P203 F.4	20	20	44	輪葉形地質	S913	P295	D.3	32	28
P204 F.4	32	30	46	輪葉形地質	S913	P295	D.4	22	22
P205 F.4	20	18	37	輪葉形地質	S912	P300	D.4	25	22
P207 F.4	34	30	66	輪葉形地質	S913	P301	D.4	24	24
P208 F.4	24	22	40	輪葉形地質	S912	P302	D.4	20	16
P209 F.4	28	26	33	輪葉形地質	SB13	P306	C.3	20	15
P210 F.4	16	16	15	輪葉形地質	P207	C.4	22	20	10
P211 F.4	22	22	14	輪葉形地質	S911	P208	C.4	40	25
P214 F.4	38	28	10	輪葉形地質	P210	C.4	22	18	15
P215 F.4	24	24	20	輪葉形地質	P211	C.4	20	18	16
P216 F.4	36	24	25	輪葉形地質	P213	C.5	26	26	15
P218 F.4	30	25	13	輪葉形地質	P214	C.4	46	44	13
P219 G.4	22	26	28	輪葉形地質	P216	C.4	17	15	15
P220 G.4	25	22	20	輪葉形地質	P217	C.4	22	20	25
P221 G.4	22	22	10	輪葉形地質	P221	D.3	20	15	24
P222 G.4	24	20	23	輪葉形地質	P222	D.3	20	18	17
P223 G.4	25	22	28	輪葉形地質	P224	D.3	32	30	33
P225 H.5	44	28	60	輪葉形地質	P227	D.3	30	30	30
P227 G.5	25	20	28	輪葉形地質	P228	C.3	20	12	12
P229 H.5	50	50	10	輪葉形地質	P230	D.3	28	26	54
P230 H.5	24	20	7	輪葉形地質	P231	C.3	26	24	38
P231 G.5	24	22	14	輪葉形地質	P232	D.3	26	20	10
P233 H.5	26	26	20	輪葉形地質	P234	C.3	25	25	9
P234 H.5	38	32	54	輪葉形地質	P236	C.2	22	18	7
P236 H.5	30	26	25	輪葉形地質	P243	C.2	25	25	10
P238 H.5	20	20	13	輪葉形地質	P244	C.2	28	28	4

雄性(2)

(花被の高さはcm)

		長径	短径	深さ	土色	施肥	長径	短径	深さ	土色	
ピコトギダリックF	P347	C-3	22	25	17	黒褐色地質土	P443	F-1	23	20	17
	P348	C-3	28	25	20	不明	P446	G-4	24	21	28
	P350	B-3	30	29	11	暗褐色地質土	P453	D-4	24	24	11
	P352	B-4	74	70	47	断面地質土	P454	G-5	30	30	30
	P359	B-3	25	20	15	暗褐色地質土	P455	F-4	26	26	40
	P361	B-3	45	45	17	深褐色地質土	P458	F-1	30	30	30
	P362	B-3	30	25	44	深褐色地質土	P459	E-1	30	25	20
	P364	A-2	25	22	8	灰褐色地質土, 黑褐色土+プロック	P460	E-4	28	25	60
	P365	A-2	22	20	22	灰褐色地質土	P463	A-2	46	38	58
	P366	A-2	46	38	56	暗褐色地質土, 黄褐色土+プロック混	P465	A-2	40	36	54
	P367	A-2	30	26	29	暗褐色地質土	P470	D-1	42	36	23
	P368	A-2	38	26	20	暗褐色地質土, 暗褐色土+プロック混	P472	C-1	28	25	9
	P381	B-3	25	23	17	黑褐色地質土	P473	C-1	34	25	25
	P383	A-3	22	20	19	黑褐色地質土	P475	C-1	46	36	15
	P387	B-4	28	24	8	黑褐色地質土	P486	C-5	30	20	14
	P389	B-5	25	20	22	黑褐色地質土, 黄褐色土+プロック混	P493	C-6	40	35	30
	P390	C-5	20	20	9	黑褐色地質土	P495	C-6	34	32	21
	P398	C-4	24	20	10	暗褐色地質土	P496	C-6	32	22	13
	P405	B-2	55	45	60	黑褐色地質土, 黄褐色土+プロック混	P497	C-6	32	25	20
	P405	D-3	24	24	38	黑褐色地質土, 黄褐色土+プロック混	P500	C-6	32	25	22
	P406	D-3	30	28	45	黑褐色地質土, 黄褐色土+プロック混	P501	C-5	24	20	15
	P407	D-3	24	24	30	黑褐色地質土	P502	D-5	32	18	10
	P409	D-3	26	26	28	黑褐色地質土, 黄褐色土+プロック混	P504	D-6	22	20	17
	P410	D-3	22	18	18	黄褐色地質土, 黄褐色土+プロック混	P505	C-6	22	20	11
	P411	E-4	16	16	13	黄褐色地質土, 黄褐色土+プロック混	P510	C-6	33	20	25
	P415	E-5	30	30	53	暗褐色地質土, 黄褐色土+プロック混	P522	C-6	36	25	25
	P420	G-5	28	24	30	不明	P523	C-6	22	20	20
	P421	F-4	16	16	17	黑褐色地質土	P524	C-6	26	14	14
	P422	F-4	24	24	16	黑褐色地質土	P525	C-6	26	28	26
	P425	B-1	26	26	14	暗褐色地質土	P526	C-6	20	20	35
	P428	D-1	20	20	20	黑褐色地質土	P530	C-6	32	22	48
	P429	C-0	26	26	42	暗褐色地質土	P531	C-6	25	25	35
	P430	C-0	32	30	18	褐色地質土, 黄褐色地質土+プロック混	P532	C-6	32	20	45
	P431	C-0	30	25	34	褐色地質土, 黄褐色地質土+プロック混	P533	C-6	22	22	33
	P432	C-0	45	30	14	褐色地質土, 黄褐色地質土+プロック混	P530	C-6	23	20	20
	P433	C-0	35	30	15	褐色地質土, 黄褐色地質土+プロック混	P546	C-6	56	30	16
	P434	E-1	30	30	24	暗褐色地質土, 黄褐色土+プロック混	P547	C-6	25	25	38
	P435	E-1	25	25	37	黑褐色地質土	P549	C-6	32	24	30
	P437	D-0	40	28	17	暗褐色地質土, 黄褐色土+プロック混	P550	D-6	50	30	40
	P438	D-1	35	20	30	暗褐色地質土, 黄褐色土+プロック混	P551	C-6	25	22	30
	P440	D-0	38	35	38	暗褐色地質土	P552	C-6	25	20	20
	P441	C-D-0	22	18	15	灰褐色地質土	P556	D-6	24	18	19
	P442	D-0	36	28	15	灰褐色地質土					

植物調査 (3)

(計測値の単位は(四))

插表16 ピット一覽表 (4)

(試験結果の書込はcm)

ビット名(グリッド	長径	短径	深さ	土色	ビット名(グリッド	長径	短径	深さ	土色	
P1001 M.9	42	—	28	9	深褐色粘質土、黄褐色土プロック混	P1004 Q.13	32	32	22	黒褐色粘質土
P1002 M.9	30	22	15	暗褐色粘質土	P1008 Q.13	30	30	15	灰褐色粘質土	
P1003 N.9	25	20	12	暗褐色粘質土	P1003 Q.14	28	25	—	黑褐色粘質土	
P1004 N.9	28	22	11	暗褐色粘質土	P1084 Q.14	25	20	23	黑褐色粘質土	
P1006 N.10	30	33	17	暗褐色粘質土	P1088 Q.14	30	30	30	黑褐色粘質土、黄褐色土+プロック混	
P1008 N.10	37	32	25	暗褐色粘質土	P1089 Q.14	30	25	30	黑褐色粘質土、黄褐色土+プロック混	
P1009 N.10	33	30	20	黑褐色粘質土	P1091 Q.14	20	20	20	解褐色粘質土	
P1010 N.10	30	39	48	黑褐色粘質土	P1097 Q.15	28	28	57	黑褐色粘質土、黄褐色土+プロック混	
P1011 O.10	35	39	54	解褐色粘質土、黄褐色土+プロック混	S320 P1068	24	24	44	黑褐色粘質土	
P1012 O.10	35	25	45	黑褐色粘質土、黄褐色土+プロック混	S320 P1069	15	30	18	17	
P1013 O.10	34	30	47	不明	S320 P1100	15	22	20	15	
P1014 O.10	50	45	60	黑褐色粘質土、黄褐色土+プロック混	S320 P1101	30	30	22	15	
P1015 O.10	33	39	21	暗褐色粘質土	P1102 N.10	33	28	30	灰褐色土、黄褐色土+プロック混	
P1016 O.10	35	33	30	暗褐色粘質土	P1103 N.10	43	40	36	灰褐色土、黄褐色土+プロック混	
P1021 O.11	30	30	13	灰褐色粘質土	P1104 N.10	50	44	30	灰褐色土、黄褐色土+プロック混	
P1022 O.11	32	30	35	黑褐色粘質土	P1105 O.10	25	25	17	暗褐色粘質土	
P1023 O.11	54	43	38	黑褐色粘質土、黄褐色土+プロック混	P1107 O.11	25	22	18	灰褐色土	
P1024 O.11	25	25	32	黑褐色粘質土、黄褐色土+プロック混	P1108 N.11	30	24	8	黑褐色粘質土、黄褐色土+プロック混	
P1025 O.11	35	54	50	暗褐色粘質土、黄褐色土+プロック混	P1109 N.11	27	25	8	暗褐色粘質土	
P1026 O.11	40	36	30	黑褐色粘質土	P1110 N.11	28	28	50	黑褐色粘質土、黄褐色土+プロック混	
P1027 P.11	35	35	40	暗褐色粘質土、黄褐色土+プロック混	P1111 N.11	25	23	35	黑褐色粘質土、黄褐色土+プロック混	
P1028 P.11	32	30	36	黑褐色粘質土、黄褐色土+プロック混	P1112 N.11	35	30	48	黑褐色粘質土	
P120 P.11	20	20	15	暗褐色粘質土	P1113 N.11	25	20	34	暗褐色粘質土	
P1490 O.12	25	20	20	黑褐色粘質土	P1114 O.12	43	35	60	暗灰色粘質土、黄褐色土+プロック混	
P1649 P.12	30	25	20	灰褐色粘質土	P1115 O.14	40	30	17	灰褐色粘質土	
P1650 P.12	34	32	25	暗褐色粘質土	P1116 P.14	38	26	41	暗褐色粘質土、黄褐色土+プロック混	
P1651 Q.13	45	28	20	暗褐色粘質土	P1119 O.12	30	28	54	暗褐色粘質土、黄褐色土+プロック混	
P1652 P.13~14	26	24	24	50	P1120 N.12	52	50	24	灰褐色粘質土	
P1653 P.13	28	28	43	暗褐色粘質土、黄褐色土+プロック混	P1122 M.13	20	18	50	暗褐色粘質土	
P1654 P.13	23	23	20	暗褐色粘質土	P1123 M.13	24	18	30	暗褐色粘質土、黄褐色土+プロック混	
P1656 P.13	20	20	23	暗褐色粘質土	P1124 M.13	20	18	26	黑褐色粘質土	
P1657 P.13	23	23	20	基褐色粘質土	P1125 M.13	25	20	28	暗褐色粘質土	
P1658 P.13	22	20	14	暗褐色粘質土	P1127 M.13	25	20	44	暗褐色粘質土	
P1659 P.13	30	25	78	暗褐色粘質土、黄褐色土+プロック混	P1130 M.13	34	32	55	暗褐色粘質土	
P1661 P.13	22	22	20	暗褐色粘質土	P1133 M.13	20	18	30	暗褐色粘質土	
P1662 P.13	24	24	20	暗褐色粘質土	P1134 M.13	25	18	53	暗褐色粘質土	
P1663 P.13	27	20	10	黑褐色粘質土、黄褐色土+プロック混	P1135 M.13	25	20	40	黑褐色粘質土	

表17 断面調査 (5)

ビット名(グリッド	長径	短径	深さ	土色	ビット名(グリッド	長径	短径	深さ	土色	
P1001 M.9	42	—	28	9	深褐色粘質土、黄褐色土+プロック混	P1004 Q.13	32	32	22	黒褐色粘質土
P1002 M.9	30	22	15	暗褐色粘質土	P1008 Q.13	30	30	15	灰褐色粘質土	
P1003 N.9	25	20	12	暗褐色粘質土	P1003 Q.14	28	25	—	黑褐色粘質土	
P1004 N.9	28	22	11	暗褐色粘質土	P1084 Q.14	25	20	23	黑褐色粘質土	
P1006 N.10	30	33	17	暗褐色粘質土	P1088 Q.14	30	30	30	黑褐色粘質土、黄褐色土+プロック混	
P1008 N.10	37	32	25	暗褐色粘質土	P1089 Q.14	30	25	30	黑褐色粘質土、黄褐色土+プロック混	
P1009 N.10	33	30	20	黑褐色粘質土	P1091 Q.14	20	20	20	解褐色粘質土	
P1010 N.10	30	39	48	黑褐色粘質土	P1097 Q.15	28	28	57	黑褐色粘質土、黄褐色土+プロック混	
P1011 O.10	35	39	54	解褐色粘質土、黄褐色土+プロック混	S320 P1068	24	24	44	黑褐色粘質土	
P1012 O.10	35	25	45	黑褐色粘質土、黄褐色土+プロック混	S320 P1069	15	30	18	17	
P1013 O.10	34	30	47	不明	S320 P1100	15	22	20	15	
P1014 O.10	50	45	60	黑褐色粘質土、黄褐色土+プロック混	S320 P1101	30	30	22	15	
P1015 O.10	33	39	21	暗褐色粘質土	P1102 N.10	33	28	30	灰褐色土、黄褐色土+プロック混	
P1016 O.10	35	33	30	暗褐色粘質土	P1103 N.10	43	40	36	灰褐色土、黄褐色土+プロック混	
P1021 O.11	30	30	13	灰褐色粘質土	P1104 N.10	50	44	30	灰褐色土、黄褐色土+プロック混	
P1022 O.11	32	30	35	黑褐色粘質土	P1105 O.10	25	25	17	暗褐色粘質土	
P1023 O.11	54	43	38	黑褐色粘質土、黄褐色土+プロック混	P1107 O.11	25	22	18	灰褐色土	
P1024 O.11	25	25	32	黑褐色粘質土、黄褐色土+プロック混	P1108 N.11	30	24	8	黑褐色粘質土、黄褐色土+プロック混	
P1025 O.11	35	54	50	暗褐色粘質土、黄褐色土+プロック混	P1109 N.11	27	25	8	暗褐色粘質土	
P1026 O.11	40	36	30	黑褐色粘質土	P1110 N.11	28	28	50	黑褐色粘質土、黄褐色土+プロック混	
P1027 P.11	35	35	40	暗褐色粘質土、黄褐色土+プロック混	P1111 N.11	25	23	35	黑褐色粘質土、黄褐色土+プロック混	
P1028 P.11	32	30	36	黑褐色粘質土、黄褐色土+プロック混	P1112 N.11	35	30	48	黑褐色粘質土	
P120 P.11	20	20	15	暗褐色粘質土	P1113 N.11	25	20	34	暗褐色粘質土	
P1490 O.12	25	20	20	黑褐色粘質土	P1114 O.12	43	35	60	暗灰色粘質土、黄褐色土+プロック混	
P1649 P.12	30	25	20	灰褐色粘質土	P1115 O.14	40	30	17	灰褐色粘質土	
P1650 P.12	34	32	25	暗褐色粘質土	P1116 P.14	38	26	41	暗褐色粘質土、黄褐色土+プロック混	
P1651 Q.13	45	28	20	暗褐色粘質土	P1119 O.12	30	28	54	暗褐色粘質土、黄褐色土+プロック混	
P1652 P.13~14	26	24	24	50	P1120 N.12	52	50	24	灰褐色粘質土	
P1653 P.13	28	28	43	暗褐色粘質土、黄褐色土+プロック混	P1122 M.13	20	18	50	暗褐色粘質土	
P1654 P.13	23	23	20	暗褐色粘質土	P1123 M.13	24	18	30	暗褐色粘質土、黄褐色土+プロック混	
P1656 P.13	20	20	23	暗褐色粘質土	P1124 M.13	20	18	26	黑褐色粘質土	
P1657 P.13	23	23	20	基褐色粘質土	P1125 M.13	25	20	28	暗褐色粘質土	
P1658 P.13	22	20	14	暗褐色粘質土	P1127 M.13	25	20	44	暗褐色粘質土	
P1659 P.13	30	25	78	暗褐色粘質土、黄褐色土+プロック混	P1130 M.13	34	32	55	暗褐色粘質土	
P1661 P.13	22	22	20	暗褐色粘質土	P1133 M.13	20	18	30	暗褐色粘質土	
P1662 P.13	24	24	20	暗褐色粘質土	P1134 M.13	25	18	53	暗褐色粘質土	
P1663 P.13	27	20	10	黑褐色粘質土、黄褐色土+プロック混	P1135 M.13	25	20	40	黑褐色粘質土	

(計測値の單位はcm)

			土壤	色
ピタット・グリッド	長年	鉛筆	淡さ	
P1914	L12	26	22	42 黑褐色粘質土
P1996	L12	38	30	10 黑褐色粘質土, 黄褐色土+brook泥
P1997	L12	25	30	32 黑褐色粘質土, 黄褐色土+brook泥
P1985	L12	28	25	30 黑褐色粘質土, 黄褐色土+brook泥
P1999	L12	25	22	52 黑褐色粘質土
P2003	L12	30	27	13 黑褐色粘質土, 黄褐色土+brook泥
P2004	K12	22	22	52 黑褐色粘質土
P2005	K12	25	22	45 黑褐色粘質土, 黄褐色土+brook泥
P2006	K12	40	25	62 黑褐色粘質土
P2007	L12	25	20	32 黑褐色粘質土
P2009	L12	48	20	46 黑褐色粘質土
P2120	L11	15	15	20 黑褐色粘質土, 黄褐色土+brook泥
P2121	L11	33	20	60 黑褐色粘質土, 黄褐色土+brook泥
P2122	L11	25	14	20 黑褐色粘質土, 黄褐色土+brook泥
P2123	L11	20	20	40 黑褐色粘質土
P2124	L11	20	20	40 黑褐色粘質土
P2125	L11	30	30	30 黑褐色粘質土
P2126	L11	28	22	38 黑褐色粘質土
P2127	L11	26	25	22 黑褐色粘質土, 黄褐色土+brook泥
P2128	L11	25	25	17 黑褐色粘質土, 黄褐色土+brook泥
P2220	K11	43	28	24 黑灰褐色粘質土, 黄褐色土+brook泥
P2221	K11	36	25	60 黑褐色粘質土, 黄褐色土+brook泥
P2222	K11	38	30	87 黑褐色粘質土, 黄褐色土+brook泥
P2223	K11	24	22	10 黑灰褐色粘質土, 黄褐色土+brook泥
P2224	K10	22	22	40 黑褐色粘質土, 黄褐色土+brook泥
P2225	K10	32	30	57 黑褐色粘質土, 黄褐色土+brook泥
P2226	K10	34	34	44 黑褐色粘質土, 黄褐色土+brook泥
P2227	K10	30	21	40 黑褐色粘質土, 黄褐色土+brook泥
P2228	K10	32	22	37 黑褐色粘質土
P2229	K10	28	25	14 黑褐色粘質土
P2230	K10	25	25	25 黑褐色粘質土
P2231	K10	24	20	40 黑褐色粘質土, 黄褐色土+brook泥
P2233	K10	30	25	21 黑褐色粘質土
P2234	K10	20	20	8 新灰褐色粘質土
P2235	K10	20	17	17 浅灰褐色粘質土
P2236	K10	18	18	13 新灰褐色粘質土
P2237	K9	24	20	46 黑褐色粘質土

插表18 ピット一覧表(6)

(計測点の番号はcm)

ピット名(グリッド)	直径	短径	深さ	土色	鑑定	長径	幅	深さ	土色
P1238 K.9	26	18	14	暗褐色粘質土	P1279	K.10	44	32	70 灰褐色粘質土、黄褐色粘質土
P1239 K.9	30	24	7	灰褐色粘質土	P1280	K.10	28	22	30 黒褐色粘質土、灰褐色粘質土
P1240 K.9	20	20	11	灰褐色粘質土	P1281	K.10	40	30	30 黒褐色粘質土
P1241 J.9	26	18	10	灰褐色粘質土	P1282	K.10	25	15	24 輪状色粘質土
P1242 Q.13	25	25	40	灰褐色粘質土	P1283	J.9	32	24	36 黑褐色粘質土
P1243 Q.13	45	34	20	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック塊	P1285	K.10	32	21	9 黑褐色粘質土、黄褐色土ブロック塊
P1244 Q.12	25	23	34	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック塊	P1286	K.10	26	24	20 黑褐色粘質土、黄褐色土ブロック塊
P1245 P.12	22	20	25	黑褐色粘質土、灰褐色土ブロック塊	S223	P1287	L.10	30	18 黑褐色粘質土
P1246 P.12	20	20	16	不明	S223	P1288	K.10	32	25 黑褐色粘質土
P1247 O.12	23	20	30	灰褐色粘質土	S223	P1289	Q.13	32	30 新褐色粘質土
P1248 O.12	29	17	16	灰褐色粘質土	S223	P1290	J.9	20	16 黑褐色粘質土
P1249 P.12	20	16	28	灰褐色粘質土	S223	P1291	J.9	20	15 黑褐色粘質土
P1250 P.12	20	20	26	灰褐色粘質土	S223	P1292	J.9	22	20 黑褐色粘質土
P1251 O.12	38	35	83	不明	S223	P1294	J.10	20	20 黑褐色粘質土
P1252 X.10	22	20	30	灰褐色粘質土	P1295	O.11	30	25	20 灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック塊
P1254 K.10	20	18	22	暗褐色粘質土	P1296	K.12	20	18	25 黑褐色粘質土
P1255 K.9	18	18	10	暗褐色粘質土	P1297	K.11	18	16	44 黑褐色粘質土
P1256 K.9	22	20	30	新褐色粘質土	P1298	K.11	38	30	43 黑褐色粘質土
P1257 K.9	28	26	20	灰褐色粘質土	P1299	K.10	25	23	41 黑褐色粘質土
P1258 K.9	20	20	26	灰褐色粘質土	P1300	K.10	25	25	24 黑褐色粘質土
P1259 K.9	26	23	20	灰褐色粘質土	P1301	K.10	30	24	22 黑褐色粘質土
P1260 K.9	15	15	23	灰褐色粘質土	P1302	K.10	30	27	27 黑褐色粘質土
P1261 J.9	26	20	23	黑褐色粘質土	P1304	O.11	44	36	25 灰褐色粘質土
P1262 L.12	30	25	36	灰褐色粘質土	P1305	K.10	25	22	26 黑褐色
P1263 L.12	22	22	26	黑褐色粘質土	P1306	K.10	20	20	14 黑褐色粘質土
P1264 L.12	25	25	30	黑褐色粘質土	P1307	K.12	22	20	21 黑褐色粘質土
P1265 L.12	20	14	45	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック塊	P1308	K.10	25	25	10 黑褐色粘質土
P1266 L.12	30	11	黑褐色粘質土、黄褐色土ブロック塊	P1310	K.11	22	15	18 黑褐色粘質土	
P1270 O.12	35	34	65	黑褐色粘質土、灰褐色土ブロック塊	S222	P1311	D.11	55	45 不明
P1271 N.10	20	20	10	灰褐色粘質土	P1312	N.12	25	23	10 不明
P1272 N.10	30	34	30	黑褐色粘質土、黄褐色土ブロック塊	S224	P1313	N.12	25	45 不明
P1273 N.10	30	36	14	新褐色粘質土、黄褐色粘質土	S224				
P1274 N.10	18	18	23	灰褐色粘質土					
P1275 O.11	25	22	8	新褐色粘質土					
P1276 Q.14	28	28	32	新褐色粘質土					
P1277 K.10	38	38	75	黑褐色粘質土					
P1278 K.10	42	34	60	黑褐色粘質土、黄褐色粘質土					

土壤調査 (7)

(*…復元品)

遺物番号	出土地点	器種	口径(cm)	器高(cm)	底部径(cm)	手法上の特徴	内底の本数/1cm	焼成	色調	備考	実測No.	取り上げNo.
1	S101	素	*7.2			外面口縁部に裏凹部のち模ナデ、口縁部下横へラ磨き頭部底ハケ。内面調整不明。	4	良好	内外淡黄灰褐色		1	24
2	S101	素	*15.0			外面口縁部に裏凹部のち模ナデ、頭部下方に貝殻剥突。内面白縁から頭部を模ナデ、頭部ヘラ削り。	4	良好	内外淡黄褐色		2	143
3	S101	素	*15.5			外面口縁部に裏凹部。内面白縁部横ナデ。	4	良好	内外淡黄褐色		92	256
4	S101	素	*11.3			外面口縁部に裏凹部、頭部横ナデ。内面白縁部横ナデ。	4.5	良好	内外淡黄褐色		88	22
5	S101	素	*15.1			外面口縁部に裏凹部、頭部横ナデ。内面白縁部横ナデ。	3	良好	外面淡灰褐色、内面白淡灰褐色		4	212
6	S101	素	*19.0			外面口縁部に裏凹部のち模ナデ、頭部横ナデ。内面白縁部横ナデ。	3.5	良好	内外淡黄褐色		8	184
7	S101	素	*14.0			口縁部上段以上の裏凹部のち模ナデ、頭部横ナデ。内面白縁部底より内側、頭部ヘラ削り。	1.5	良好	内外淡黄褐色		91	216
8	S101	素	*15.6			外面口縁部に裏凹部のち模ナデ、頭部横ナデ。内面白縁部底より頭部を模ナデ、頭部ヘラ削り。	4	良好	内外淡黄褐色		7	200
9	S101	素	*19.8			外面口縁部に裏凹部のち模ナデ、頭部横ナデ。内面白縁部底より頭部を模ナデ。	5	良好	外面淡褐色、内面白淡褐色		6	203
10	S101	壺	14.6	11.4	丸底	外面口縁部に裏凹部のち模ナデ、頭部底ヘラ磨きのち模ナデ。内面白縁部底より頭部を模ナデ。	5	良	内外淡黄褐色	施文は無	58	302
11	S101	要底部	*8.6			外面底ヘラ磨き、底面ヘラ削り。内面白ナデ。		良好	外面淡灰褐色、内面白淡褐色		93	261
12	S101	要底部	*10.2			外面ヘラ削り、底面ナデ。内面白ナデ。		良好	内外淡褐色		90	196
13	S101	要底部	*6.8			外面底ヘラ磨きのち模ナデ。内面白削り。		良好	外面淡褐色、内面白淡褐色		5	205
14	S101	要底部	*6.3			外面ナデ。内面白削り。		良好	外面淡黄褐色		3	27
15	S101	要底部	*4.6			底面ナデ。内面白削り。		良好	外面淡褐色		89	150
16	S102	素	*20.2			外面横ナデのち、ヘラ工具による斜めの平行沈削、口縁部等に3条の凹線。内面無ナデ。	2	良好	内外淡黄褐色		14	45
17	S102	壺	*17.0			外面口縁部底、頭部底ヘラ磨きのち模ナデ、内面白縁部底ヘラ磨きのち模ナデ。	2	良好	内外淡黄褐色		9	766
18	S102	素	*14.0			外面口縁部に裏凹部。内面白縁部横ナデ。	3	やや不良	内外淡黄褐色		115	96
19	S102	素	*17.6			外面口縁部に3条の凹線のち模ナデ、頭部底ヘラ磨きのち模ナデ。内面白縁部底ヘラ磨きのち模ナデ。	2	やや不良	内外淡黄褐色		95	66
20	S102	素	*16.0			外面口縁部に裏凹部のち模ナデ、頭部下方に工具による刺突。内面白縁部底ヘラ磨きのち模ナデ。	3	良好	内外淡黄褐色		16	35
21	S102	素	*14.9			外面口縁部に裏凹部。内面白縁部横ナデ。	4	良好	外面淡褐色、内面白淡黄色		94	60
22	S102	素	*21.1			外面口縁部に裏凹部、頭部底ヘラ磨きのち模ナデ、頭部下方にヘタ状工具による刺突。内面白縁部底ヘラ磨きのち模ナデ。	3.5	良好	内外淡褐色		10	87.88
23	S102	素	*16.4			外面口縁部に裏凹部のち模ナデ、頭部底ヘラ磨きのち模ナデ。内面白縁部底ヘラ磨きのち模ナデ。	3	良好	内外淡黄褐色		13	64
24	S102	素	*22.0			外面口縁部に裏凹部のち模ナデ、頭部下方に利突。内面白縁部底ヘラ磨きのち模ナデ、頭部ヘラ削り。	1.5	良好	内外淡褐色		12	68
25	S102	素	*21.4			外面底部底ヘラ磨きのち模ナデ。内面白縁部底ヘラ磨きのち模ナデ。頭部ヘラ削りのち模ナデ。	不明	良好	外面淡黄褐色		11	81
26	S102	要底部	*7.1			外面底部ヘラ磨き。内面白ヘラ削り、底面指印え、ナデ。		良好	外面淡褐色		15	41
27	S102	要底部	*2.8			外面底部附近指印えのちナデ。内面白ナデ。		良好	外面黑色～淡黃褐色、内面白褐色		17	53
28	S102	素	*8.2			外面口縁部調整不明、頭部横ナデ。内面白縁部横ナデ、頭部ヘラ磨き、頭部ヘラ削り。		良好	内外淡黄褐色		97	287
29	S102	萬字脚部	*13.2			内外面下から上へラ削りに似た複雑なナデ型。輪模様の段々と削痕に残る。口縁部外側に複数の凹痕。底部に焼付跡有り。	4	やや不良	外面赤褐色、内面白褐色		18	65
30	S102	有孔鉢	12.8	13.1	5.3	内外面下から上へラ削りに似た複雑なナデ型。輪模様の段々と削痕に残る。口縁部外側に複数の凹痕。底部に焼付跡有り。	真	良好	内外淡黄褐色		37	635
31	S103	素	*18.1			外面口縁部に裏凹部のち模ナデ、頭部底ヘラ磨き、頭部ヘラ磨き。内面白縁部底ヘラ磨き。	3	良好	外面淡褐色、内面白淡褐色		100	269.341
32	S103	素	*19.8			外面口縁部に裏凹部のち模ナデ、頭部底ヘラ磨きのち模ナデ、内面白縁部調整不明、頭部ヘラ削り。	5	良好	外面淡黄褐色		109	336

挿表20 土器觀察表(1)

遺物 番号	出土 地點	器種	口径 (cm)	深度 (cm)	底部構 (cm)	手法上の特異	凹窓の本数/ 1cm	焼成	色調	備考	(*復元値)	
											実測 No.	取り上げ No.
33	SII03	甕	*19.1			外面部縁部に擬四隅、腹部縦へラ磨きのち模ナデ、内面部縁部へラ磨きのち模ナデ、腹部縦へラ磨き、肩部へラ削り。	3	良好	外面淡灰褐色、内面淡褐色		108	318
34	SII03	甕	*16.7			外面口縁部に擬四隅、頭部模ナデ、頭部下へラ状工具による刻文。内面部縁部へラ磨きのち模ナデ、腹部縦へラ磨き。	4.5	良好	外面白色、内面淡褐色		103	272
35	SII03	甕	*21.6			外面口縁部に擬四隅、頭部模ナデ、頭部下へラ状工具による刻文。内面部縁部へラ磨きのち模ナデ、腹部縦へラ磨き。	3.5	良好	内外淡黃褐色		102	271
36	SII03	甕	*18.2			外面口縁部に擬四隅、頭部模ナデ、頭部下へラ状工具による刻文。内面部縁部へラ磨き、腹部縦へラ削り。	3.5	良好	外面淡灰褐色、内面淡褐色		105	273
37	SII03	甕	*14.2			外面口縁部に擬四隅のち模ナデ、口縁部底取り、腹部縦へラ磨きのち模ナデ、内面部縁部へラ磨きのち模ナデ、腹部縦へラ削り。	5	良好	内外淡黃褐色		101	270
38	SII03	甕	*18.4			外面口縁部に3条の凹線のちテナ消し、腹部模ナデ、頭部下へラ削り。	2	やや不良	内外淡灰褐色、内面淡褐色	ス付着	111	660
39	SII03	甕	*19.8			外面口縁部に擬四隅、頭部下方に小口刺突文。内面部縁部模ナデ、腹部をへラ磨き、頭部へラ削り。		良好	内外淡灰褐色、内面淡褐色	外面部ス付着	104	237
40	SII03	甕	*25.1 *33.4 *6.6			外面口縁部に擬四隅、頭部下方に小口刺突文。内面部縁部模ナデ、腹部をへラ磨き、頭部へラ削り。	4.5	良好	外面淡灰褐色、内面淡褐色		71	382,391,394 396,397,398
41	SII03	甕底部		*5.3		外面ナデ。内面へラ削り。		良好	外面淡褐色、内面淡褐色		58	31
42	SII03	甕?	*14.6			外面部模ナデ。内面調査不明。		良好	外面淡灰褐色、内面淡褐色		106	304
43	SII03	台付甕	*16			外面口縁部模ナデ、腹部へラ磨き。内面部縁部横ナデ、体部へラ削り。		良好	外面淡灰褐色、内面淡褐色~淡黃褐色		112	735
44	SII03	器合脚部		*17.3		外面ナデ、腹部縫合部模ナデのち模ナデ。内面へラ削り、腹部模ナデ。	3	良好	内外淡黃褐色		99	665
45	SII03	器合脚部		*17.1		外面へラ削り、腹部縫合部模ナデ。内面へラ削り。	4	良好	内外淡灰褐色		110	667
46	SII06	甕	*15.9			外面口縁部に擬四隅のち模ナデ、頭部へラ磨きのち模ナデ。内面部縁部へラ削き、頭部へラ削り。	4	やや不良	内外淡灰褐色		154	403
47	SII06	甕	*7.4			外面調査不明。		良好	風化著しい		155	408
48	SII06	器合脚部		*12.5		外面模ナデ、腹部縫合部模ナデ。内面へラ削り。	4	良好	内外淡灰褐色		114	416
49	SII04	甕	*16.9			外面口縁部に擬四隅、頭部下方に貝殻刺突文。内面部縁部一頭部をへラ削り、頭部へラ削り。	4	良好	内外淡灰褐色		43	627,628
50	SII04	甕	*17.0 *23.8 4.5			外面口縁部に擬四隅、腹部へケメ。内面部縁部模ナデ、腹部以下へラ削り。	4	良好	外面淡褐色~淡灰褐色、内面淡褐色		51	621,622
51	SII04	甕	*15.1 *20.5 4.6			外面口縁部に擬四隅、頭部模ナデ、頭部下方に貝殻刺突文。内面部縁部模ナデ、頭部へラ磨き、頭部へラ削り。	4	良好	外面淡灰褐色、内面淡灰褐色~淡黃褐色		45	627
52	SII04	甕	*16.4			外面口縁部に擬四隅のち模ナデ、頭部底へラ磨きのち模ナデ。内面部縁部一頭部調査不明、頭部へラ削り。	3	良好	外面淡黃褐色、内面淡褐色		80	670
53	SII04	甕		5.4		外面頭部模ハケ、内面へラ削り。		良好	外面淡灰褐色、内面淡灰色		42	624,625,627
54	SII04	甕	*13.4			外面口縁部に擬四隅のち模ナデ、頭部模ナデ、頭部下方にハサ工具あるいは其による刻文。内面部縁部模ナデ、頭部へラ削り。	3.5	良好	内外淡灰褐色	外面部ス付着	75	543
55	SII04	甕	*15.0 *17.1 5			外面口縁部に擬四隅、腹部底へラ磨きのち模ナデ、腹部下方に板状あるいはハサ工具による刻文、頭部模ナデ、頭部底へラ削り、底部ナデ。内面部縁部模ナデ、頭部以下へラ削り。	4	良好	内外淡灰褐色	外面部ス付着	48	624,625,627 628
56	SII04	汁口土器	13.4	16.6	5.4	外面口縁部に擬三線、頭部底へラ磨きのち模ナデ、腹部模ナデ、底部ナデ。内面部縁部模ナデ、頭部以下へラ削り。	3	良好	内外淡灰褐色	外面部ス付着、内面に丹塗り	52	618
57	SII04	甕	*15.2	14.4	3	外面口縁部に擬四隅、頭部下方に刻突文、頭部上字模、腹ナデ。内面部縁部模ナデ、頭部以下へラ削り。	5	良好	内外淡灰褐色	外面ス付着、口縁に黒斑あり	47	623
58	SII04	甕	*17.6			外面口縁部に擬四隅、頭部下方に刻突文、頭部下半側ハケ、底部ナデ。内面部縁部模ナデ、頭部以下へラ削り。	4	良好	内外淡灰褐色	外面部ス付着	49	619
59	SII04	甕	*17.2 *17.2 *5.4			外面口縁部に擬四隅のち模ナデ、頭部模ナデ、頭部下方に刻突文、頭部下半側ハケ、底部ナデ。内面部縁部模ナデ、頭部以下へラ削り。	4	良好	内外淡灰褐色	外面部ス付着	46	620
60	SII04	甕	*18.8 *21.9 4.2			外面口縁部に擬四隅、頭部下方に板状工具による刻突文、頭部下半側ハケ。内面部縁部模ナデ、頭部をへラ磨き、頭部へラ削り。	4.5	良好	外面淡灰褐色、内面淡褐色	外面口縁一頭部にス付着	44	624,625,627 628
61	SII04	甕底部		*8.2		外面頭部模ハケ、底部近縁へラ磨き、底部ナデ。内面部へラ削り。		良好	外面淡灰褐色、内面淡褐色		79	669

挿表21 土器観察表(2)

(…復元例)

遺物 番号	出土 地點	器種	LH径 (cm)	高さ (cm)	底部径 (cm)	手法上の特徴	凹部の本 数/cm	地底	色調	備考	実測 No.	取り上げ No.
62	SI04	器台受部	"21.0			外面部縁部に輪凹線、内面部溝不明。	3	良好	内外面淡黄褐色	風化著しい	86	551
63	SI04	器台筒部				外面部ハケ。内面部へ葉部に半纏ハケ、下平以 テヘラ削り。		良好	内外面淡黄褐色		50	629
64	SI04	裏	"17.7			外面部縁部に輪凹線、底部縫ハケ。内面部縁部横ナ デ、頭部ハラ磨き、頭部ハラ削り	3.5	良好	内外面淡黃褐色	外面上ス付着	36	583,590,591
65	SI04	裏	"17			外面部縁部に輪凹線、底部縫ハケ。内面部縁部横ナ デ。頭部ハラ磨き、頭部ハラ削り。	2.5	良好	外面上淡灰褐色	淡黃褐色、 内面部淡褐色		63 428
66	SI04	裏	18			外面部縁部に輪凹線、底部縫ハケ。内面部縁部横ナ デ。頭部ハラ磨き、頭部ハラ削り。	3	良好	外面上灰褐色	内面部淡褐色		39 612
67	SI04	裏	"22.5			外面部縁部に輪凹線、底部縫ハケ。内面部縁部横ナ デ、頭部下方ハラ削り(工具による)変文。内面部縁部横ナ デ、頭部以下ハラ削り。	4	良好	内外面淡黃褐色	外面上ス付着	34	582,583,588 595,604
68	SI04	裏	"20.5			外面部縁部に輪凹線、頭部横ナデ。内面部縁部横ナ デ。頭部ハラ磨き。	5	良好	内外面淡灰褐色		64	468
69	SI04	裏	"17.2			外面部縁部に輪凹線、頭部横ナデ。内面部縁部横ナ デ。頭部をハラ磨き、頭部ハラ削り。	4	良好	外面上淡灰褐色	外面上ス付着	62	430,451
70	SI04	裏	"16.8	"27.5	"5.0	外面部縁部に輪凹線、頭部下方に貝殻剥壳文、頭部 上半纏ハケ、下半纏ハケ。内面部縁部横ナデ、頭 部をハラ磨き、頭部ハラ削り。	4	良好	内外面淡黃褐色 色~淡褐色		593,596,597 598,599,601 605,606,607 608,609,610 613,614,617	
71	SI04	裏	"13.8			外面部縁部に輪凹線、頭部下方にハケ状工具による 剥壳文。内面部溝不明。	3	良好	外面上淡黃褐色	外面上ス付着	77	600
72	SI04	裏	"14.0			外面部縁部に輪凹線のち輪縫横ナデ、頭部横ナデ。 内面部縁部横ナデ。	4	良好	内外面淡黃褐色	外面上斯付着	83	581
73	SI04	裏底部		"6.2		外面部底付左横ナデ、底部横ナデ。内面部ハラ削り。		良好	内外面淡黃褐色		78	656
74	SI04	裏底部		"6.5		頭部横ナカ、底面ナデ。内面部ハラ削り。		良好	内外面淡黃褐色		65	450
75	SI04	裏底部		5.6		外面部底付近ハラ磨き、頭部横ナケ。内面部ハラ削り。		良好	内外面淡黃褐色	外面上ス付着	66	449,453
76	SI04	跡	17	8.8	7.5	外面部下右方向、上右方向のハラ磨き後横ナデ。 内面部ハラ削り後ナデ。		良好	内外面淡黃褐色	黒斑あり。	40	615
77	SI04	右付跡	20	9.8	10	外面部縫横ナデ、頭部上半纏ハケあるいは横ナデ、 下半纏磨き、底部横ナデ。内面部縫横ナデ、頭部 ナデ、頭部横ナデ。		良好	外面上淡黃褐色		37	594
78	SI04	右付跡	"21.5			外面部縫横ナデ、口縫部下段凹線。内面部下右方向 に横凹線ナデ。内面部縫横部へラ磨きのち横 縫横ナデ。体部へラ磨きの横ナデ、底部へラ磨きの 横ナデ。	4	良好	内外面淡黃褐色		35	587
79	SI04	右付跡	"20.6			外面部縫横横ナデ、口縫部下段凹線。内面部調整不明。	4	良好	内外面淡黃褐色	風化著しい	61	426
80	SI04	器台受部	24.7			外面部縁部縫凹線、受盤部方向幅1cmのハケメ状直 縫文。内面部ハケあるいはナデ。	4	良好	外面上淡黃褐色	外面上全体に舟 坐り、口縫部 に黒斑あり	33	379
81	SI04	器台受部	"20.0			外面部縁部に輪凹線、内面部溝不明。	3	良好	内外面淡黃褐色	風化著しい	87	380
82	SI04	器台脚部		"9.0		外面部縫横部に8条の横文あるいは縫凹線のち横ナデ。 内面部右方向のハラ削り。	2	良好	内外面淡黃褐色		60	424
83	SI04	裏	"19.5			外面部縁部に輪凹線、頭部横ナデ。内面部縫横ナ デ、頭部ハラ磨き。	3	良好	内外面淡黃褐色	口縫部内面 に舟坐り が残る	53	683
84	SI04	裏	"14.1			外面部縫横部に輪凹線、頭部に3段の横凹線。内面部 縫横部へ頭部上半纏磨き、口縫部横ナデ、頭部下 半ヘラ削り。	5	良好	内外面淡黃褐色 ~淡灰褐色	外面上淡黃褐色 ~淡灰褐色	25	370
85	SI04	裏	"15.9			外面部縫横部に輪凹線、頭部横ナデ。内面部 縫横部横ナデ。	2	良好	外面上淡黃褐色		82	651
86	SI04	裏	"15.9			外面部縫横部に輪凹線、頭部横ナデ。内面部 縫横部横ナデ。	3	良好	外面上淡黃褐色	外面上坐り	81	641
87	SI04	裏	15.6	"14.3	"5.1	外面部縫横部に輪凹線、頭部下方に貝殻剥壳文。内面部 縫横から頭部をハラ磨き、頭部ヘラ削り。	4.5	良好	外面上灰褐色、 内面上淡黃褐色	外面上ス付着	29	573
88	SI04	裏	"16.4			外面部縫横部に輪凹線、頭部下方にハケ剥壳工具による 剥壳文。内面部縫横部へラ磨き、口縫部横ナデ。	3.5	良好	外面上淡黃褐色 ~内面上淡黃褐色	外面上ス付着	28	572
89	SI04	裏	24	"29.3	6.2	外面部縫横部に輪凹線、頭部横ナデ。内面部縫横部 横ナデ。頭部ヘラ削り。	4	良好	外面上淡黃褐色 ~淡灰褐色	外面上ス付着、 内面上淡黃褐色	31	576
90	SI04	裏	"16.1	"16	4.5	外面部縫横部に輪凹線、頭部横ナデ。内面部縫横部 横ナデ。頭部ヘラ削り。	6	良好	内外面淡黃褐色	外面上淡黃褐色 に舟坐り	26	571

挿表22 土器観察表 (3)

(※一復元値)

遺物番号	出土地点	器種	口径(cm)	高さ(cm)	底径(cm)	手法上の特徴	凹縁の本数/1cm	焼成	色調	備考	実測No.	取り上げNo.
91	SI04	甕	*13.8			外面口縁部に複数箇所のち壺模様ナデ、腹部に強い横ナデ、底部部へラ切り痕あり、内面口縁部へラ削り。	4	良好	内外面淡黄褐色～淡灰褐色		84	648,649
92	SI04	鉢	16.5	8.3	6.3	外面口縁部に複数箇所、頭部～一部部へラきのち壺模様ナデ。内面口縁部へラ削りのち壺模様ナデ、底部へラ削り痕ナデ。	45	やや不良	内外面淡黄褐色～褐色	黒斑あり	32	577
93	SI04	器台受鉢	*19.3			外面口縁部に擬凹面、内面調整不明。	3	良好	内外面淡黄褐色	風化著しい	85	646
94	SI04	高环	*20.5	*13.3	*13.2	外面口縁部に擬凹面、内面口縁部模様ナデ、頭部へラ削り。	4	不良	内外面淡黄褐色～淡褐色		30	574
95	SI04	甕	*21.5	*16.7	*3.2	外面口縁部に擬凹面、内面口縁部模様ナデ、頭部へラ削り。	5	やや不良	内外面淡黄褐色		23	566,569
96	SI04	甕	*18.9			外面口縁部に擬凹面のち壺模様ナデ、頭部から口縁にへラ削りのち壺模様ナデ、頭部下方にハケ状工具あるいは貝殻の跡突起。内面口縁部模様ナデ、頭部へラ削り。	2	良好	内外面淡黄褐色	外面ス付着	76	565
97	SI04	甕	*22.0	*30.5	6.6	外面口縁部に擬凹面、頭部下方に貝殻状工具あるいは貝殻の跡突起。内面口縁部模様ナデ、頭部へラ削り。上半部不均等削り痕有。内面口縁部模様ナデ、頭部へラ削り、頭部へラ削り。	5	良好	内外面淡黄褐色	外面ス付着	681,682,685 687,688,689 690,691	54
98	SI04	要底部		*5.1		外底部付近へラ削り。内面へラ削り。		良好	外面淡褐色、内面淡灰褐色		67	499
99	SI04	要底部		*6.2		底部付近削りナデ。底部ナデ。内面へラ削り。		良好	外底削痕色、内面淡黄褐色	外面ス付着	72	519
100	SI04	要底部		*6.2		内外面調整不明。		良好	外側淡灰褐色～淡褐色、内面淡灰褐色		70	512
101	SI04	要底部		*6.0		外面調整不明、内面へラ削り。		良好	外側淡褐色～淡褐色、内面淡黄褐色		69	513
102	SI04	要底部		*6.3		底部付近削りの痕ナデ整形のち壺ナデ。底部ナデ。内面へラ削り。		良好	外側淡褐色		74	525
103	SI04	要底部		*9.2		内外面調整不明。		良好	外側淡灰褐色		73	520
104	SI04	器台脚部		*15.7		外面脚部腹巻線のち壺ナデ。内面へラ削り、頭部模様ナデ。	3	良好	外側淡褐色～淡青褐色、内面淡灰褐色		68	504
105	SI04	高环脚部		*11.2		外面脚部腹巻線のち壺ナデ。	5	良	外側淡黄色、内面淡灰褐色	外側受部と脚部の境に月桂	24	568
106	SI05	甕	*19.9			外面口縁部に板小口状工具による擬凹面、頭部に滑溜仕立付粘帯文のち壺ナデ。内面口縁部へ頸部横ナデ。	3	良好	内外面淡黄褐色		22	107,234
107	SI05	甕	*17.0			外面口縁部に3条の凹面、頭部下方に左下から右上への複数ハケ状工具による压痕、頭部横ナケ。内面口縁部へ頸部横ナデ、頭部へラ削り。	2	良好	内外面淡黄褐色	外面ス付着	55	279
108	SI05	甕	*12.4			外面口縁部に複数箇所のち壺ナデ、頭部下方に棒状工具による刺突文。内面口縁部へ頸部模様ナデ、頭部へラ削り。	3	良好	内外面淡灰褐色	外面ス付着	21	135
109	SI05	甕	*14.0			外面口縁部に棒状工具による擬凹面、頭部下方にへラ状工具による刺突文。内面口縁部模様ナデ、頭部以下へラ削り。	3	良好	外側淡粉褐色、内面淡灰褐色	外面ス付着	59	282
110	SI05	甕	*15.7			外面口縁部に3条の凸筋、頭部模様ナデ。内面口縁部模様ナデ、頭部へラ削り。	25	良好	内外面淡黄褐色		20	121,123
111	SI05	台付鉢	17.2	13.4	9.1	外面口縁部模様ナデ、頭部ハケメ、台部上方に縦き後縁ナデ。内面口縁部模様ナデ、頭部へラ削り。		良好	内外面淡黄褐色、台部淡赤褐色	外面ス付着	56	281,283,284
112	SI05	要底部		*9.2		外底ナデ。内面調整不明。		良好	外側淡褐色、内面淡褐色		19	109
113	SI05	要底部		*8.5		外面模へラ削り。内面へラ削り、底面ナデ。		良好	外側淡褐色～淡黃色、内面淡褐色	外側黒斑あり	113	242
114	SI07	甕	*20.6			外面口縁部に擬凹面、頭部下方にハケ状工具刺突文。内面口縁部模様ナデ、頭部へラ削り。	4	良好	外側淡黄褐色、内面淡褐色		144 129	937,944,960
115	SI07	甕	*15.5			外面調整不明、内面頭部へラ削り。		良好	内外面淡黄褐色	風化著しい	147	964
116	SI07	要底部				外面頭部ハケ。内面頭部へラ削り。		良好	外側淡灰褐色		156	978,979
117	SI07	要底部		*6		外面斜方方向ハケメ、底部ナデ。内面へラ削り。		良好	内外面淡灰褐色		145	937
118	SI07	要底部		*5.7		外側頭部ハケメ、底部ナデ。内面へラ削り。		良好	内外面淡黄褐色		143	931
119	SI07	要底部		*6.2		外側腹方向ハケメ、底部ナデ。内面へラ削り。		良好	内外面淡灰褐色		148	976
120	SI07	器台受鉢	*17.8			頭部部に1条ないし2条の凹筋もしくは強い横ナデ、内面横ナデ。	15	良好	外側淡黄褐色、内面淡灰褐色	内面黒斑あり	146	962,929

挿表23 土器観察表(4)

(…復元後)

遺物 番号	出土 地点	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底部径 (cm)	手 法上 の 特徴	四線の本 数/1 cm	焼成	色 調	備考	実測 No.	取り上げ No.
121	SI07	鬱陶受部	*14			外面口縁部に擬円錐、内面へラ書きのち頭部横ナゲ。	3	良好	外面淡褐色～淡青色、外面部灰褐色		142	930
122	SI08	甌	*15.6			外面口縁部擬円錐、頭部横ナゲ、頭部下方に棒状工具による刺突文。内面口縁部横ナゲ、頭部へラ削り。	3	良好	外面淡褐色、内面淡青褐色	外側ス付着	135	873
123	SI08	甌	*15.6			外面口縁部に擬円錐、頭部横ナゲ。内面口縁部横ナゲ、頭部へラ削り、頭部へラ削り。	4	良好	外面部淡褐色、内面淡灰褐色		134	883
124	SI08	甌	*27.4			外面口縁部に擬円錐、頭部横ナゲ。内面口縁部横ナゲ、頭部へラ削り。	3	良好	内面部淡褐色～淡青色		132	892
125	SI08	甌	*16.2			外面口縁部に擬円錐、頭部横ナゲ。内面口縁部横ナゲ、頭部へラ削り。	3.5	良好	外側ス付着	外面淡褐色	130	891
126	SI08	甌	*17.2			外面口縁部に擬円錐、頭部横ナゲ。内面調整不明。	3	良好	内外面部淡褐色	氯化著しい	131	894
127	SI08	甌底部	*9.1			外側面部下方タタキのちナゲ、底部付近灰化。内面へラ削り。		良好	外面部灰褐色	底部に墨斑あり。	136	895
128	SI08	甌	*10.5			内外側口縁部横ナゲ。		良好	外面部淡褐色、内面淡褐色		133	886
129	SI09	甌	*17.1			口縁部邊に擬円錐、頭部横ナゲ。内面調整不明。	3	良好	内外面部淡褐色	氯化著しい	149	906
130	SI09	甌	*13.6			口縁部邊に擬円錐のち横ナゲ。内面口縁部横ナゲ。	3	良好	内外面部淡褐色		151	917
131	SI09	甌	*13.8			口縁部邊に擬円錐、頭部横ナゲ。内面口縁部横ナゲ、頭部へラ削り。	4	良好	内外面部灰褐色		150	912
132	SB03 -P6	甌底部		*55		外側面部半幅ハケ、底部付近へラ削り、底面ナゲ。内面へラ削り、底面ナゲ。		良好	外面部淡褐色、内面淡褐色	外側ス付着	122	781
133	SB03 -P6	甌底部		*6.1		外側面部半幅ハケ、内面へラ削り。		良好	外面部淡褐色～淡青色、内面暗灰褐色		123	781
134	SK02	甌	*16.4			外面口縁部5条の内側、頭部横へラ削りのち横ナゲ、頭部横ナゲ。内面口縁部横ナゲ、頭部へラ削り、頭部へラ削り。	2	良好	内外面部淡褐色	外側明黄褐色	117	748,749
135	SK02	甌	*16.2			外向口縁部擬凹面、頭部横へラ削りのち横ナゲ、内面口縁部横ナゲ、頭部へラ削り、頭部へラ削り。	5	良好	外面部淡褐色～青褐色		116	224,750
136	SK11	甌	*16.4			外側面部擬凹面のち横ナゲ。頭部へラ削りのち横ナゲ、頭部下方に工具あるいは貝殻による刺突文。内面口縁部横ナゲ、頭部へラ削り、頭部へラ削り。	3.5				137	900
137	SK12	甌	*17.1			外側面部擬凹面、頭部横ナゲ、内面口縁部横ナゲ、頭部へラ削り、頭部へラ削り。	3	良好	外面部淡灰褐色、内面淡青褐色		118	846
138	SK15	甌底部		9.7		外側調整不明、内面へラ削り。		良好	内外面部淡褐色		138	982
139	P446	甌	*14			外面部擬凹面、頭部横ナゲ、内面口縁部横ナゲ、頭部へラ削り、頭部へラ削り。頭部へラ削り前穿孔2箇所。	3	良好	内外面部淡褐色～淡青色	外側丹塗り	124	779
140	P454	甌	*17.4			外側口縁部に擬凹面、頭部横へラ削りのち横ナゲ。内面口縁部へ横ナゲ、頭部へラ削り、頭部へラ削り。	5	良好	内外面部淡褐色		121	773
141	P628	甌	*14.3			外側口縁部擬凹面のち横ナゲ、頭部横ナゲ、内面口縁部横ナゲ、頭部へラ削り。	3	良好	内外面部淡褐色	外側ス付着	120	839
142	P1097	甌	*12.4			外側口縁部擬凹面のち横ナゲ、頭部下方に左下から右へと長いV型へラ削りによる底窓、頭部横ナゲ、頭部横ナゲ。内面口縁部横ナゲ、頭部横ナゲ。	4.5	良好	外面部淡褐色～淡青色	内面丹塗り、外側ス付着	140	979
143	P1186	甌	*17.8			外側面部擬凹面のち横ナゲ、頭部横ナゲ。内面口縁部へラ削りのち横ナゲ、頭部横ナゲ。	3	良好	外面部淡褐色	外側口縁部にス付着	139	996
144	JH0	甌	*13.8			外側口縁部擬凹面のち横ナゲ、頭部横ナゲ。内面口縁部横ナゲ、頭部へラ削り、頭部へラ削り。	2	良好	外面部淡褐色、内面淡褐色		141	985
145	O11	甌	*15.2			外側口縁部擬凹面のち横ナゲ、内面口縁部横ナゲ、頭部へラ削り。	4.5	良好	外面部淡褐色	外側丹塗り	153	998
146	P12	高环受部	*24.2			外側口縁部に擬凹面のち横ナゲ、体部横ナゲ。内面横ナゲ。	3	良好	外面部淡褐色		132	820
147	D2	甌	*15.3			外側面部擬凹面のち横ナゲ、頭部横ナゲ。内面口縁部～頭部へラ削りのち横ナゲ、頭部へラ削り。	4	良好	外面部淡褐色～淡青色	外側丹塗り	127	849
148	F6	甌	*17.2			外側口縁部擬凹面、頭部横へラ削り。内面口縁部～頭部へラ削りのち横ナゲ、頭部へラ削り。	3	良好	外面部淡褐色、内面淡褐色	外面部淡褐色～青褐色	128	851
149	E5	鬱陶受部	*22.0			外側へラ削り、口縁部横ナゲ。内面へラ削り、頭部横ナゲ。		良好	外面部淡褐色	外面部淡褐色	126	845
150	D6	甌底部		*27		外側調整不明、内面へラ削り。		良好	外面部淡褐色	氯化著しい	125	828
151	G5	甌底部		9.5		外面部ハケ、底部付近ナゲ、底面ナゲ。内面へラ削り。		良好	外面部淡褐色		118	824

挿表24 土器観察表 (5)

遺物番号	出土地点	器種	石 材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	形態上の特徴
S 1	SI01	台石	玄武岩	230	200	47	3060	表面に使用痕は認められない。
S 2	SI01	打製石礫	黒曜石	15	12	2.5	0.4	凹凸無溝
S 3	SI02	台石	玄武岩	287	269	75	6900	表面に使用痕は認められない。
S 4	SI02	砥石	玄武岩	121	82	40	620	使用面は2面か。板状。
S 5	SI04	砥石	粗粒黒雲母花崗岩	218	143	100	5750	使用面は1面。直方体状。
S 6	SI04	砥石	玄武岩	200	119	61	2520	使用面は1面。
S 7	SI04	砥石	玄武岩	136	96	36	640	使用面は2面か。板状。
S 8	SI04	磨石	閃綠玢岩	135	84	61	1050	使用面は2面。砲弾状。
S 9	SI05	砥石	閃綠玢岩	166	90	92	2350	使用面は3面。直方体状。
S 10	SI09	砥石	玄武岩	163	93	42	1190	使用面は1面か。板状。
S 11	SI09	砥石	玄武岩	196	113	92	2800	使用面は1面で浅く窪む。反対面は被熱。
S 12	SI09	砥石	玄武岩	184	116	49	1800	使用面は1面。
S 13	L13	敲石	閃綠玢岩	83	60	60	350	半分を失う。敲打面は1ヶ所。砲弾状。

挿表25 石器・石製品観察表

遺物番号	出土地点	種類	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	形態上の特徴	備考
F 1	SI03	棒状鉄製品	59	8	7	8.4	断面円形で中空。	表面に鍛造痕、本質が残る。
F 2	SI08-P1	鉄礫	45	32	5	11.8	三角形四基式。	輪下に穿孔の可能性。
F 3	3区	棒状鉄製品	50	6~10	5	7.0	断面方形。	農道側溝中
F 4	M10	棒状鉄片	21	5	4	0.7	断面円形で中空。	農道灰土中
F 5	1区	棒状鉄片	22	5	3	1.2	断面円形で中空。	耕土中
F 6	1区	銅錢	24	24	0.7	3.0	元符通寶	農道表土中
F 7	G 6	銅錢	23	23	0.7	1.5	寛永通寶	農道表土中

挿表26 金属製品観察表

第4章 まとめ

1. 土器について

今回の調査で出土した土器は越敷山編年IV期を中心としたもので、壺、甕、器台の口縁部が大きく拡張され、外面に擬凹線文を施すのが特徴である。古段階・新段階の区分は口縁部の拡張の度合いと、外傾あるいは外反の度合い、擬凹線文の疊密によるもので、青木編年のⅢ期古・新にそれぞれ相当する。越敷山遺跡群全体では多量の土器が出土しているが、セット関係を捉える一括資料に恵まれているとは言い難い。SI04から出土した土器群は一括性が高くIV期新段階の土器セット関係を補強する資料として捉えることができよう。また、越敷山ではIV期古段階の資料が少ないせいもあり、IV期新段階との差は区別し難いものがあったが、今回SI02、SI05といった良好な標識を得ることができた。

甕の形態に着目すると、IV期古段階の土器は、拡張した口縁端部が直立または外傾するもので、外面に1cmあたり約3条の擬凹線あるいは円線を施すものである。それに対して新段階の土器は口縁部の拡張は古段階に比べてそれほど顕著ではないが、端部が外反するものが多い。また単位あたりの擬凹線の本数は1cmあたり約4条となる。ただし中には甕49、67、87のように古いプロポーションを取りながら細い擬凹線文を持つものや、甕66のように口縁部が外反しながらも擬凹線は太いまのものがある。肩部の刺突文はヘラ、ハケ（板小口）状工具に加えて二枚貝腹縫が新たに用いられる。V期古段階は口縁部がさらに拡張・外反し、外面の平行線文が波状文になるものやナデ消されるものが現れる段階とされている。获名第3遺跡では口縁部に波状文を施した土器は出土していないが、土器の形態ではSI01出土の甕10やSI04出土の甕88、91にV期の特徴を見いだすことができる。

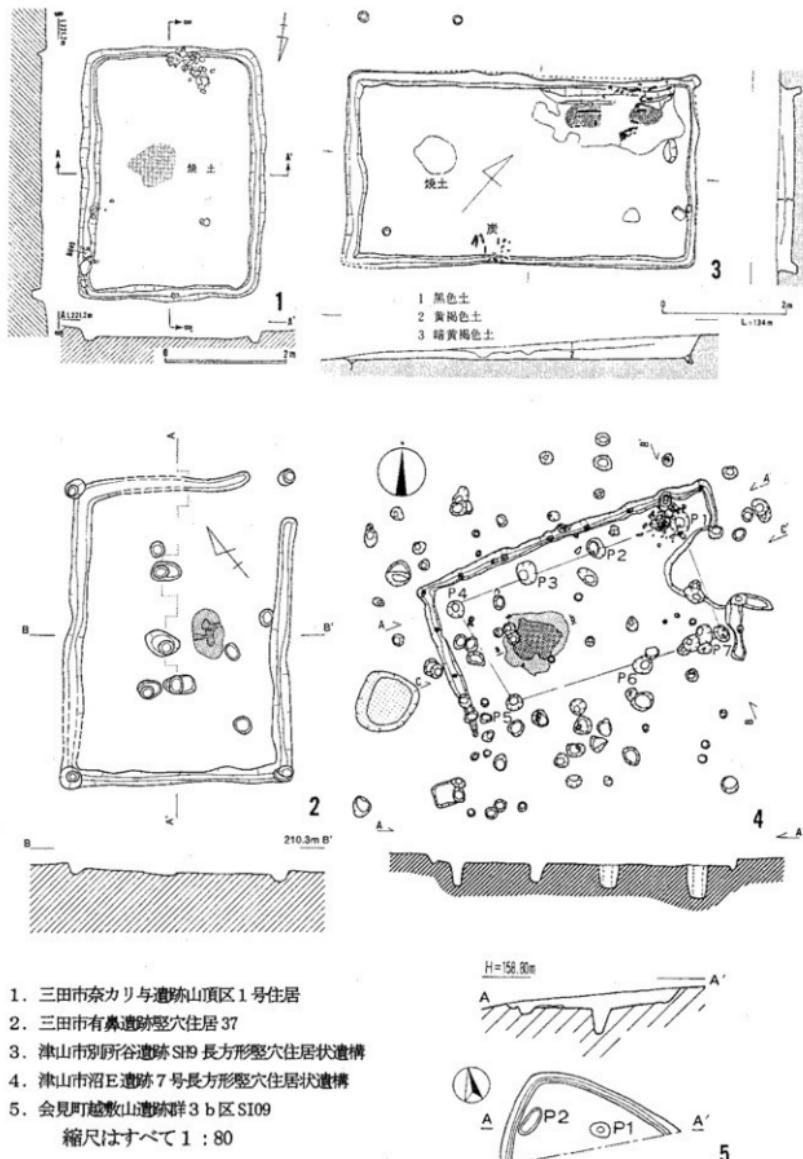
SI02から有孔鉢30が出土しているが、山陰地方では鳥取市西大路上井遺跡SI04での出土例がある。後期中素から後葉にかけての在地の土器とともに外面に叩き目を残す畿内系の土器や北陸系の土器が出土しており、この有孔鉢も外来系のものと見られる。しかし有孔鉢30は焼成前に底部を穿孔している点の他は、形状において畿内、北陸地方のものとは全く異なる。在地土器と同じ土を使用しており、交流のあった外地の土器を模倣して作った土器といえよう。SI08の埋土中から出土した127は外面に叩き目を残しており、畿内系の技法を用いた土器と見られる。会見町では天萬土井前遺跡の土器窯から弥生時代終末～古墳時代初頭の土器とともに畿内系の土器が出土している。西伯地方で出土するのは庄内式併行期以降とされており、今回の資料は最古の出土例となろう。

2. 積穴住居跡について

获名第3遺跡の積穴住居跡の主柱間隔は平均して2.5mであり、平面形、規模、柱の数にかかわらずほぼ一定である（挿表27）。都出北呂忠は著書の中で、主柱間隔は朽材の長さを反映するものであり、朽材の長さには限度があるために、平面規模を大きくするには、それだけ朽材の数ひいては主柱の数を増加させる必要があったとしている。住居の建て替えを行う時に、建材の再利用をしていたことは十分に想像される。新しい建材を補充する場合、もとからの建材の寸法に合わせる必要があったのではないかだろうか。そうすることによって自然と建材の寸法に規格が生まれ、SI02-bのような正八角形の主柱配列をもつ住居が生まれたと考える。しかしSI02-aやSI07-cのように、間隔から判断して主柱があるべき場所が、浅い窪みにすぎない例もある。設計上では等間隔を意識しながらも実際には、建材の寸法と床面の広さなどに制限されたのであろう。

获名第3遺跡では唯一長方形の床面をもつSI05であるが、越敷山遺跡群では3b区SI09、3c区SI04、12a区SI02、15c区SI03、19b区SI26の5棟が存在する。の中でも3b区SI09は西壁際に長円形のピットを持ち、床面に焼土層がみられるなど、获名第3遺跡SI05との共通性が認められる。

他地域に類例を探すと、兵庫県三田市の有鼻遺跡は丘陵の尾根上に立地する、弥生時代中期後葉の集落遺跡であるが、そこで検出された積穴住居37は四隅に柱穴を配し、床面中央が赤化するほど焼けているという、获名第3遺跡SI05との共通点が認められる（挿図47）。周辺の丘陵上に立地する遺跡でも焼土面をもつ長方形の住居跡が見つかっているが、遺跡内での立地はいずれも尾根上で、ほかの住居から離れた位置にあり、集落内において



挿図47 SI05に類似する方形竪穴住居跡

遺構名	平面形	面積 (m ²)	長径 (m)	短径 (m)	壁高 (m)	支柱数	柱間平均 (m)
SI01-a	円形	32.3	6.8	6.5	0.4	6	2.7
SI01-b	円形	32.3	6.8	6.5	0.4	7	2.7
SI02-a	円形	33.9	7.2	6.8	0.25	7	2.2
SI02-b	円形	41.0	7.6	7.3		8	2.5
SI03-a	楕円形	25.6	6.2	5.6		6	2.5
SI03-b	楕円形	28.5	6.6	6.1		6	2.6
SI03-c	楕円形	39.3	8.0	7.0	0.5	8	2.5
SI04	円形	20.1	5.4	5.4	0.4	5	2.5
SI05	隅丸方形	10.6	3.2	2.7	0.3	4	2.5
SI06	楕円形	30.7	7.1	6.4	0.4	6	2.6
SI07-a	円形	26.0	6.0	6.0		4	2.2
SI07-b	円形	42.0	7.7	7.7		7	2.6
SI07-c	円形	42.0	7.7	7.7	0.5	8	2.5
SI08	楕円形	33.6	7.3	6.5	0.4	8	2.4
SI09-a	円形	30.2	6.2	6.2		4	2.7
SI09-b	円形	26.3	5.9	5.9		5	2.8
SI09-c	円形	36.5	7.2	7.2	0.25	6	2.7
SI09-d	円形	36.5	7.2	7.2	0.25	7	2.5
平均値		31.5	6.7	6.4	0.4	6.2	2.5

挿表27 壁穴住居跡規模一覧表

遺構名	タイプ	横行(m)	縦行(m)	桁間(m)	桁/梁
Sb23-a	A-a	1.8	1.9		1.1
Sb16	A-a	1.8	2.0		1.1
Sb23-b	A-a	1.8	2.1		1.2
Sb12	A-b	1.8	2.5		1.4
Sb22	A-b	1.8	2.5		1.4
SB02	A-b	2.0	2.5		1.3
Sb26	A-b	2.0	2.5		1.3
Sb17	A-c	2.0	2.8		1.4
Sb14	A-c	2.2	2.2		1.0
Sb05	A-c	2.2	2.7		1.2
Sb06	A-c	2.2	2.7		1.2
Sb27	A-c	2.2	2.7		1.2
Sb19	A-c	2.2			
Sb21	A-c	2.3	2.6		1.1
Sb07	A-c	2.3	2.7		1.2
Sb10	A-c	2.3	2.8		1.2
Sb13	A-c	2.3	2.8		1.2
Sb24	A-d	2.4	3.0		1.3
Sb08	A-d	2.5	2.7		1.1
Sb15	A-d	2.5	2.9		1.2
SB01	A-d	2.6	2.6		1.0
Sb11	A-d	2.6	2.9		1.2
Sb18	A-d	2.6	3.4		1.3
Sb20	B-a	2.8	2.8	1.4	1.0
Sb09	B-b(A-c)	2.8	4.5	2.2	1.6
Sb04	B-b(A-d)	2.8	5.0	2.5	1.8
Sb03	B-b(A-c)	3.0	4.6	2.3	1.5
Sb25	B-a	4.1	4.4	2.2	1.1

挿表28 捜立柱建物跡規模一覧

遺構名	平面形	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
SK01	楕円形	1.2	0.9	0.5
SK02	円形	1.1	1.1	0.5
SK04	円形	0.9	0.8	0.5
SK06	隅丸方形	1.2	0.7	0.4
SK11	円形	1.8	1.7	0.08
SK12	不整方形	0.9	0.7	0.6
SK15	隅丸方形	1.5	1.5	2.2

挿表29 土坑規模一覧表

同様の住居が存在しないという共通点がある。また、岡山県津市市の遺跡においても床面が焼土化した長方形住居が存在している。一般的な住居跡では床面が焼土化している例がないため、これらの住居は単に居住を目的としたものではなく、工房や炊事場といった火を用いる共同施設として考えられている。

鳥取県内の堅穴住居跡は床面に焼土面をもつものが通常であり、その点ではSI05に他の住居との大きな差があるとは言えないが、SI05のもう一つの特徴は西壁際に平面円形と長円形のピットを配していることにある。播磨・北摂地域の住居跡の中央土坑には円と長円の組み合わせが多く見られ、「10（いちまる）型中央土坑」と呼称されている。ただしその配置は数字の「10」のように並列するもので、必ず長円の方が南側に位置している。この土坑の埋土上には炭化物や灰を多く含んでおり、室内の暖をとる掘炉裏のような用途を持つものと考えられている。SI05の配置は直列であるが、P5からは多くの炭化物が出土する点においては類似性が認められる。SI05のP5、P6の用途を考えると、堀際という位置は暖をとるには非効率と思われる。中央ピットを持たないことは建物の中央に広い空間を必要としたことを意味しており、P5、P6と焼上面との間に空間があることから、両方が関連しあった作業場としての性格が強いものと考える。越敷山遺跡群で多量に出土する鉄製品の存在を考慮すれば、小鎌治場の可能性もある。

3. 挖立柱建物跡について

萩名第3遺跡で検出した27棟の掘立柱建物跡の規模を比較し、分類を行った（挿表28）。まずA（1×1間）と、B（1×2間）に大別する。Aは規模からA-a（梁行1.8m、桁行1.9~2.1m）、A-b（梁行1.8~2m、桁行2.5m）、A-c（梁行2~2.2m、桁行2.2~2.8m）、A-d（梁行2.4~2.6m、桁行2.7~3.4m）の4つのタイプに分けられる。Bは平面形からa（正方形）とb（長方形）の2タイプに分けられる。このうちB-bのSB03とSB09はA-cを、SB04はA-dを横に2つ連ねたものと見ることができ、A-cとA-dを基本形とする同一のタイプとみなした。

タイプ別の分布状況を示した挿図48を見ると、同一のタイプ同士で切り合う例が認められないことが分かる。1区においては、A-bタイプのSB12がA-cタイプのSB13に先行することが判明しており、A-cタイプを取り替わるようにA-dが分布している。これらのことからタイプの違いが掘立柱建物の建設時期の違いを表していると考えた。建材の再利用が行われたとするならば、ある時期に一定の規格が集中することも予想される。建物規模の拡大が時代の流れに対応しているならば、[A-a]→[A-b]→[A-c]→[A-d]→[B-a]の順に立てられたと考えられる。

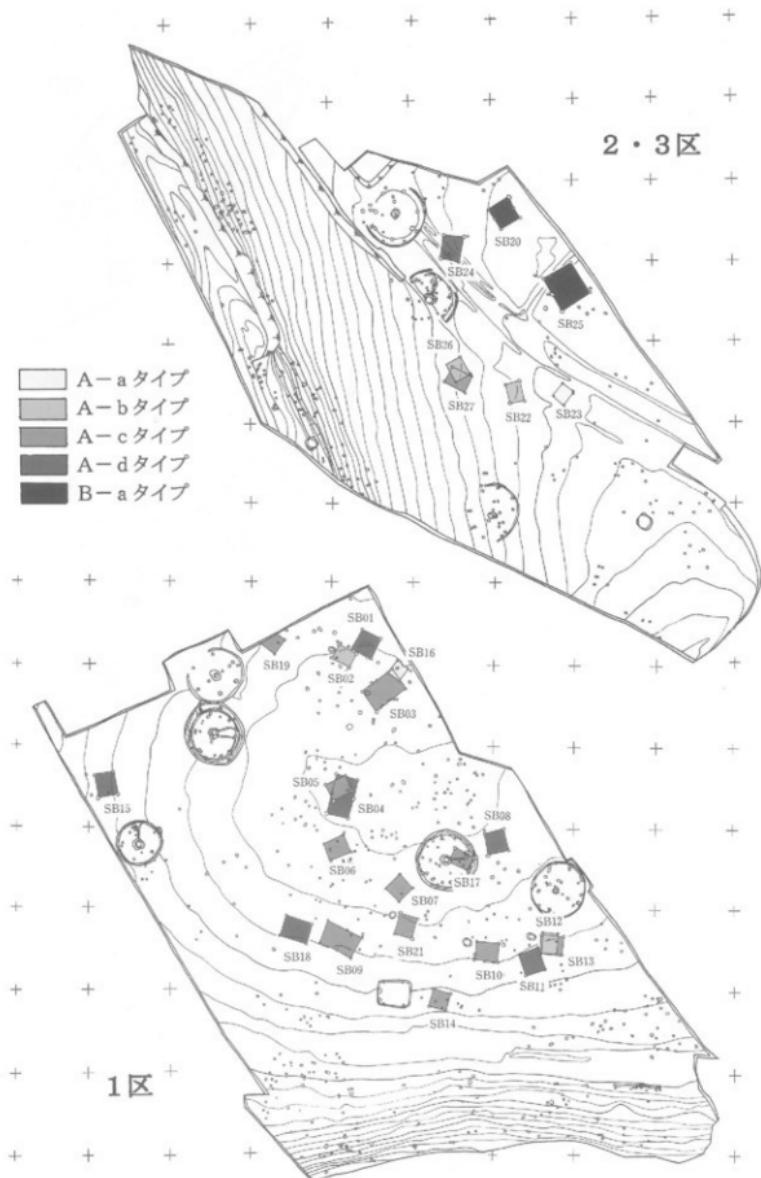
越敷山遺跡群では86棟の掘立柱建物跡が検出されている。内訳は1×1間が31棟（36.0%）、1×2間が49棟（57.0%）、1×3間が2棟（2.3%）、2×2間が4棟（4.7%）となり、1×2間のBタイプが全体の過半数を占める。しかしその規模は1.6~2.4m×2.3~3.8mの範囲に集中しており、これは萩名第3遺跡のAタイプの規模とほぼ一致している。そこで越敷山遺跡群のAB両タイプの掘立柱建物跡を、萩名第3遺跡のAタイプ細分法によって分類を試みたが、遺跡内における立地の傾向は見いだせなかった。

4. 土坑状構造について

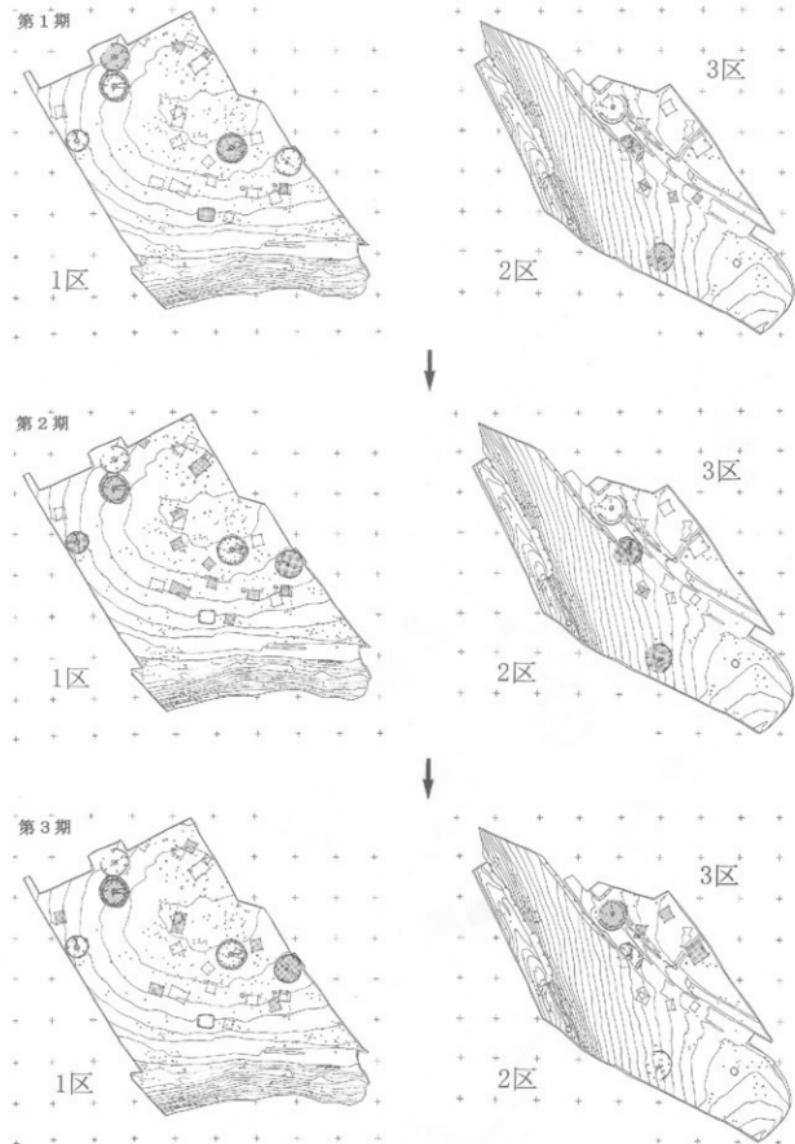
SK01、02、04、06の四つは掘立柱建物跡の北西に隣接している。特にSK01の周りにはSB11、12、13という3時期の掘立柱建物が建てられており、土坑と建物との関連性を強く示している。越敷山3c区は中期後業、越敷山Ⅱ期の堅穴住居と貯蔵穴が検出されている。他の調査区においても土坑の多くから弥生時代中期の遺物が出土しており、越敷山の中期の貯蔵施設は穴蔵が主流であったと考えられる。後期には掘立柱建物を倉庫として使用したが、萩名第3遺跡では穴蔵が併用されていたと考える。品物によって収納を分けたのであろう。こうした土坑と掘立柱建物との組み合わせを越敷山遺跡群で探したが、該当するものは存在しなかった。

備溝を持つSK11については越敷山3c区SK-32、天王原遺跡C区SK-09、E区SK-27、29に類似が見られる。これらの土坑は入り口が窄まる袋状を呈し、貯蔵穴と推測されるものである。底面しか残らないSK11もまたこのような形態の貯蔵施設であったと考えられる。

5. 遺跡内の変遷



挿図48 堀立柱建物跡タイプ別分布図



挿図49 萩名第3遺跡変遷図

調査区内における遺構の変遷を、すべての遺構が越敷山Ⅳ期に属するものと仮定したうえで、出土した土器の編年と掘立柱建物のタイプ差、遺構の切り合いから、大きく3時期に分けて図示した（挿図49）。

第1期 IV期古段階の時期で、堅穴住居は土器編年からSI02、SI05、SI06、SI08、SI09、掘立柱建物はA-a、bタイプとした。土坑は掘立柱建物との関連からSK01、SK06と、SI04との切り合いからSK12を想定する。この時期は1×2間の大型の倉庫を伴わず、1×1間の小型倉庫と貯蔵穴を使用していたと考える。2・3区ではSI08とSI09の中間に掘立柱建物が立ち並び、またSK11が使用された。

第2期 IV期新段階前半を想定した。堅穴住居SI06に代わりSI03が立ち、小型の住居SI04がその南西側の離れた位置に立つ。第1期のSI02とSI05の位置関係と類似するものである。SI01がSI02の隣に立ち、SI02の廻廊後には掘立柱建物SB17が建てられる。1区の平坦面はA-cタイプの建物が立ち並ぶ様相を見せる。1×2間の大型の倉庫が現れるが、貯蔵穴を伴う1×1間の小型倉庫も依然として存在する。2・3区ではSI08、SI09が継続する。西側斜面で貯蔵穴SK15が使用され、SD16はその排水施設と考える。

第3期 IV期新段階後半。1区ではSI01、SI03が継続し、掘立柱建物はA-cタイプにA-dタイプが加わり、順次移行していく。2・3区ではSI07が現れ、その東側に掘立柱建物A-d、B-aタイプが建てられる。

調査区全体の傾向としては集落の立地する平坦面の中央は掘立柱建物群が立地し、堅穴住居群がそれを取り囲むように建てられている。この配置は越敷山の中心地区である17~20区で共通して見ることができる（挿図50）。共有スペースの平坦な広場とそこに建てられた掘立柱建物の倉庫群、それを囲む堅穴住居が小さな集落単位を形成していたとみられる。これらの集落間では建物の規模や出土遺物に差異を認めることはできない。越敷山遺跡群は尾根上に立地する複数の集落単位がそれぞれ対等の関係で共存し、結びついていたと考える。

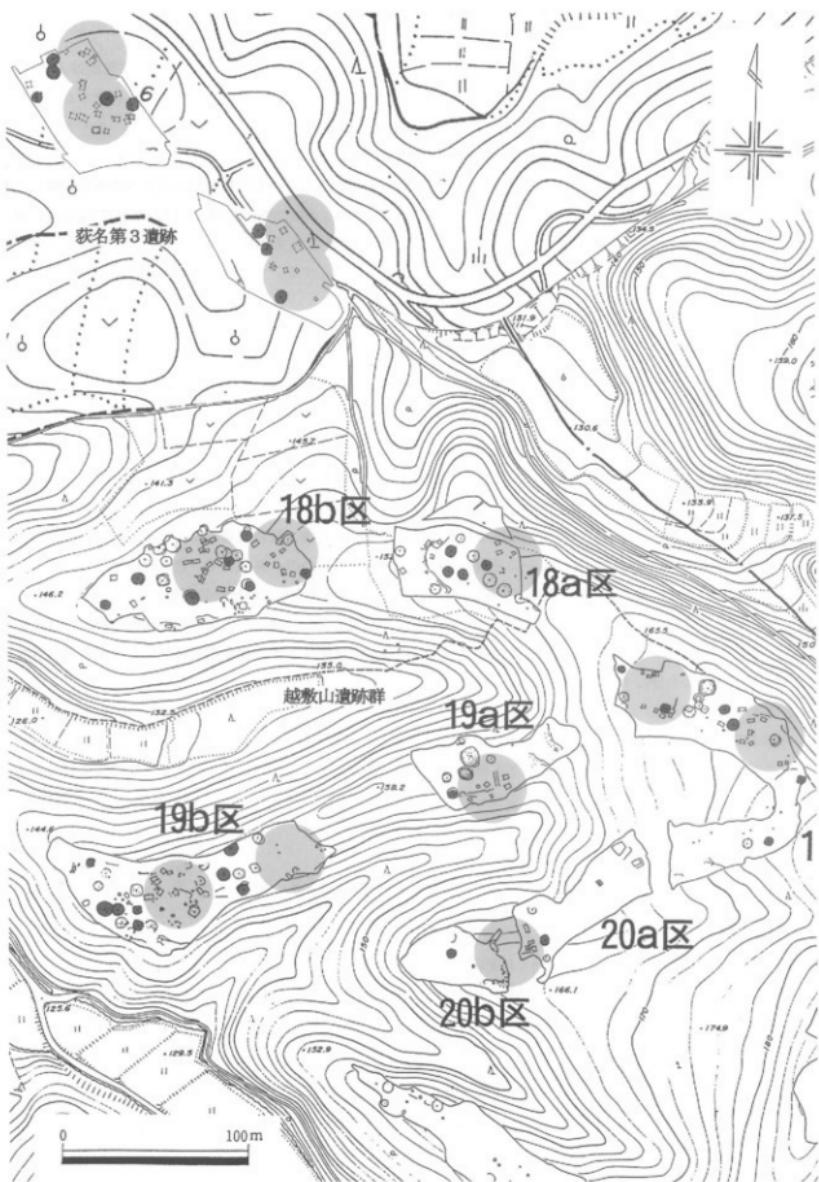
越敷山遺跡群の集落は弥生時代中期後葉に小規模な集落が営まれた後、後期前葉に姿を消す。後期中葉に再び人々が集住し、その規模は中期をはるかに上回る。後葉に縮小するものの、終末まで一定の規模を有している。後期前葉の空白期間と後期中葉に突出する集落規模の拡大が、地域間抗争などの社会的背景によるものであれば、出土する鉄鎌は軍事的緊張を示唆するものとして捉えることもできよう。淀江・大山町の妻木晩田遺跡では防衛拠点とみられる後期前葉の環濠集落の背後に後期中葉の居住区が展開するが、越敷山遺跡群にも後期前葉の前線的な地区の存在は十分に予想される。今後の調査に期待したい。

6. おわりに

今回の発掘調査は現場に水源がなく、また例年になく暑い日が続く中での作業になりました。そのような中、発掘作業員の皆様には、未熟な調査員を支えながら献身的に作業をしていただきました。また整理作業員の皆様には様々な面で御協力いただきました。最後になりましたが、作業に従事していただいた方々、そして御指導、御協力いただいた方々に厚く御礼を申し上げます。

参考文献

- 中川 寧「山陰の後期弥生土器における編年と地域間関係」『鳥根考古学会誌』第13集 1996年
- 都出比呂志「日本農耕社会の成立過程」岩波書店 1989年
- 湯村 功「庄内式併用型の山陰の様相」「庄内式土器研究」18 1998年
- 財団法人鳥取市教育福祉振興会『西大路土井遺跡』1993年
- 会見町教育委員会・岸本町教育委員会『越敷山遺跡群』1994年
- 会見町教育委員会『天王原遺跡発掘調査報告書』1993年
- 財団法人鳥取県教育文化財団『天萬土井前遺跡』1997年
- 兵庫県教育委員会『北摂ニュータウン内遺跡調査報告書Ⅱ』1983年
- 兵庫県教育委員会『北摂ニュータウン内遺跡調査報告書Ⅳ-有鼻遺跡(1)-』1999年
- 兵庫県教育委員会『玉津田中遺跡 第6分冊』1996年
- 津山市教育委員会『沼E遺跡Ⅱ』1981年
- 津山市教育委員会『別所谷遺跡』1994年



挿図50 越敷山IV期の集落分布図

図版

図版 1

調査前遠景 [1区]
(南東から)



調査前遠景 [1区]
(北東から)



調査前遠景 [2、3区]
(南東から)



図版 2



調査後遺景 [1区]
(北西から)



調査後遺景 [1区]
(東から)



調査後遺景 [1区]
(北東から)

図版 3

調査後遠景 [1, 2, 3区]
(南東から)



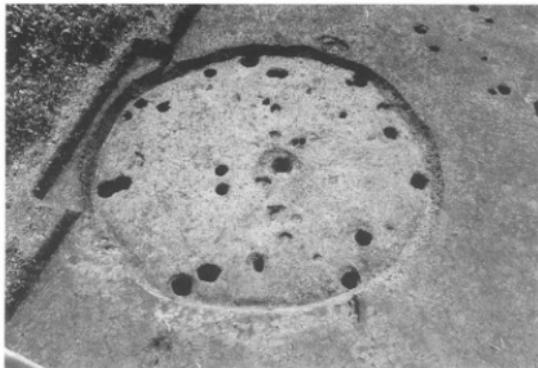
調査後遠景 [2, 3区]
(北西から)



調査後遠景 [2, 3区]
(南西から)



図版 4



SI01完掘状況
(北北西から)



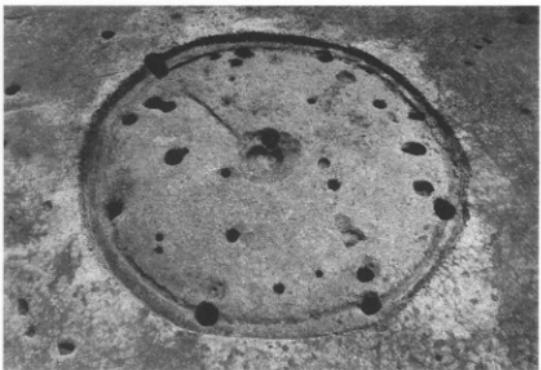
SI01F-F' 土層断面
(南西から)



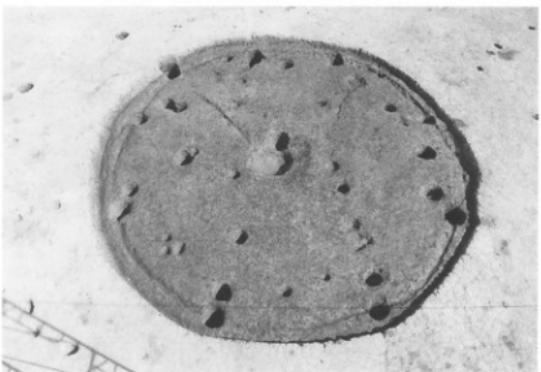
SI01壺10出土状況
(東から)

図版 5

SI02-b 完掘状況
(北西から)



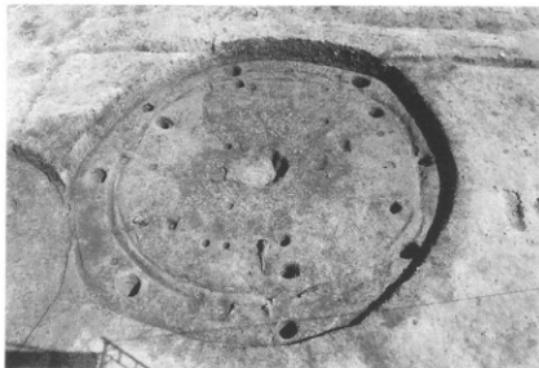
SI02-a 完掘状況
(北西から)



SI02有孔鉢30出土状況
(南から)



図版 6



SI03- c 完掘状況
(西から)



SI03- a , b 完掘状況
(西から)



SI03, 06A-A' 土層断面
(東から)

図版 7



SI03C-C' 土層断面 [西半] (南から)



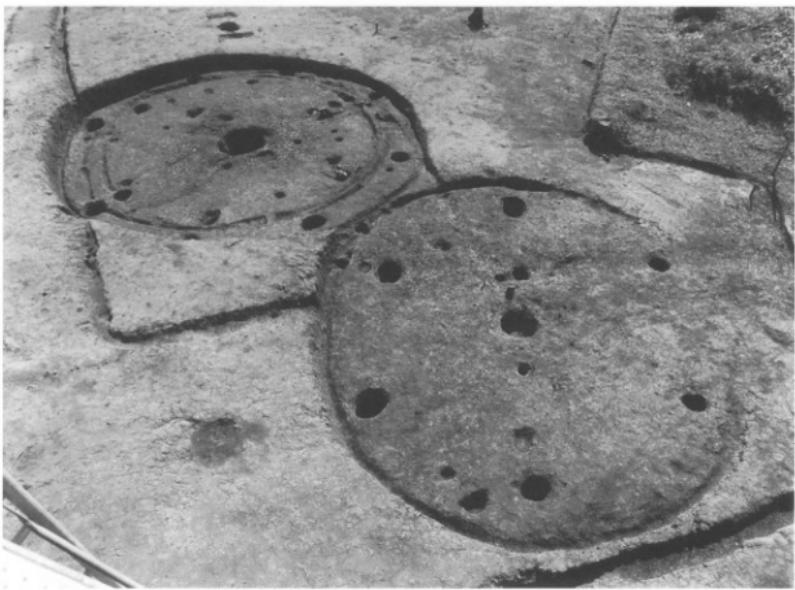
SI03C-C' 土層断面 [東半] (南から)



SI03遺物出土状況 (南南東から)

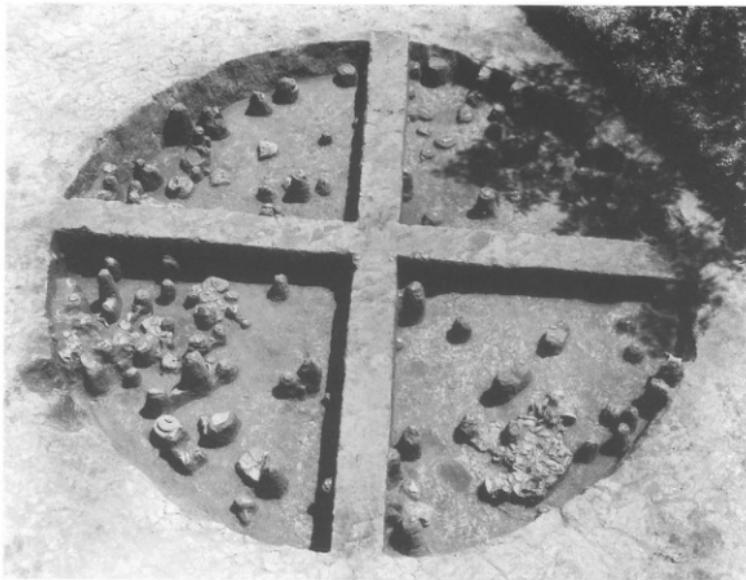


SI06遺物出土状況 (南西から)

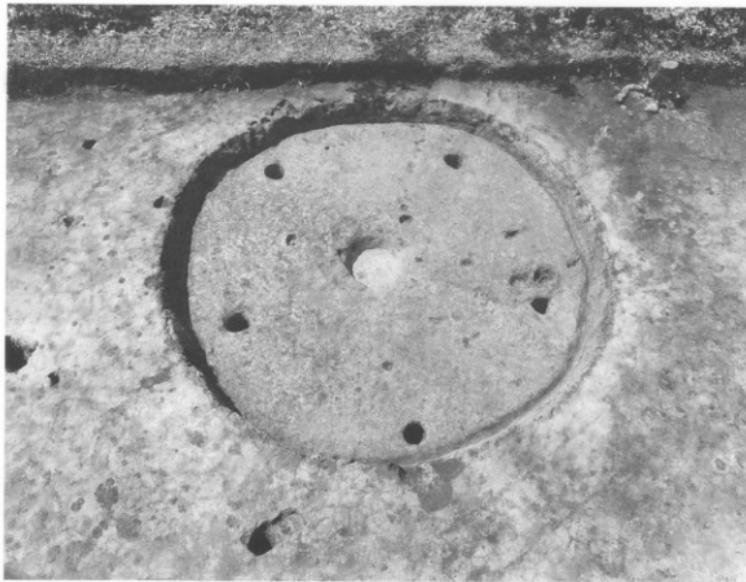


SI03, 06完掘状況 (北東から)

図版 8



SI04遺物出土状況（北から）



SI04発掘状況（東から）



SI04北西側遺物出土状況（南西から）



SI04北東側遺物出土状況（南東から）

図版10



SI04南東側遺物出土状況（南西から）



SI04北東側遺物出土状況（北西から）

図版11

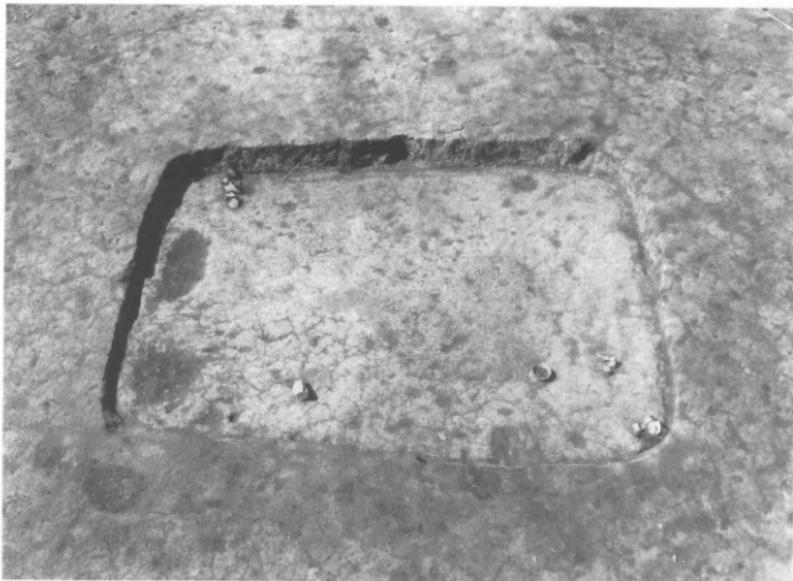


SI04南西側遺物出土状況（北西から）

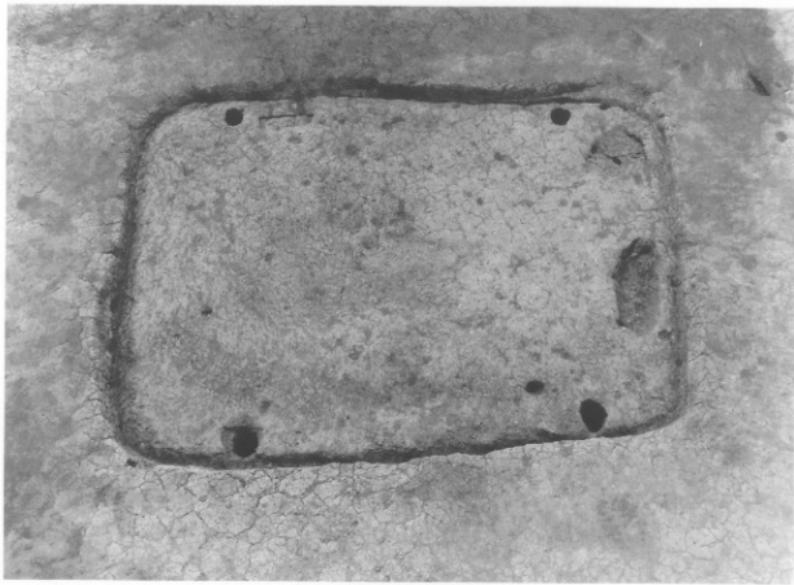


SI04北西側遺物出土状況（北東から）

図版12

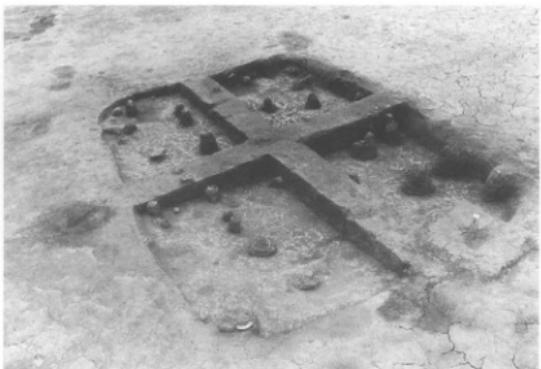


SI05床面遺物出土状況（南から）



SI05完振状況（北から）

SI05遺物出土状況
(南東から)



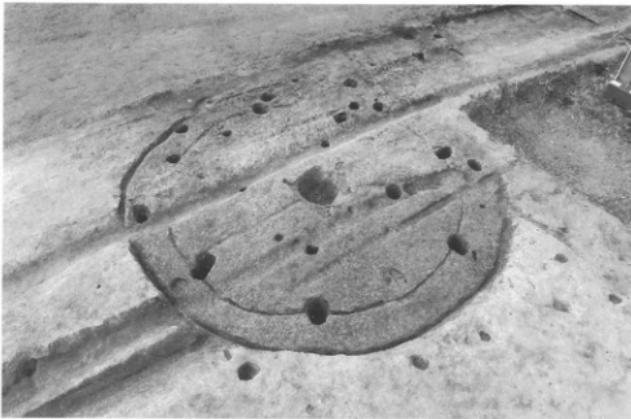
SI05D-D' 土層断面
(西から)



SI05-P 5 土層断面
(北から)



図版14



SI07完掘状況（東から）



SI08完掘状況（東から）



SI08遺物出土状況（東から）



SI08-E' 土層断面（南から）



SI07遺物出土状況（北西から）



SI07A'-A土層断面（東から）



SI09遺物出土状況（北西から）

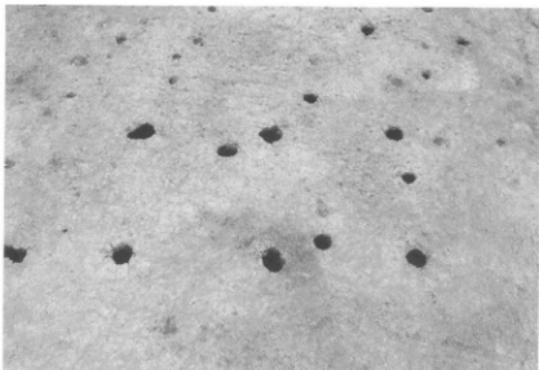


SI09-a 中央ピット土層断面（南から）

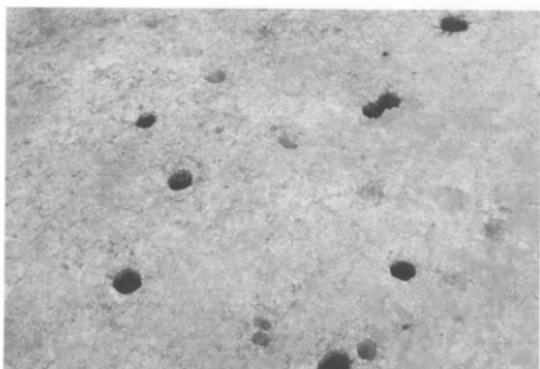


SI09, 07完掘状況（南東から）

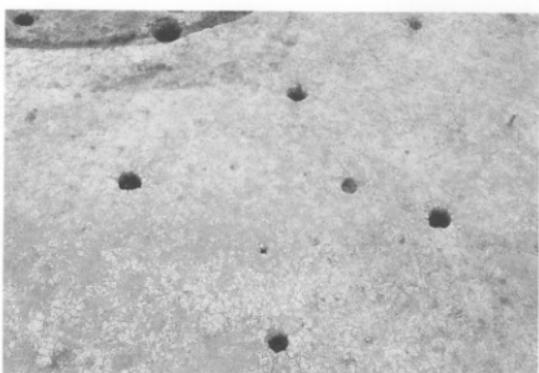
図版16



SB04, 05完掘状況
(東から)

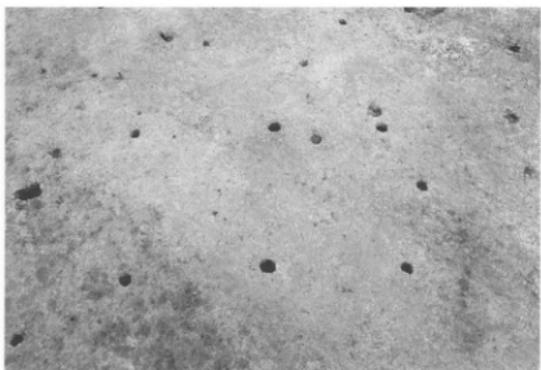


SB06完掘状況
(南南東から)



SB07完掘状況
(西から)

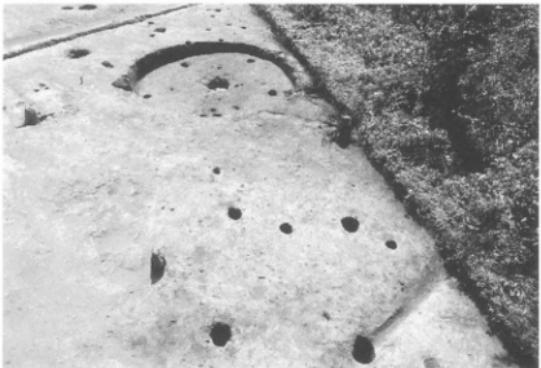
SB09完掘状況
(南西から)



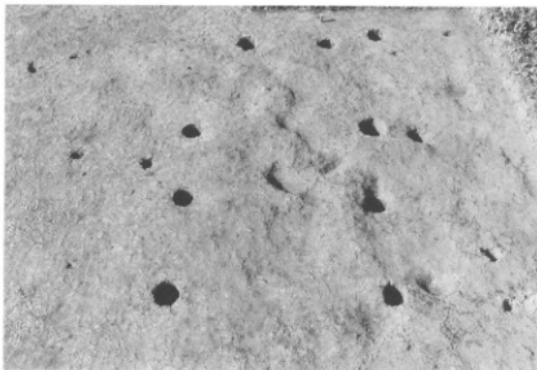
SB11, 12, 13完掘状況
(南から)



SI04, SB15完掘状況
(北北東から)



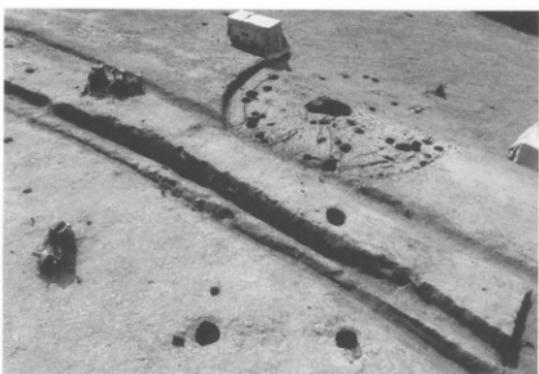
図版18



SB20完掘状況
(南東から)



SB22, 23完掘状況
(北西から)

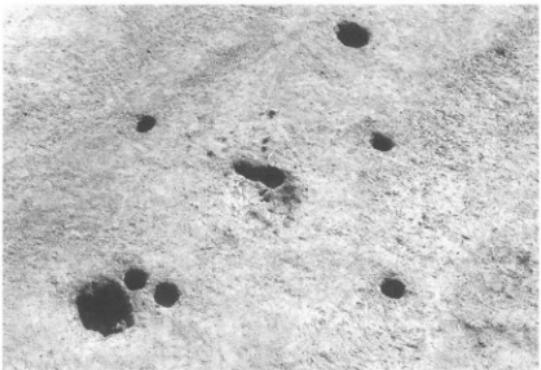


SB24完掘状況
(北から)

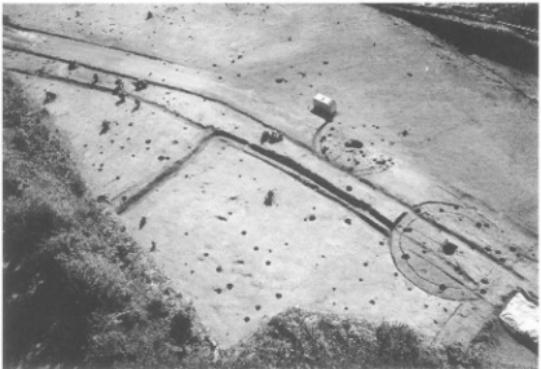
SB25完掘状況
(北西から)



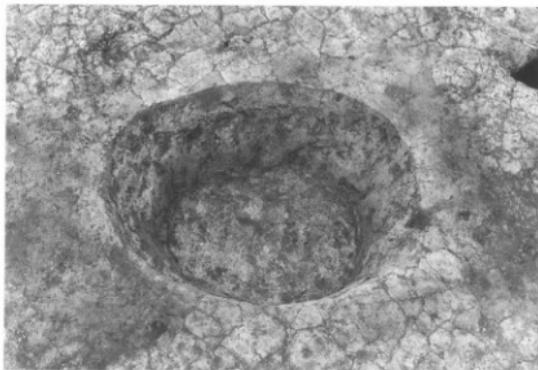
SB26、27完掘状況
(北東から)



2、3区中央遺構群
(北から)



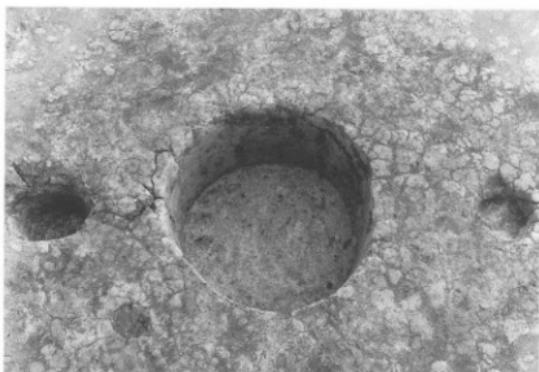
図版20



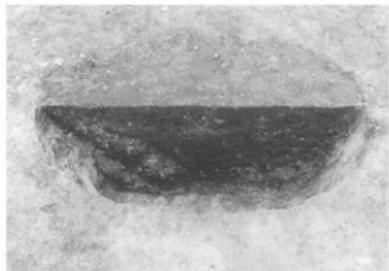
SK01完掘状況
(南西から)



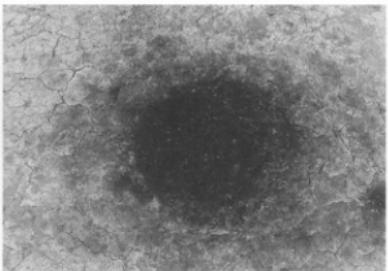
SK02完掘状況
(南から)



SK04完掘状況
(北から)



SK01土層断面（南西から）



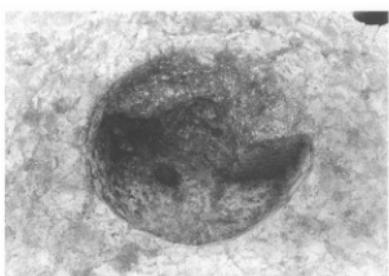
SK02検出状況（南から）



SK02土層断面（南から）



SK02土層断面（南から）



SK02遺物出土状況（南から）



SK04土層断面（南から）

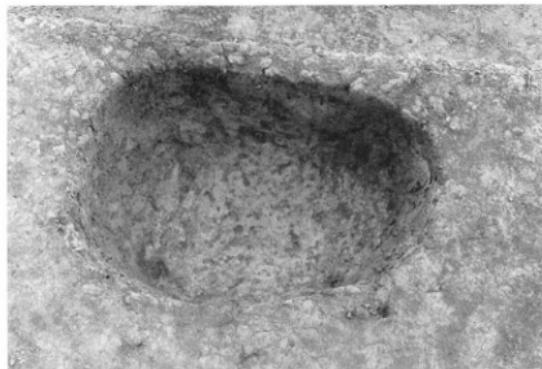


SK04埋土下層検出状況（北から）

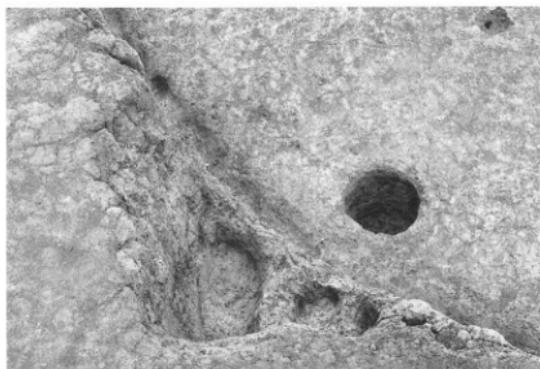


SK04埋土下層土層断面（北から）

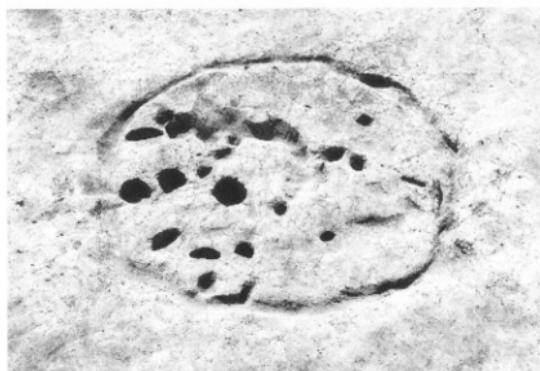
図版22



SK06完掘状況
(北東から)



SK12完掘状況
(北北東から)



SK11完掘状況
(北東から)



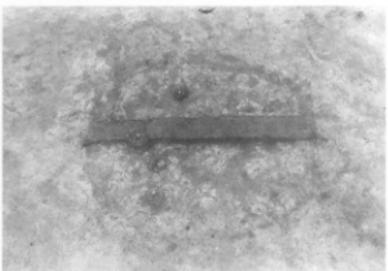
SK06土層断面（北北東から）



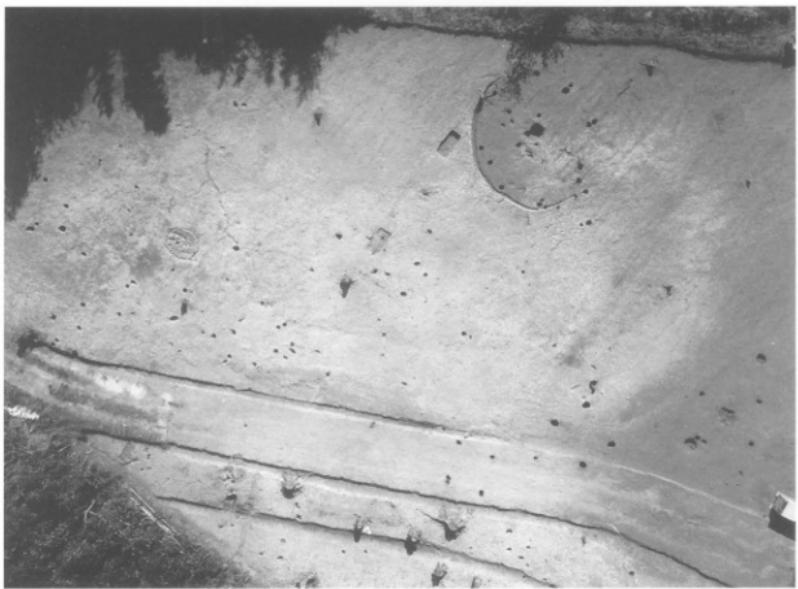
SK12土層断面（南東から）



SK11土層断面（南西から）

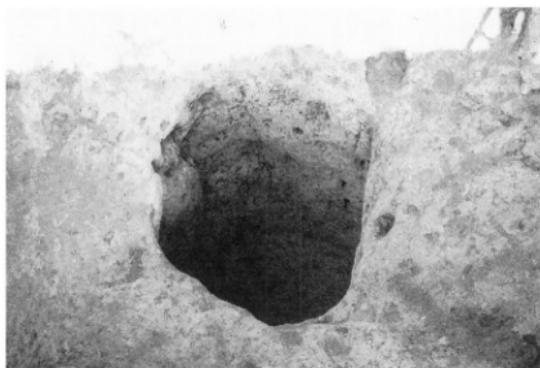


SK11遺物出土状況（南西から）

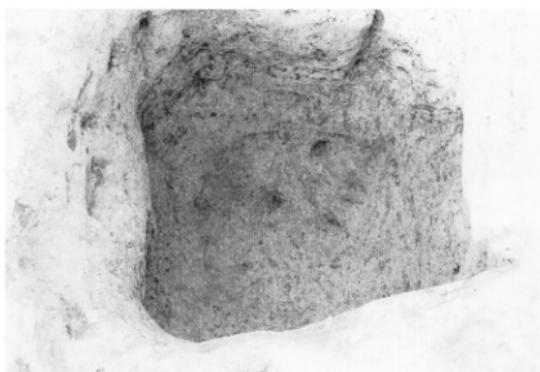


2区東側遺構群（北から）

図版24



SK15完掘状況
(南西から)



SK15底面
(南東から)



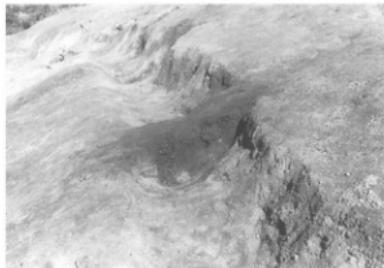
SK15土層断面
(南から)



SS01完掘状況（東から）



SD16完掘状況（南南東から）



SD16A-A' 土層断面（南から）



SD16B-B' 土層断面（南から）

図版26

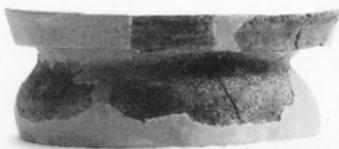


SI01



39

10



24



40

SI03



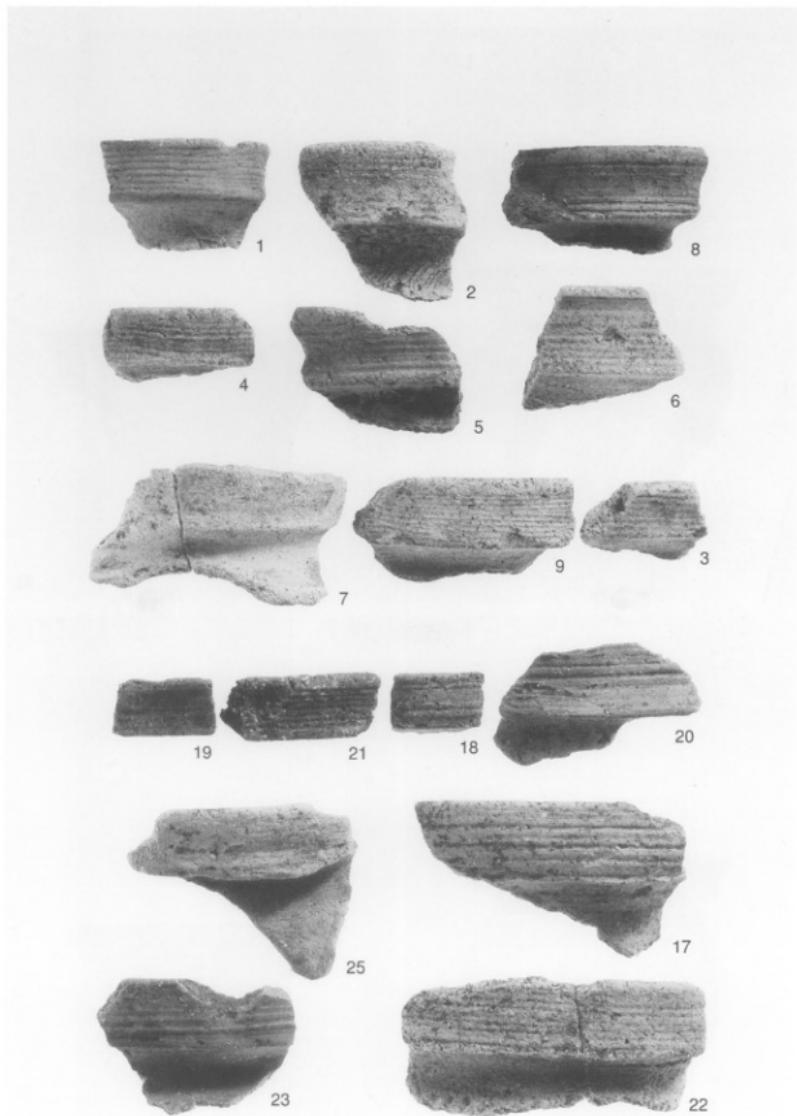
30



29

SI02

SI01, 02, 03出土土器



SI01, 02出土土器

図版28



57

83

90

84

SI04出土土器（1）



50

56

51

55

SI04出土土器 (2)

図版30



88



59



60



53

SI04出土土器（3）



87

70



89

97

SI04出土土器 (4)

図版32



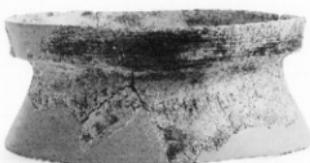
64



95



49



67



66



58

SI04出土土器 (5)



76



77



92



78



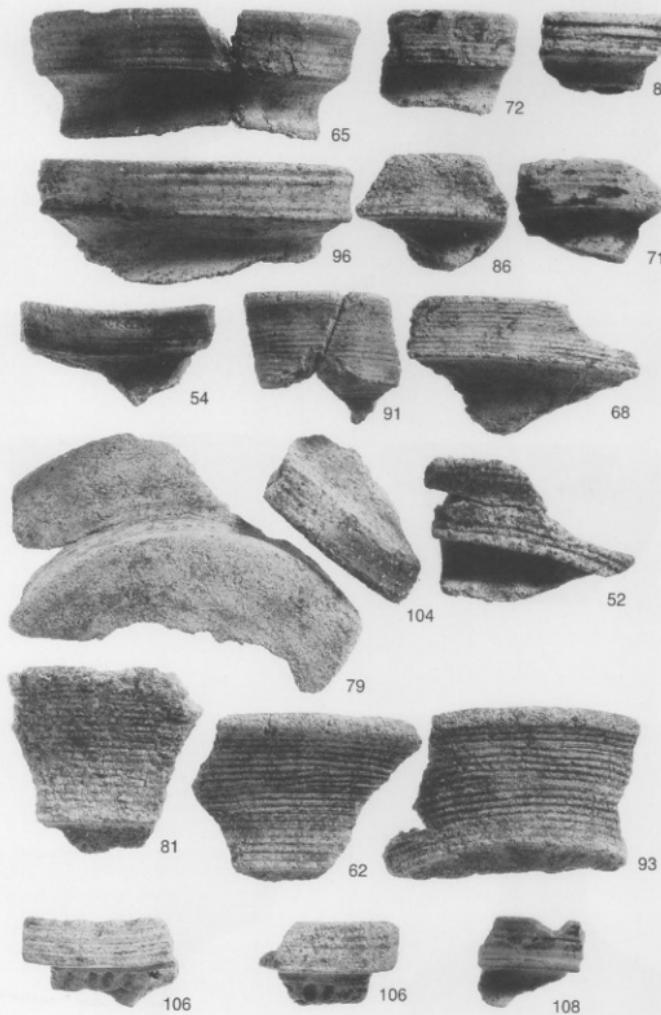
105



80

SI04出土土器 (6)

図版34



S104, 05出土土器



107



114



109

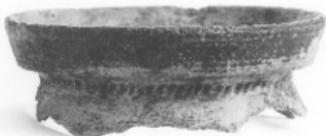


139



111

SI05

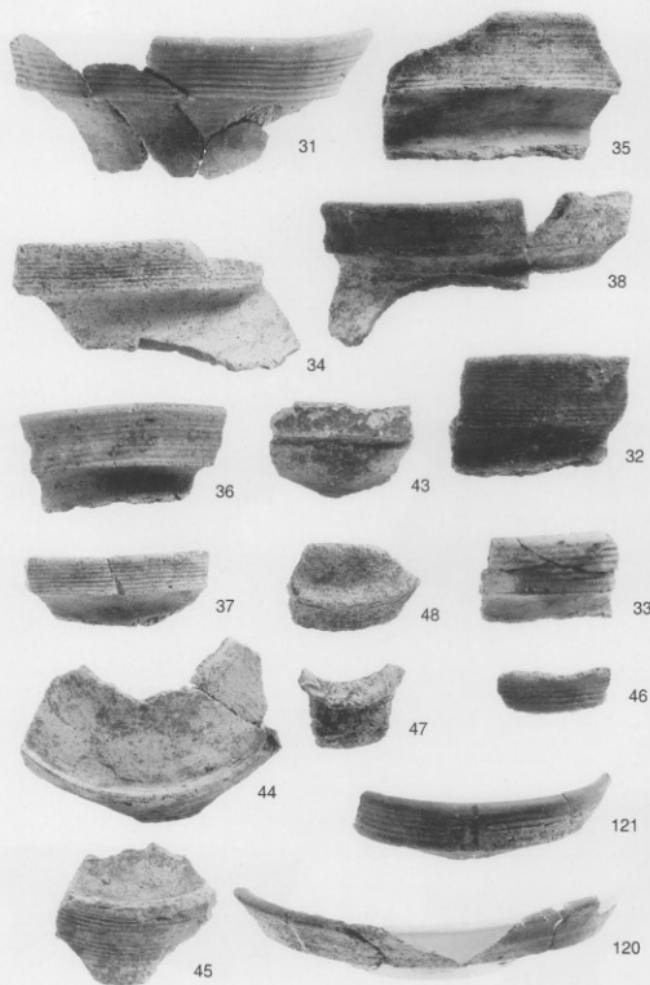


142

P1097

SI05, 07, ピット出土土器

図版36

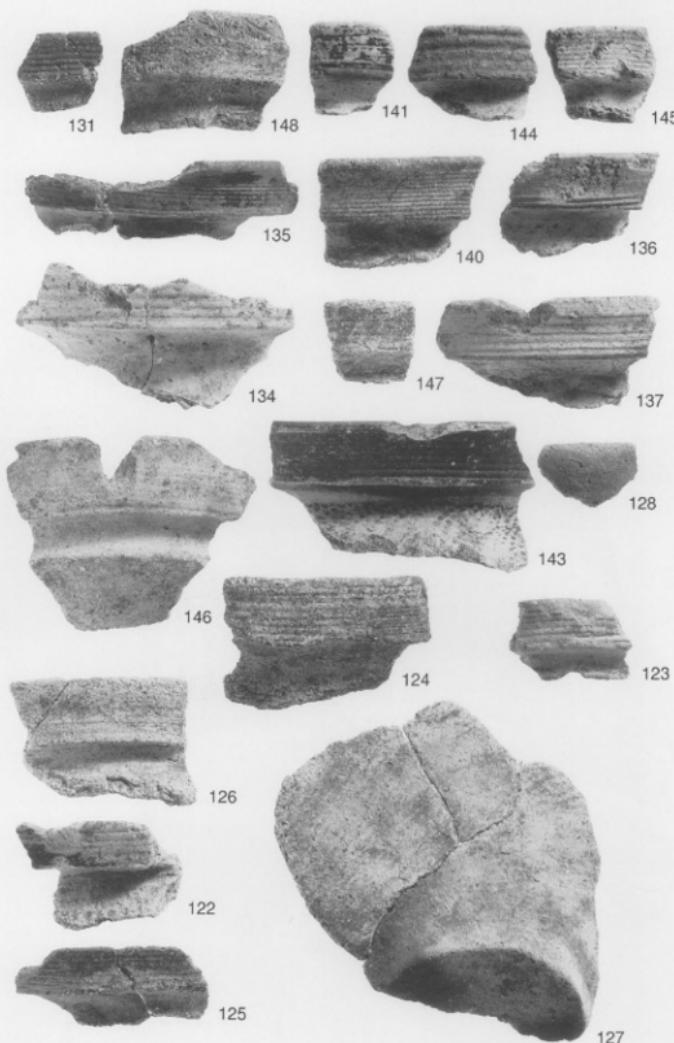


S103, 06, 07出土土器

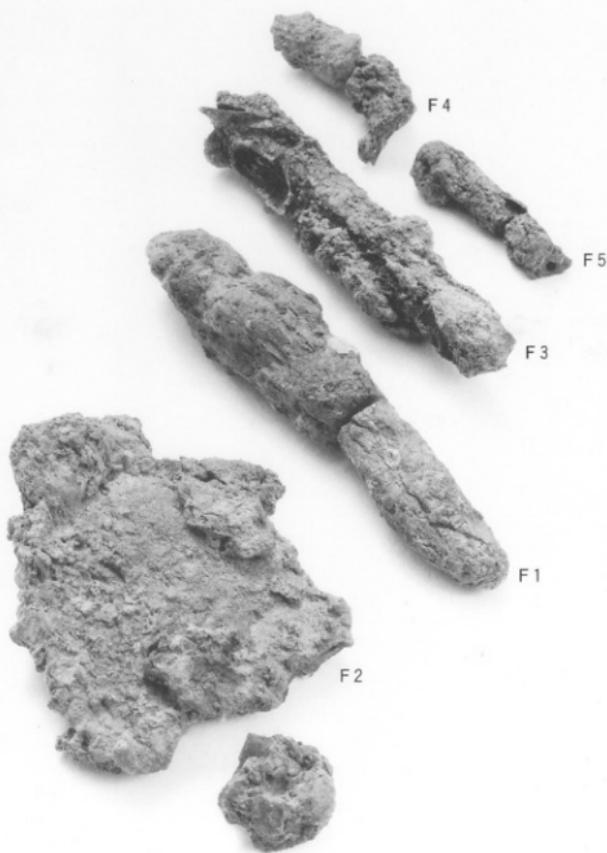


获名第3遺跡出土石器

図版38



SI08, 09, ピット, 土坑, 遺構外出土土器



荻名第3遺跡出土鉄器・鉄製品

報告書抄録

ふりがな	こしきさんいせきぐん～おぎなだいさんいせき～							
書名	越敷山遺跡群～获名第3遺跡～							
副書名	一級町道諸木鶴田線道路改良事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書							
卷次								
シリーズ名	鳥取県教育文化財調査報告書							
シリーズ番号	63							
編著者名	家塚英詞、柴田親臣、塙田文子							
編集機関	財団法人鳥取県教育文化財団 鳥取県埋蔵文化財センター							
所在地	〒680-0151 鳥取県岩美郡国府町宮下1260 Tel. 0857-27-6711							
発行年月日	西暦2000(平成12)年3月31日							
所取遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
获名第3遺跡	鳥取県西伯郡 会見町获名 字天野、 字上ヶ市、 字上ナル	31832	337	35度 21分 51秒	133度 23分 45秒	19990401 ～ 19991029	6,050	一級町道 諸木鶴田 線道路改 良事業に 係る調査
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
获名第3遺跡	集落跡	弥生時代	竪穴住居跡 9 掘立柱建物跡 27 土坑 7 溝状遺構 1 段状遺構 1 ピット 444	弥生土器 石器・石製品 鐵器・鐵製品			会見町、岸本 町教育委員会 が、1989年に 発掘調査した 越敷山遺跡群 と一体の遺跡	

鳥取県教育文化財団調査報告書 63

一般町道諸木鶴田線道路改良事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

鳥取県西伯郡会見町

越敷山遺跡群

荻名第3遺跡

発行 2000年3月31日

編集 財團法人鳥取県教育文化財団

鳥取県埋蔵文化財センター

〒680-0151 岩美郡国府町宮下1260

電話 (0857) 27-6711

発行者 財團法人 鳥取県教育文化財団

印刷 有限会社 米子プリント社